分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	1	情報リテラシー	1	20	1年次前期	院内講師 非常勤講師	○

テキスト （発行所）	なし 資料を配布する
副教材、 参考図書	なし

学習のねらい

1．情報社会の現状を学び、情報リテラシーを向上させる。

2．患者がうける看護や医療は、多くの研究や実践から導き出された科学的根拠に基づいて選ばれるべきである。本授業では、科学的な根拠に基づいたデータを見極めるために大切な論理的手続きについて学ぶ。また、そのようなデータからどのように意味のある情報を引き出すか、基本的な統計知識をおさえ、看護や医療に必要な根拠に基づいた情報を精査できる力を身につける。

学習目標

1．社会における情報のIT化について学び、日常生活や医療の場面での情報倫理を理解する。
2．科学的な論証手続き、根拠に基づいたデータを獲得するために大切な手続きを知る
3．統計学の利点と注意点を理解できる
4．記述統計の技法を知り、データの特徴を把握することができる
5．推測統計の手続きを知り、手元にあるデータから全体の傾向を推測する方法を知る

各回の主題、履修形態

院内講師(6時間：講義内容の予定)
第1回　様々なデータと情報管理、インターネットセキュリティ
第2回　ソーシャルネットワーク
第3回　病院で取り扱う個人情報

非常勤講師（14 時間：講義と演習）

第 1 回　医学・看護統計学の意義　統計の利点と注意点

第 2 回　記述統計　代表値と散布度

第 3 回　相関分析

第 4 回　質問紙法の特徴と注意点について

第 5 回　推測統計の導入　EBM と実証的なデータをとるときの注意点

第 6 回　推測統計の考え方

第 7 回　実際の研究計画と検定

単位認定の方法

20 時間のうち 16 時間以上の出席があること

終講レポートまたは試験で 100 点中 60 点以上の得点があること

受講上のアドバイス

ノートパソコン又はタブレット端末などを用いた授業内容になるので、校内での使用上のルールを守って学習をすすめてください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	2	医療と AI	1	15	２年次前期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	マンガでわかる人工知能　三宅陽一郎監修　2017　池田書店
副教材、参考図書	

学習のねらい

テクノロジーと情報技術の活用を学び、医療、看護活動に役立てるための基礎的能力を身につける

学習目標

１．　人工知能（AI）と情報通信技術の基礎知識を学び、社会における活用や動向を知る

２．　医療分野におけるロボット、AI の活用について知る

各回の主題、履修形態

人工知能とは、人工知能の誕生と背景、機械学習について

AI による内視鏡画像診断の解析・診断支援

医療 AI の本格導入に向けての課題

人工知能の臨床活用例(遠隔診療システム、VR 機器・医療ロボット、介護ロボット)

社会での利活用例（コミュニケーション機器等）

人工知能とこれからの社会

単位認定の方法

15 時間のうち、12 時間以上の出席があること

終講試験(レポート試験)で 100 点中 60 点以上の得点があること

受講上のアドバイス

看護学を学ぶための基礎知識として、1 年次の「情報リテラシー」の学習に加えて、情報通信技術（Information and Communication Technology：以下、ICT）を活用する基礎的能力が必要です。AI と共生する未来社会での看護活動に向けて、AI と人間との違いについて理解し、動向に関心を持ち続けてください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	3	倫理学	1	20	３年次後期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	テーマで読み解く　生命倫理、教育出版
副教材、参考図書	なし

学習のねらい

倫理学的な考え方を通して、人間の存在、価値観、ものの見方を学ぶ。自己の倫理観をもつことができる。

学習目標

１．倫理学の代表的理論の基礎知識を理解する。
２．現代社会の生命倫理の諸問題を倫理的な観点から考察し、自分の倫理観を作る。

各回の主題、履修形態（講義、演習）

第 1 回　義務論と目的論
第 2 回　生命倫理の四原則
第 3 回
第 4 回　臨床における倫理課題　GW
第 5 回
第 6 回
第 7 回　臨床における倫理課題　GW
第 8 回
第 9 回　臨地実習の体験から倫理課題について GW
第 10 回

準備物品　なし

単位認定の方法

20 時間のうち、16 時間以上の出席があること
授業中のグループ作業等の平常点(40%)及び講義終了後に提出する個人作成のレポート(60%)で成績を評価する

受講上のアドバイス

講義の後、提示したテーマについて、協力し合ってグループで作業をしてください。

発表の際には、積極的に発言をしてください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	4	学びの技法Ⅰ	1	30	1年次通年	非常勤講師 専任教師	○

テキスト（発行所）	藤川とも子著、マンガでわかる！すぐに使えるNLP　日本実業出版社 辰元宗人、マインドマップでつながる！わかる！解剖機能症状疾患 配布資料
副教材、参考図書	講義の中で紹介

学習のねらい

創造的思考力、批判的思考力(クリティカルシンキング)、概念的思考力、内省的思考力が統合できるように、体験的に学ぶ技法を身につける。

学習目標

1．数・ことば・絵・形などを使った多様な学び方を体験することを通して、さまざまな学習方法を理解する。
2．マインドマップの理論を学び、日々の学習や臨地実習で活用することができる。
3．新しい学び方を身につけ、情報や知識を活用するための思考力を身につける。

各回の主題、履修形態

第1回、第2回：講義・演習（専任教師担当）
　マインドマップ入門、マインドマップの基本と活用方法
第3回：講義・演習
　NLP（Neuro Linguistic Programing）入門
　ＮＬＰの前提　イメージと五感、ＴＥＦＣＡＳについて
第4回：講義・演習
　Doodleとは、TEFCASで振り返り
　顔の表情、第６回の準備について
第5回：講義・演習（専任教師担当）
　看護学で活用するためのマインドマップ・グループマインドマップ
第6回：講義・演習
　数のイメージ、ゴムかけ、エクササイズ

第 7 回：講義・演習
　　文字が伝えるもの
　　伝える体験
第 8 回：講義・演習
　　感覚（V.A,K）の優位を知る
　　学習の 5 段階について
第 9 回：講義・演習
　　メタ認知
　　ディソシエート、アソシエート、視線について
第 10 回：講義・演習
　　感覚器官（視聴触覚）のワーク、H,W（味覚・嗅覚）
第 11 回：講義・演習
　　ゼンタングル、ワークショップとグループでの完成
第 12 回：講義・演習
　　臨床美術（クリニカルアート）
第 13 回：講義・演習
　　NLP のワーク　VAK を使って
第 14 回：講義・演習
　　経験学習とリフレクションカード
第 15 回：講義・演習
　　Q&A とまとめ

準備物品

時間割提示の際および講義の前日までに指示する

単位認定の方法

３０時間のうち２４時間以上の出席があること
毎々の振り返り提出で 50 点分(専任教師部分 10 点、非常勤講師部分 40 点）　と
終講（またはレポート）試験 50 点　の合計が 60 点以上あること

受講上のアドバイス

自分の特長に合わせた学び方を知ることで、他者にとっての学び方を尊重できるようになってほしいと思います。
看護師として対象者によりそい、その人らしい学びを支えられるように、自らも新しい技法を身につけるべく一歩を踏み出しましょう。
真剣に、ともに学びの時間を楽しみましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	5	学びの技法Ⅱ	1	30	2 年次通年	非常勤講師 専任教師	○

テキスト （発行所）	配布資料 文献抄読：演習時にグループごとに指定する
副教材、 参考図書	マンガでわかるすぐに使える NLP（前年度のもの継続）

学習のねらい（学びの技法Ⅰ・Ⅱを通して）

創造的思考力、批判的思考力、概念的思考力、内省的思考力が統合できるように、体験的に学ぶ技法を身につける。

学習目標

1．教育とは何か、概念を学び、「教える-学ぶ」関係について考える
2．学びの場を活かし、自己を成長させるための目標と評価論を理解する
3．書物を読み、他者との意見交流を通して、作者の意図を多角的に捉え直し、自分の意見を構築する力を身につける

各回の主題、履修形態

＊講義と演習は並行してすすめます。時間割表の担当教師欄を確認して準備し、授業に臨んでください

講義：7 回（14 時間）非常勤講師

1 回目　教育と学習　①
2 回目　教育と学習　②
3 回目　学びにおける目的と目標
4 回目　成人教育
5 回目　メンタルモデル
6 回目　評価
7 回目　まとめの発表

演習：8 回（16 時間）：担当教員を含めた小グループで演習をすすめる

演習は 4 月から 12 月までかけて少しずつすすめます
文献については、事前に別途提示されたものを、各自で準備して臨んでください

1 回目　　文献抄読のすすめ方、メンバー紹介
2 回目
3 回目
4 回目
5 回目　　小グループで文献抄読
6 回目
7 回目
8 回目

準備物品

必要時、知らせます

単位認定の方法

３０時間のうち２４時間以上の出席があること
以下の(1)と(2)の合計が 60 点以上あること

(1)非常勤講師の講義で毎々の振り返り 5 点×7 回＝35 点
(2)文献抄読　に関する課題　65 点分　詳細は後日提示

受講上のアドバイス

1 年次の「学びの技法Ⅰ」をふまえて各テーマを学び、提示された課題に対してしっかり取り組み、自らの思考内容を他者に伝えるよう努めましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	6	人間関係論	1	30	２年次後期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	なし
副教材、参考図書	なし

学習のねらい

人間関係を通して自己洞察を深める。また、看護に必要なコミュニケーションの技法について学び、円滑な人間関係形成に役立てる。

学習目標

カウンセリングの技法を援用し、話を聞く姿勢を学び、看護におけるコミュニケーション能力を向上させる。

各回の主題、履修形態

第１回（講義）『聴くこと』の意味
第２回（講義・演習）自己理解・他者理解
第３回（講義）自己理解・他者理解　非言語的コミュニケーション
第４回（講義・演習）傾聴のあり方
第５回（演習）傾聴のあり方
第６回（講義）傾聴のあり方
第７回（演習）傾聴のあり方
第８回（演習）傾聴のあり方
第９回（演習）自己理解・他者理解
第１０回（講義）傾聴のあり方
第１１回（演習）傾聴のあり方
第１２回（演習）傾聴のあり方
第１３回（演習）傾聴のあり方
第１４回（演習）（13 回と同日に引き続き）
第１５回（講義・演習）講義のまとめ

準備物品

随時、指示する

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．出席と講義後の振り返りレポートを加味し、終講後のレポートで評価

受講上のアドバイス

講義や実習は多少前後することがあるかもしれませんが、講義の最後に次の予告をします。

講義中は集中して、自分自身や他者のあり方などに、新たな気づきを得ていく時間にしてください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	7	いのちとセルフケア	1	30	1 年次前期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	医療原論（医歯薬出版）　渡邉勝之編著 医学・医療原論（錦房）　渡邉勝之編著
副教材、参考図書	医学・看護・福祉原論（ビーイング・ネットプレス）　渡邉勝之編著

学習のねらい

東洋の伝統医学的な、からだとこころの構造と機能および養生(セルフケア・自助)について学ぶ。
医学・医療の歴史をふまえ、現在を知り、未来について考える。実習において身心技法を実践する。

学習目標

伝統医学は、西洋医学の概念にはない、気・経絡などを重視する医学です。また、病気を治すことよりも、病気にならないように養生すること、元気を重視します。その具体的な方法を学び、体験する。

各回の主題、履修形態、

第１回（講義）医学・医療・看護・福祉とは１
第２回（講義）医学・医療・看護・福祉とは２
第３回（講義）生命観・身体観・健康観・疾病観１
第４回（講義）生命観・身体観・健康観・疾病観 2
第５回（実技）看護に活かす心身技法　（2 グループに分かれて実施）
第６回（講義）インドの伝統医学：アーユルヴェーダの歴史および自然観と身体観
第７回（講義）ギリシャの伝統医学：ユネニ・ティブの歴史および自然観と身体観
第８回（講義）近代医学の発祥および伝統医学との相違
第９回（講義）中国の伝統医学：中医学の歴史および自然観と身体観
第１０回（講義）日本の医学の歴史１
第１１回（講義）日本の医学の歴史２＆身心技法２
第１２回（講義）東洋医学の診察法１（全身望診・局所望診：古診・顔面診・爪甲診）
第１３回（講義）東洋医学の診察法２（聞診・問診・切診：腹診・背診・反応点　など）
第１４回（講義）東洋医学の診察法３（脈診および四診合参：診察法のまとめ）
第１５回（実技）看護に活かす、診察法・手当て・セルフケア（2 グループに分かれて実施）

準備物品

その都度提示する

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること
２．レポート評価における 60 点以上の得点
３．平常点およびレポートを総合して、単位認定を行う

受講上のアドバイス

東洋も西洋もほとんど同じ、自然観・身体観に基づいた医学・医療が実践されていました。
ルネッサンス以降、近代医学は伝統医学と大きく袂を分かち、独自に発展を遂げ、現在に至っている。また世界的には、統合医療が注目され、病気の治療から健康に重心が移行しつつある。
伝統医学と看護学は類似性が非常に高い。伝統医学の基礎を理解し、看護師として、臨床現場で役立てて頂きたい。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	8	社会学	1	30	1年次前期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	『ふれる社会学』(2019)　ケイン樹里安・上原健太郎編（北樹出版）
副教材、参考図書	

学習のねらい

社会的存在である人間を理解するとともに、社会現象を多面的にとらえる視点を学ぶ。

学習目標

1．「社会学的なものの見方」を習得する。

2．社会学的なものの見方を学び、自らの日常を違った角度からいま一度眺めてみる。

各回の主題、履修形態（講義、視聴覚教材）

回数	主題	学習内容	履修形態
1	社会学とは	社会学と社会科のちがい	講義
2	パフォーマンスする人々	・行為と演技 ・印象操作	講義
3	「就活」からわたしたちの社会を考える	・自己呈示 ・文化装置	講義
4	あなたが「労働」で売りにしているものは？	・感情労働 ・やりがいの搾取	講義
5	「好きなこと」を仕事にするとは	・アイデンティティの労働 ・ポストフェミニズム	講義
6	都市-観光・文化	・観光のまなざし ・地域アイデンティティ	講義
7	「スニーカー」から社会を考える	・節合（アーティキュレーション） ・経路（ラウツ）	講義

8	ポピュラー音楽と社会①ヒップホップ	・人種化 ・エスニシティ	講義
9	ポピュラー音楽と社会②K-POP	・文化コンテンツの越境	講義
１０	レインボーとジェンダー（「男らしさ」「女らしさ」とは）	・ジェンダー ・社会構築主義	講義
１１	理想の身体をつくる化粧・ダンス	・パフォーマティヴィティ ・表象 ・まなざし	講義
１２	ハリウッド映画と女性表象	・フェミニズム	講義
１３	障害と家族の社会学	・障害の個人モデル/社会モデル ・近代家族論	講義
１４	オリンピックの社会学	・「復興」と経済 ・スポーツの社会学	講義
１５	まとめ	・「社会学する」こと ・試験について	講義

単位認定の方法

30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

終講試験又はレポート試験 100 点中 60 点以上の得点があること

受講上のアドバイス

社会学の基礎概念を学んだのち、具体的な社会現象についての理解と考察を深めるなかで、自身と社会とのつながりを捉え直せるようになることを目指します。そのため日頃からニュースや新聞等で時事に積極的に目を通しておくこと。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	9	心理学	1	30	1年次前後期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	なし
副教材、参考図書	

学習のねらい

心理学の基礎理論を通して、心身の発達と心の動きに関する要因や、人間関係を築くための基礎を学ぶ。

学習目標

1．こころの発達やこころの現象について理解する。
2．自己と他者のあり方、および対人関係の中で生じるこころの動きについて知る。
3．こころを眼差す姿勢をいかに看護へ活かすか考える。

各回の主題、履修形態（講義）

第１回　心理学について
　　対人認知と印象形成について
第２回　感覚と知覚　記憶
第３回　学習の仕組み、利用
　　学習理論の応用
第４回　動機づけについて
　　欲求を充足すること
第５回　円滑なコミュニケーションに向けて
第６回　発達心理学①　乳幼児から青年までの発達
第７回　発達心理学②　青年期・成人期の発達：精神分析より
第８回　パーソナリティ理論　心理検査について（前編）
第９回　心理検査について（後編）
第10回　ストレスとその影響　ストレスへの対処に向けて

第 11 回　こころの病、障害について
第 12 回　臨床心理学とは
　　心理療法・カウンセリング
第 13 回　深層心理学
第 14 回　心理療法の科学性
　　転移/非因果律的思考
第 15 回　看護と心理臨床

準備物品　　なし

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること。
２．終講後のレポートで 60 点以上を合格とする。

受講上のアドバイス

みなさんは普段、人の”こころ”についてどれぐらい意識していますか？

この授業では心理学を幅広く学び、こころに向き合おうとする際に役立つ知識や姿勢を身に付けていくことを目指します。心理学、というとなかなか取っつきにくく思われるかもしれませんが、こころについて考えるときの出発点は、みなさんが普段感じることや体験することです。それらを大事にしながら、授業を通して一緒にこころについて考えてみましょう。

この授業では心理学の基礎的な知識を学ぶとともに、こころの現象を考える際のひとつの視点として心理学の知見を参照できるようになってもらえればと思います。そして授業で学んだことを、これから自分自身や看護という仕事について考え、さらに患者さんに向き合っていく過程での手掛かりとしてください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	10	異文化論・ グローバルヘルス	1	30	1 年次後期	非常勤講師	○

テキスト （発行所）	なし、必要時配布
副教材、 参考図書	ワークブック　国際保健・看護基礎論　ISBN：9784861941498 田代 順子【監修】/堀内 美由紀/岩佐 真也【編】 （ＰＩＬＡＲ ＰＲＥＳＳ　2016/03）

学習のねらい

グローバルな視野から健康問題を考えることができ、その背景について興味を持つことができる。自分たちと他国の民族がもつ健康観や保健行動等との違いを理解し、それぞれの文化に適した看護を提供するための考え方を学ぶ。また保健医療分野における国際機関の役割や活動を理解する。

学習目標

1．グローバル化における健康問題について理解する。
2．保健医療分野における国際機関の役割や活動を理解する。
3．途上国における保健医療の現状と課題、その背景にある歴史・文化・社会構造等を理解する。
4．国際看護活動の実際を学び、看護活動で大事にしたいことが考えられる。

主題、履修形態

第１回―第３回　・世界の中の日本について知る　保健指標を読む
・「なぜルイスは死んだのか」社会的要因について考える（グループワーク①）

第４回―第６回　・開発途上国とは。保健指標と人々の暮らしについて（グループワーク②）

第７回―第９回　・貧困の連鎖について考える
・平和と命について考える
・グローバル化における健康問題

第 10 回―第 12 回　・プライマーヘルスケア
・国際看護活動の実際（セネガル）
・国際機関の役割と活動（グループワーク③）

第 13 回―第 15 回　・グループワーク③の発表
・異文化とは、その理解
・経済活動と発展（ゲームを通して考える）

単位認定の方法

プレゼンテーション（５０点）とレポート（５０点）の合計（１００点）で評価し、６０点以上で合格とする。

受講上のアドバイス

「なぜ、どうして」という疑問を持ち、自らその答えを模索することを重視しています。講義では、グループ、プレゼンテーションを予定しています。グループワークを通して自らの考え、調べたことを発言し、また相手の発言から、考え続けることの持つ意味を一緒に考えていきたいと思います。積極的に授業に参加してください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	11	医療英語Ⅰ	1	30	1年次後期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	English for Nursing 1　Vocational English Course Book,　PEARSON

学習目標

他言語（英語）を学び、積極的にコミュニケーションを図ろうという意欲がもてる。

医療や臨床で使う英語を学び、使えるようになる。

15回の主題

1．Unit1　Meeting　Colleagues
　1）Introducing　yourself to the team
　2）Reading　a nurse schedule
　3）Meeting　patients their visitors
　4）Escorting a patient for tests
2．Unit2　Nursing　assessment
　1）Checking patient details
　2）Describing symptoms
　3）Assessment common childhood diseases
　4）Taking a blood sample
3．Unit3　The　Patient Ward
　1）Monitoring body temperature
　2）The patient ward
　3）Nursing duties
　4）The qualities of a responsible nurse
4．Unit4　Food　and measurements
　1）Hospital food and beverages
　2）Measurement and quantities
　3）Helping a patient order from a hospital menu
　4）Assisting the patient at mealtimes

単位認定の方法

1．30時間のうち、24時間以上の出席があること
2．会話のテスト　60点以上で合格

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	12	医療英語Ⅱ	1	30	２年次前期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	English for Nursing 1　Vocational English Course Book,　PEARSON

学習目標

他言語（英語）を学び、積極的にコミュニケーションを図ろうという意欲がもてる。
医療や臨床で使う英語を学び、使えるようになる。

15回の主題

1. Unit５　The body and movement
   1）The body :Limbs and Joints
   2）The body :torso and head
   3）Setting goals and giving encouragement
   4）Documenting ROM exercises
2. Unit６　Medication
   1）Medication　routes and forms
   2）Dosages and frequency
   3）Side effects :assisting patients with medication
   4）Communicating with relatives by phone
3. Unit７　The　hospital team
   1）Moving and handling patients
   2）Communicating with team members by phone
   3）Ordering supplies
   4）Giving simple safety instructions
4. Unit８　Recovery and assessing the elderly
   1）Caring for a patient in the recovery room
   2）Removing sutures
   3）Taking about old age
   4）Assessing an elderly care home resident

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．会話のテスト　60 点以上で合格

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	13	人権と赤十字	1	30	1年次前期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	特に無し
副教材、参考図書	１．井上忠男：戦争と国際人道法　―その歴史と赤十字のあゆみー，東信堂，2015. ２．枡居孝・森正尚：新版　世界と日本の赤十字　―世界最大の人道支援機関の活動，東信堂，2014. ３．Pikitet，J：井上忠男訳：解説　赤十字の基本原則　―人道機関の理念と行動規範―，東信堂，2006.

学習のねらい

今日の人道上の問題を取り上げ、国際人道法の成り立ち、原則およびその履行確保について学ぶ。人道支援を行うに必要な行動規範について学び、人道の実践者となる看護師として必要な資質を身につける。

学習目標

１．国際赤十字・赤新月運動の歴史、理念、活動について理解する。
２．赤十字と国際人道法の基本原則、赤十字標章の正しい使い方、有事の行動規範等について理解する。
３．人道と人権の概念の理解を深め、人間尊重の文化の担い手としての自覚を養う。

各回の主題、履修形態、準備物品

回数	月日	主題
1	4/14	ガイダンス・グローバル化について考えてみよう
2	4/28	国際赤十字・赤新月運動とは？
3 4	5/12	アンリ・デュナンと赤十字の誕生 佐野常民と日本赤十字社の創立
5 6	5/19	国際赤十字・赤新月運動の基本原則 国際赤十字・赤新月運動の基本原則の適用とその実際
7	5/26	日本赤十字社の組織と活動
8	6/2	赤十字標章の意味と適正使用

9 10	6/9	国際人道法の基礎知識 現代の武力紛争と国際人道法
11	6/16	国際人道法の履行確保
12 13	6/23	人道と人権 人間の安全保障
14	6/30	世界の人道支援機関とその行動規範
15	7/7	グローバル世界と赤十字（まとめ）

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．授業への参加度　10%、プレゼンテーション 20%、レポート 70%

受講上のアドバイス

活発なディスカッションができるよう、日々のニュースなどに関心を持ち、各講義のテーマに問題意識をもって参加すること

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
基礎	14	赤十字活動論	1	15	1年次後期	非常勤講師	○

テキスト （発行所）	1．赤十字の仕組みと活動　令和５年度版 2．新人看護師　若葉と読む『赤十字の基本原則』
副教材、 参考図書	1．アンリー・デュナン伝　赤十字はこうして生まれた：ピエール・ボワシエ著 廣渡太郎訳 2．佐野常民伝　：日本赤十字国際人道研究センター

学習のねらい

看護の原則である人道を実践するために、国や地域を越えて活動している組織について学び、人々のいのちと健康、尊厳を守るための基礎的能力を身につける。

学習目標

1．赤十字の歴史、基本原則、組織、諸活動について理解する。
2．人道支援の基本となる原則を踏まえた看護活動や行動について理解する。
3．人道支援の担い手となる自覚を持つことができる。

各回の主題、履修形態、準備物品

回数	主題	学習内容	履修形態
1	赤十字の歴史・組織・基本原則	赤十字の発祥・歴史 赤十字組織の仕組みと役割	事前学習 GW
2 3	日本赤十字社の事業①	日本赤十字社の事業について調べて、発表する	GW・発表 レポート①
4	日本赤十字社の事業②	血液事業	血液事業実践者の方の講義
5 6	人道的な看護活動	赤十字看護師の活動	DVD視聴 GW レポート②
7	国際的な人道活動	国際救援活動実践者による活動から学ぶ	講義

8	人道支援の担い手となるためには	新人看護師　若葉と読む『赤十字の基本原則』から考える	講義

単位認定の方法

１．15 時間のうち、12 時間以上の出席があること

２．グループワークの成果＆レポート①30 点・レポート②10 点・終講レポート 60 点　合計 60 点以上で合格

受講上のアドバイス

「人権と赤十字」の講義と合わせて赤十字の起こりについて学び、その考え方を理解した上で、学校や身近な日常生活の中や社会の出来事にも関心を寄せ、人道支援を実践する組織の一員として社会や人のために何ができるのか、について考えていきます。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	15	解剖学Ⅰ	1	20	1年次前期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	人体の構造と機能[１]解剖生理学（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

正常な人体の構造について理解し、疾病の成り立ちを学ぶ前提とし、フィジカルアセスメントや日常生活の営みを支える看護の基礎的知識とする。

学習目標

１．人体の概要と解剖学的用語を理解する。
２．人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。

各回の主題、履修形態、

第１回　（講義）解剖学総論１
第２回　（講義）解剖学総論２
第３回　（講義）骨格１
第４回　（講義）骨格２
第５回　（講義）筋肉
第６回　（講義）循環器
第７回　（講義）呼吸器
第８回　（講義）消化器１
第９回　（講義）消化器２
第10回　（講義）泌尿器

準備物品　　必要時提示する

単位認定の方法

１．20 時間のうち、16 時間以上の出席があること。

２．評価は、2 回の試験を行う。

１）試験は、講義の進行中に 1 回目（第 1 回～5 回）、
終講後に 2 回目（第 6 回～10 回）の試験を実施する。

２）試験は各回を 50 点満点で行い、合算したものを成績とする。

３．上記２で 100 点満点中 60 点以上で合格とする。

受講上のアドバイス

解剖学は医療にかかわる仕事をして行くうえで、基礎になる分野です。

解剖の正しい知識は、これから学んでいくすべての専門科目の土台となるだけはなく、病院での医療をより深いものにしてくれるでしょう。

最初は覚えることが多く、大変だと思いますが、徐々に、日常不思議に感じていた身体のしくみが明らかになっていく喜びを感じると思います。頑張って学習しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	16	解剖学Ⅱ	1	20	1年次前期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	人体の構造と機能[１]解剖生理学（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

正常な人体の構造について理解し、疾病の成り立ちを学ぶ前提とし、フィジカルアセスメントや日常生活の営みを支える看護の基礎的知識とする。

学習目標

１．人体の概要と解剖学的用語を理解する。
２．人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。

各回の主題、履修形態、

第１回　（講義）内分泌
第２回　（講義）発生
第３回　（講義）神経系１
第４回　（講義）神経系２
第５回　（講義）神経系３
第６回　（講義）生殖器１
第７回　（講義）生殖器２
第８回　（講義）感覚器１
第９回　（講義）感覚器２
第１０回（見学）解剖学教室見学（京都府立医科大学）

準備物品

必要時提示する

単位認定の方法

１．20 時間のうち、16 時間以上の出席があること。

２．評価は、2 回の試験を行う。

１）試験は、講義の進行中に 1 回目（第 1 回～5 回)、
終講後に 2 回目（第 6 回～10 回）の試験を実施する。

２）試験は各回を 50 点満点で行い、合算したものを成績とする。

３．上記２で 100 点満点中 60 点以上で合格とする。

受講上のアドバイス

解剖学は医療にかかわる仕事をして行くうえで、基礎になる分野です。

解剖の正しい知識は、これから学んでいくすべての専門科目の土台となるだけはなく、病院での医療をより深いものにしてくれるでしょう。

最初は覚えることが多く、大変だと思いますが、徐々に、日常不思議に感じていた身体のしくみが明らかになっていく喜びを感じると思います。頑張って学習しましょう。

解剖学教室での見学は、貴重な機会です。事前の準備を十分にして臨みましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	17	生理学Ⅰ	1	30	1年次後期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	人体の構造と機能［1］解剖生理学（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

正常な人体の機能について理解し、解剖と関連させながら、器官系を有機的に結びつけて働き・生体反応をとらえ、看護を実践するための基礎的知識とする。

学習目標

1．人体の概要と解剖学的用語を理解する。
2．人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。

各回の主題、履修形態

第１回（講義）骨格筋１
第２回（講義）骨格筋２
第３回（講義）循環器
第４回（講義）呼吸器１
第５回（講義）呼吸器２
第６回（講義）消化・吸収・代謝１
第７回（講義）消化・吸収・代謝２
第８回（講義）消化・吸収・代謝３
第９回（講義）代謝
第１０回（講義）腎機能１
第１１回（講義）腎機能２
第１２回（講義）血液
第１３回（講義）血液型・体温調節
第１４回（講義）体液調節　塩酸基平衡１
第１５回（講義）体液調節　塩酸基平衡２

準備物品

なし

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．100 点満点のうち 60 点以上で合格

受講上のアドバイス

生理学は、人体の構造と機能を理解するための重要な科目である。

解剖学・健康と生化学や疾病論基礎の内容を想起しながら講義に臨んでほしい。

ここで学んだ知識が、臨床での看護を行う際の臨床判断力を強化していくことでしょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	18	生理学Ⅱ	1	20	２年次前期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	人体の構造と機能［１］解剖生理学（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

正常な人体の機能について理解し、解剖と関連させながら、器官系を有機的に結びつけて働き・生体反応をとらえ、看護を実践するための基礎的知識とする。

学習目標

１．人体の概要と解剖学的用語を理解する。
２．人体の各器官系統の構造とその働きの意味を理解する。

各回の主題、履修形態

第１回（講義）内分泌１
第２回（講義）内分泌２
第３回（講義）生殖機能
第４回（講義）免疫系１
第５回（講義）免疫系２　生体防御機構
第６回（講義）細胞・ＤＮＡ・核酸
第７回（講義）神経系１
第８回（講義）神経系２
第９回（講義）神経系３
第１０回（講義）感覚器官　まとめ

準備物品

なし

単位認定の方法

１．20 時間のうち、16 時間以上の出席があること

２．100 点満点のうち 60 点以上で合格

受講上のアドバイス

生理学は、人体の構造と機能を理解するための重要な科目である。

解剖学・健康と生化学や疾病論基礎の内容を想起しながら講義に臨んでほしい。

ここで学んだ知識が、臨床での看護を行う際の臨床判断力を強化していくことでしょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	19	健康と生化学	1	30	1年次前期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能２　生化学
副教材、参考図書	

学習のねらい

看護の対象者への健康管理（健康の維持・疾病の予防）で活用するために、臨床生化学の基礎知識を学ぶ。

学習目標

１．生体の成り立ちと最小基本単位である細胞の構造や役割について理解する。
２．生体を構成している基本物質について理解する。
３．遺伝情報の保存、発現について、病気と遺伝子との関係について学ぶ。
４．生体で起きている代謝機能について理解する。
５．生体の防御機能である免疫反応について理解する。

各回の主題、履修形態

第１回（講義）授業ガイダンス
　　生物と生化学　生体の成り立ち
第２回（講義）細胞の生物学
第３回（講義）遺伝子の本体１
第４回（講義）遺伝子の本体２
第５回（講義）遺伝子変異と疾患
第６回（講義）タンパク質科学１
第７回（講義）タンパク質科学２
第８回（講義）酵素学
第９回（講義）糖質代謝１
第10回（講義）糖質代謝２

第 11 回（講義）糖質代謝３
第 12 回（講義）その他の代謝系
第 13 回（講義）塩酸基平衡
第 14 回（講義）免疫１
第 15 回（講義）免疫２

準備物品

なし

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること
２．成績は課題、小テスト、テストの点数で評価する

受講上のアドバイス

・授業は教科書とプリントを中心に進める
・小テストで到達度を確認する

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	20	健康と栄養	1	30	２年次通年	院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能３　栄養学（医学書院） 糖尿病食事療法のための食品交換表（日本糖尿病協会） 栄養食事療法　別巻５（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

いのちの営みとしての食と栄養や、治療的栄養を理解するために、栄養学の基礎知識を学ぶ。

学習目標

１．人間栄養学と看護の関係、栄養補給について理解する。
２．栄養素の種類と働き、エネルギー代謝について理解する。
３．栄養状態の評価判定について理解する。
４．ライフステージと栄養について理解する。
５．健康障害に対する食事療法について理解する。
６．いのちの営みとしての食と栄養を生活者の視点で学ぶ。

各回の主題、履修形態

第１回（講義）人間栄養学と看護
第２回（講義）栄養素の種類と働き（炭水化物・脂質・タンパク質）
第３回（講義）栄養素の種類と働き（ビタミン・ミネラル・食物繊維・水）
第４回（講義）栄養素の種類と働き（エネルギー代謝）
第５回（講義）栄養ケア・マネジメント（スクリーニング・アセスメントプラン・実施・モニタリング）
第６回（講義）栄養状態の評価・判定
第７回（講義）ライフステージと栄養（乳児・幼児・学童・青年・成人各期）
第８回（講義）ライフステージと栄養（妊娠・授乳・更年・高齢各期）
第９回（講義）成人食の特徴と種類・栄養食事療法

第１０回（ＧＷ）栄養食事療法（消化器系疾患）
第１１回（ＧＷ）栄養食事療法（循環器系疾患）
第１２回（ＧＷ）栄養食事療法（栄養代謝系疾患―糖尿病）
第１３回（ＧＷ）栄養食事療法（腎疾患）
第１４回（講義）栄養食事療法（栄養代謝系疾患―高脂血症・高尿酸血症）（血液疾患―貧血症）
第１５回（講義）栄養食事療法（精神神経系疾患・術前術後の栄養管理・妊産婦・小児疾患
・高齢者の栄養と食事）

準備物品

なし

単位認定の方法

１．臨床栄養学 30 時間のうち、24 時間以上の出席があること
２．終講試験 100 点中の 60 点以上で合格とする。

受講上のアドバイス

看護の対象者の食生活を支援するためには、栄養学の知識と対象者の食文化を関連させながらかかわることが必要です。積極的に学び、看護で活用できるよう学習に取り組んでください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	21	微生物と感染症	1	30	1 年次通年	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進４　微生物学（医学書院）
副教材、参考図書	国立感染症研究所感染症情報

学習のねらい

微生物の性質を学び、微生物に対する感染防御と感染症の特徴を理解する。

学習目標

1．微生物の種類と各々の生態、感染経路、増殖様式、病原性などについて理解できる。
2．感染症の予防の基本となる滅菌と消毒の概念について理解できる。
3．感染症の特徴と感染対策について理解できる。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1 回	微生物と微生物学 微生物の性質	・微生物学の対象と目的 ・微生物の種類と性質 ・細菌の形態と特徴	講義
2 回	感染症の現状と対策	・感染症の変遷 ・感染症の現状と問題点 ・エマージング感染症	講義
3 回	感染症の予防	・滅菌と消毒の意義と定義 ・滅菌法と消毒 ・消毒実習	講義、演習
4 回	感染症の検査と診断 感染症の治療	・細菌学的検査法 ・薬剤耐性	講義、演習
5 回	感染に対する生体防御機構	・免疫応答の成立 ・自然免疫、液性免疫	講義

6 回	感染に対する生体防御機構	・細胞性免疫 ・移植免疫	講義
7 回	病原細菌と細菌感染症 1	・グラム陽性球菌 ・グラム陰性球菌	講義
8 回	病原細菌と細菌感染症 2	・グラム陰性好気性桿菌 ・グラム陰性通性桿菌	講義
9 回	病原細菌と細菌感染症 3	・グラム陰性通性桿菌	講義
10 回	病原細菌と細菌感染症 4	・ヘリコバクター属 ・マイコバクテリウム属	講義
11 回	病原細菌と細菌感染症 5	・クロストリジウム属 ・マイコプラズマ ・リケッチア、クラミジア	講義
12 回	病原ウイルスとウイルス感染症 1	・ポックスウイルス科 ・ヘルペスウイルス科	講義
13 回	病原ウイルスとウイルス感染症 2	・オルトミクソウイルス科 ・ピコルナウイルス科	講義
14 回	病原ウイルスとウイルス感染症 3	・フラビウイルス科 ・コロナウイルス科 ・レトロウイルス科	講義
15 回	病原ウイルスとウイルス感染症 4 真菌感染症 原虫感染症	・肝炎ウイルス ・深在性真菌症 ・マラリア、トキソプラズマ他	講義

準備物品

時間割提示の際に指示する

単位認定の方法

30 時間中、24 時間の出席があること

終講試験 100 点中 60 点以上で合格とする

受講上のアドバイス

本講義で学んだ知識をもとに、看護を実践する際の具体的な援助の方法や感染予防のためのかかわりについて学びを深めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	22	疾病論基礎	1	30	1年次通年	院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進１　病理学　（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

看護が対象にすることの多い症状と病理的変化・病理診断との関連を学び、疾病論を理解するための基礎的能力を身につける。

学習目標

１．人体に生じる種々の形態的、機能的な異常状態について、その原因、発生のしくみ、身体に与える影響について理解する。

２．主要な症状(痛み、発熱、腫脹・浮腫、倦怠感、食欲不振、循環障害、呼吸困難)について、身体に起きている病理的変化を分析的に推論し理解する。

各回の主題、履修形態

講義

病理学の考え方

細胞や組織に生じる変化(肥大・萎縮・壊死・腫瘍・異形成、炎症、循環障害など)

症状と病理的変化および成り行きについて

医療における病理診断の実際

講義と演習（PBL）

具体的な症状を通して病理的変化を学ぶ

具体的な症状(痛み、発熱、腫脹・浮腫、倦怠感、食欲不振、循環障害、呼吸困難)

準備物品

時間割提示の際に指示する

単位認定の方法

３０時間のうち２４時間以上の出席があること

終講試験または、レポート試験１００点満点中６０点以上で合格とする

受講上のアドバイス

演習へは積極的に臨み、疑問をグループで共有し、活発なディスカッションを期待します。

症状を目にした時、身体におこっている事実が何か、必要な情報が何かが考えられ、情報を提供できるような個々の能力を養います。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	23	疾病論Ⅰ	1	30	1年次後期	院内講師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　成人看護学２　呼吸器 系統看護学講座　成人看護学３　循環器
副教材、 参考図書	

学習のねらい

各疾病の症状・診断・検査・治療・処置および機能障害について理解し、看護学の視点から人体を体系的に観察・判断するための基礎的能力を身につける。

学習目標

１．呼吸機能が障害された状態の診断・検査・症状、治療、処置等について理解する
２．循環機能が障害された状態の診断・検査・症状、治療、処置等について理解する

各回の主題、履修形態

＜呼吸器内科（13時間）＞

1回　呼吸器感染症（インフルエンザ・肺炎総論）
2回　呼吸器感染症（肺炎各論・結核）
3回　慢性閉塞性肺疾患（COPD）
4回　肺癌
5回　びまん性肺疾患・間質性肺炎・突発性肺繊維症
6回　気管支喘息
7回（45分）　気管支拡張症・胸膜疾患・過換気症候群・好酸球性肺疾患他

＜呼吸器外科（2時間）＞

8回　気胸・肺癌の手術・胸腔ドレナージシステム

＜循環器内科（13 時間）＞

9 回　循環器系の解剖生理・循環器系の症状・検査

10 回　刺激電動系の解剖生理・心電図・不整脈

11 回　不整脈の病態・治療

12 回　心不全の診断・病態・治療

13 回　狭心症の診断・病態・治療

14 回　急性心筋梗塞の診断・病態・治療　ショックの種類と機序

15 回　(45 分)生活習慣病と冠動脈疾患・高血圧症

＜心臓血管外科（2 時間）＞

16 回　心臓血管外科総論

準備物品

なし

単位認定の方法

30 時間のうち 24 時間以上の出席があること

終講試験で 100 点中 60 点以上の得点があること

受講上のアドバイス

自身で理解度を確認しながら、学習をすすめてください。疑問はそのままにせず、質問するなどしてはやめに対処しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	24	疾病論Ⅱ	1	30	２年次前期	院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　成人看護学７　脳・神経　（医学書院） 系統看護学講座　成人看護学 13　眼　　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

各疾病の症状・診断・検査・治療・処置および機能障害について理解し、看護学の視点から人体を体系的に観察・判断するための基礎的能力を身につける。

学習目標

1. 脳機能・感覚機能・嚥下機能が障害された状態の診断・検査・症状、治療、処置等について理解する。
2. 眼科疾患の診断・検査・症状、治療、処置などについて理解する。
3. リハビリテーション療法について理解し、機能障害からの回復のための方法を学ぶ。

各回の主題、履修形態

＜神経内科（10 時間）＞

1 回　脳・神経系の構造と機能

2 回　脳血管障害

3 回　感染症、免疫性神経疾患（多発性硬化症、重症筋無力症、ギランバレー症候群など）

4 回　神経変性疾患（パーキンソン病、パーキソニズム、脊髄小脳変性症、筋移植性側索硬化症など）

5 回　ニューロパチー、認知症、発作性疾患（頭痛、てんかん）

＜脳外科（10 時間）＞

6 回　脳機能、脳ヘルニア、意識障害（総論）

7 回　脳機能の診察・検査・治療（脳外科総論）

8 回　頭部外傷、脊髄疾患、水頭症

9 回　脳血管障害

10 回　脳腫瘍

＜眼科（4 時間）＞

11 回　眼の基本構造・視力と視野

12 回　代表的な眼疾患

＜リハビリテーション（6 時間）＞

13 回　リハビリテーションの概念・対象・種類

14 回　リハビリテーションチームアプローチ

15 回　リハビリテーション療法のための評価、プログラム、禁忌
リハビリテーション療法の実際（ADL,トレーニング）

準備物品

時間割提示の際に指示する

単位認定の方法

30 時間のうち 24 時間以上の出席があること

終講試験で 100 点中 60 点以上の得点があること

受講上のアドバイス

自身で理解度を確認しながら、学習をすすめてください。疑問はそのままにせず、質問するなどしてはやめに対処しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	25	疾病論Ⅲ	1	30	1年次後期	院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　成人看護学14耳鼻咽喉　、成人看護学12皮膚、 成人看護学8腎・泌尿器 、成人看護学10運動器　（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

各疾病の症状・診断・検査・治療・処置および機能障害について理解し、看護学の視点から人体を体系的に観察・判断するための基礎的能力を身につける。

学習目標

１．皮膚・聴覚・嚥下機能が障害された状態の診断・検査・症状・治療・処置等について理解する。
２．泌尿器・男性生殖器の疾患の症状・診断・治療・処置等について理解する。
３．整形外科疾患の症状・診断・治療・処置等について理解する。

各回の主題、履修形態

＜耳鼻咽喉科（6時間）＞

1回　咽頭疾患（腫瘍を除く）嚥下障害の病態と治療
2回　耳科疾患と病態と治療、顔面神経麻痺、鼻疾患
3回　頭頸部腫瘍の疾患と病態・治療

＜皮膚科（6時間）＞

4回　皮膚の構造と機能、原発疹・続発疹・表在性皮膚疾患
5回　真皮、皮下組織の皮膚疾患・皮膚腫瘍・熱傷・褥瘡
6回　微生物による皮膚疾患・爪白癬の治療

＜泌尿器科（8 時間）＞

7 回　腎・泌尿器の解剖生理及び病態生理・症状・検査と治療

8 回　腫瘍（腎・膀胱など）・感染症・尿路結石・外傷・神経因性膀胱など

9 回　前立腺・内外性器の腫瘍の特徴、診断、治療

前立腺肥大症の特徴、診断、治療

10 回　STD・尿路性器奇形・外傷・良性疾患の診断・治療

＜整形外科（10 時間）＞

11 回　運動器の構造と機能・症状と病態生理能

12 回　運動器の診断・検査・処置

13 回　神経損傷・先天性疾患・骨腫瘍

14 回　脊椎の疾患・下肢および下肢帯の疾患

15 回　ギプス・シーネ演習

準備物品

なし

単位認定の方法

３０時間のうち２４時間以上の出席があること

終講試験 100 点満点中 60 点以上で合格とする

受講上のアドバイス

これらの機能障害がある患者さんのニードについて思いを巡らせて、ひとつひとつの主題を学習してください。疑問はそのままにせず、質問するなどしてはやめに対処しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	26	疾病論Ⅳ	1	30	２年次前期	院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　成人看護学 8　腎・泌尿器、成人看護学 11 アレルギー・膠原病・感染症、成人看護学 4　血液・造血器、成人看護学 6　内分泌・代謝　（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

各疾病の症状・診断・検査・治療・処置および機能障害について理解し、看護学の視点から人体を体系的に観察・判断するための基礎的能力を身につける。

学習目標

１．腎・内分泌・代謝系疾患の症状・診断・検査・治療・処置等について理解する。
２．アレルギー・免疫系疾患の症状・診断・検査・治療および疾病の管理等について理解する。
３．血液・造血器系疾患の症状・診断・検査・治療・処置等について理解する。

各回の主題、履修形態

＜腎臓内科（6 時間）＞

1 回　ネフローゼ症候群、慢性腎臓病と食事療法
2 回　透析療法（血液透析・腹膜透析）
3 回　水と電解質

＜内科（10 時間）＞

4 回　内分泌器官の構造と機能・およびホルモンの機能・検査
5 回　内分泌疾患の各論と看護
6 回　食物の代謝と消化管･膵ホルモンについて、糖尿病の病態と診断、食事療法、運動療法
7 回　糖尿病と薬物療法・合併症とその治療
8 回　高脂血症の病態・診断・治療、
　　肥満とメタボリックシンドロームの病態、高尿酸血症の診断・治療

＜免疫（4 時間）＞

9 回　免疫の検査と治療、アレルギー総論・各論

10 回　膠原病総論・各論

＜血液内科（10 時間）＞

11 回　総論

12 回　貧血、血小板減少

13 回　白血病

14 回　リンパ腫・骨髄腫

15 回　造血幹細胞移植

準備物品

必要時、提示する

単位認定の方法

３０時間のうち２４時間以上の出席があること

終講試験 100 点満点中 60 点以上で合格とする

受講上のアドバイス

これらの機能障害がある患者さんのニードについて思いを巡らせて、ひとつひとつの主題を学習してください。疑問はそのままにせず、質問するなどしてはやめに対処しましょう。

時間数にかかわらず、日々の看護でも重要関連科目です。実習時にも、テキストをくりかえし効果的に活用しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	27	疾病論Ⅴ	1	20	1年次後期	院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　成人看護学５ 消化器 、成人看護学 15 歯・口腔　（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

各疾病の症状・診断・検査・治療・処置および機能障害について理解し、看護学の視点から人体を体系的に観察・判断するための基礎的能力を身につける。

学習目標

１．消化器系疾患の症状・診断・検査・治療・処置等について理解する。
２．歯科・口腔領域疾患の症状・診断・検査・治療・処置等について理解する。

各回の主題、履修形態

＜歯科・口腔外科（2 時間）＞
1 回　口腔解剖・歯科疾患・治療概論・口腔ケア

＜消化器内科（12 時間）＞
2 回　肝臓の病態生理および病態生理・疾患各論１
3 回　肝臓疾患各論２
4 回　消化管の解剖生理および病態生理・疾患各論１
5 回　消化管の疾患各論２
6 回　胆道系の解剖生理および病態生理・胆道系疾患
7 回　膵臓の解剖生理および病態生理・膵臓疾患

＜外科（6 時間）＞

8 回　手術療法、食道、胃疾患、

9 回　大腸・虫垂炎・イレウス・ヘルニアの手術

10 回　肝臓・胆道系・膵臓疾患の手術

準備物品

必要時、提示する

単位認定の方法

20 時間のうち 16 時間以上の出席があること

終講試験 100 点満点中 60 点以上で合格とする

受講上のアドバイス

これらの機能障害がある患者さんのニードについて思いを巡らせて、ひとつひとつの主題を学習してください。疑問はそのままにせず、質問するなどしてはやめに対処しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	28	診断治療学Ⅰ	1	30	２年次前期	院内講師	○

テキスト（発行所）	薬理学：イラストで理解するかみくだき薬理学（南山堂）、イラストで学ぶ薬理学（医学書院） 麻酔学：別巻　臨床外科看護総論（医学書院）
副教材、参考図書	なし

学習のねらい

薬物療法の基礎知識と薬物の管理について理解し、薬物を用いた治療に伴う人体への影響をアセスメントするための基礎的能力を身につける。

学習目標

１．薬物の特徴・作用機序・人体への影響および薬物の管理について理解する。
２．手術療法に欠かせない麻酔の種類と方法、作用について学び、生体への侵襲について理解する。

各回の主題、履修形態

1 回～10 回（薬理学 20 時間：講義）
薬理学概論（薬理作用・作用機序・薬物動態）、
薬剤添付文書、処方箋の見方など
呼吸器用剤、循環器用剤、消化器用剤、
内分泌・代謝（糖尿病薬など）、アナフィラキシーについて
がん化学療法（抗がん剤の分類、作用機序、副作用、副作用対策）
鎮痛・麻薬、抗菌薬、中枢神経用剤
満駅、予防接種、諸毒、眼科用剤、皮膚科用剤など

11 回～15 回（麻酔学 10 時間：講義）
麻酔とは、全身麻酔薬について、局所麻酔、麻酔器の構造、
麻酔導入・硬膜外麻酔・脊椎麻酔、
術前評価・術後疼痛管理・術後合併症について

準備物品

なし

単位認定の方法

30 時間のうち 24 時間以上の出席があること

薬理学は 60 点満点、麻酔学は 40 点満点の試験を行う。併せて 100 点満点中 60 点以上で合格とする

受講上のアドバイス

学習の範囲が広いので、特に講義後の復習をしてください。

令和５年５月２日　修正

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	29	診断治療学Ⅱ	1	30	２年次通年	院内講師	○

テキスト（発行所）	放射線学：別巻　臨床放射線医学（医学書院） 臨床検査：別巻　臨床検査（医学書院） 医療機器：なし　資料配布
副教材、参考図書	

学習のねらい

疾病を診断・治療するための臨床検査及び放射線診断・治療、医療機器について学び、さまざまな場面での看護実践の基礎的知識とする。

学習目標

１．放射線を用いた検査、放射線療法の原理、方法、作用、副作用について理解する。
２．臨床検査の意義や種類、方法、生体への影響や、検査成績の解釈について理解する。
３．医療機器(人工呼吸器,心電図・モニター,輸液ポンプ,医療ガス等)の特徴・管理方法を理解する。

各回の主題、履修形態

放射線学５回（10時間）：講義
放射線医学　総論、IVRについて
画像診断　総論、X線診断について
画像診断　各論　CT・MRIについて
放射線治療　総論
放射線治療　各論

臨床検査５回（10時間）：講義
臨床検査とその役割・臨床検査の流れと看護師の役割
系統別臨床検査のすすめかた
一般検査・血液検査・生化学検査
生理機能検査など

医療機器 5 回（10 時間）：講義、演習

医療機器と安全のための知識、

医療機器の特徴と管理

ベッドサイドモニター、

輸液・シリンジポンプ、医療ガス・酸素ボンベ、

低圧持続吸引器、人工呼吸器について

準備物品

時間割提示の際に指示する

単位認定の方法

30 時間のうち 24 時間以上の出席があること

終講試験 100 点満点中 60 点以上で合格とする

受講上のアドバイス

基礎看護学の学科（診療の補助技術）を理解するための、重要関連科目です。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	30	災害医療論Ⅰ	1	15	1年次前期	非常勤講師 院内講師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学（医学書院） こころのケア小冊子　（日本赤十字社）
副教材、 参考図書	

●学習のねらい

災害の種類と健康被害、災害医療の特徴、災害時に適用される法律や制度などの社会資源、支援体制について、災害時における看護実践のための基礎的な知識を学ぶ。また、赤十字の災害医療活動の支援の実際を学び、災害医療の担い手としての自覚をもつ。

●学習目標

1．災害に関する様々な定義や種類、健康被害の特性や成り立ちを学び、必要な予防策や対策を理解する。
2．災害救護の現場で繰り広げられる、チーム体制や支援の実際や考え方を理解する。
3．被災者のおかれる状況や特別な配慮を要する人々の存在を知り、支援者の心構えや災害とこころのケアについて理解する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	日本赤十字社の災害救護	・日本赤十字社と支部の役割と活動 ・災害医療対応の整備 ・災害サイクルから考える災害医療	講義
2回	日本赤十字社の国内外の活動	国内外の活動の実際	講義
3回	災害医療の基礎知識	・災害の定義 ・災害の種類と健康被害 ・災害と感染制御 ・災害医療の特徴 　CSCATTT、トリアージ ・災害医療の実際	講義
4回			

５回	災害救護の基礎知識	・災害と情報 ・災害対応に関わる職種間・組織間連携 ・救護班編成と役割、支援体制 ・病院の受け入れ態勢	講義
6回	災害とこころのケア	・災害がもたらす精神的影響 ・こころのケアとは ・こころのケアの活動の実際	講義
7回			
８回 （45 分）			

●単位認定の方法

１．出席について：15 時間のうち 12 時間以上の出席があること

２．レポート課題、筆記試験（3～4 回 医師：50 点、6～8 回 看護師：50 点）

●受講上のアドバイス

日本赤十字社の重要な役割である災害医療について学びます。「人権と赤十字」や「赤十字活動論」とも関連させながら学んでいきましょう。

災害医療の基礎知識や活動の状況などについて、災害時活動や赤十字救護班への研修などを担当している講師を迎えての授業となります。活動の実践者から様々なことを学び吸収してください。赤十字の活動について理解し、災害医療論Ⅱ（赤十字救急法基礎講習・救急員講習）の受講姿勢にもつながっていくことを期待します。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	31	災害医療論Ⅱ	1	30	1 年次後期	赤十字救急法指導員	○

テキスト（発行所）	赤十字救急法基礎講習教本と教材 赤十字救急法救急員講習教本と教材
副教材、参考図書	災害時のこころのケア　小冊子

●学習のねらい

災害や日常生活の中で求められる一次救命処置や応急手当の技法を身につけ、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守るための知識・技術・態度について学ぶ。

●学習目標

1．赤十字看護師として、医療施設内外での対応や手当の技法、必要な知識・技術・態度を習得する。
2．赤十字救急法救急員の資格を取得し、赤十字へのエンゲージメントを高める。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1 回	赤十字救急法を学ぶとは	1. オリエンテーション 履修上の注意 2. 赤十字救急法を学ぶとは 1)赤十字救急法基礎講習について 2)赤十字救急法救急員養成講習とは 3. 三角巾の基本的な取り扱い方	赤十字救急法指導員 講義･実技
2 回	基礎行動	1. 基礎行動 2. 無線機の取り扱い	京都府支部 講義･実技
3 回 ～ 15 回	赤十字救急法基礎講習 赤十字救急法救急員養成講習	･一次救命処置 （心肺蘇生法、AED を用いた除細動） ･急病 ･ケガ ･止血 ･きずの手当て ･包帯 ･骨折、脱臼、捻挫など	赤十字救急法指導員 講義･実技･検定

		・搬送 ・トリアージ ・総合演習 ・実技検定 ・学科検定	

●単位認定の方法

１）赤十字救急法等講習規定に基づいた講習時間や検定の要件を満たし、赤十字救急員資格を取得すること。

２）30 時間のうち、80%以上の出席があること。

１)、２）の要件を満たし、本科目の認定とする。

●受講上のアドバイス

本講習は、病気やケガ・災害から自分自身を守り、ケガ人や急病人を正しく救助するための知識・技術・態度を学びます。本講習の全課程を受講し検定に合格すると「赤十字ベーシックライフサポーター」と「赤十字救急法救急員（赤十字ファーストエイドプロバイダー)」の認定証が受領できます。講習後は、不慮の事故に遭った人や急病にかかった人に接したとき、この講習で習得された知識と技術に勇気が加わり、救急隊・医療機関へと引き継げる「救命の連鎖」が繋がることを期待しています。

資格取得のための検定を受けるのに不利になるため、欠席しないよう努力すること。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	32	医療概論	1	20	1年次前期	非常勤講師 院内講師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　専門基礎分野　医療概論　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　総合医療論（医学書院） 統合分野　医療安全　（医学書院）
副教材、 参考図書	

学習のねらい

あらゆる健康段階に応じた医療の特徴および現代医療のシステムを学び、医療のあり方や諸問題について考える。

学習目標

1．医療の歩み、医療の発展や現代医療の諸問題について学び、医の倫理について理解する。
2．健康段階に応じた医療の現状を理解する。

各回の主題

1．医療と看護の原点・医療の歩み
2．生活と健康・日本の医療制度・少子高齢化社会における医療の現状と課題
3・4　現代医療の諸問題（医療安全・倫理的問題）
5・6　健康段階に応じた医療１（予防医学の理念と体制・予防医学の実際）
7・8　健康段階に応じた医療２（救急医療の理念と体制・救急医療の実際）
9・10　健康段階に応じた医療３（緩和医療の理念と体制・緩和医療の実際）

単位認定の方法

1．20 時間のうち、16 時間以上の出席があること
2．レポートと終講テスト　合計 60 点以上で合格

受講上のアドバイス

これから本格的に看護を学ぶにあたり、医療とは何か、現在医療の現状と課題の概略をつかみ、看護師としてチームの一員としての役割を考えるきっかけにしてもらいたい。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	33	公衆衛生と 保健医療福祉環境	1	20	２年次前期	非常勤講師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　専門基礎分野 健康支援と社会保障制度（2）公衆衛生　（医学書院） 「公衆衛生がみえる」医療情報科学研究所編集（メディックメディア） 国民衛生の動向　厚生労働統計協会
副教材、 参考図書	

学習のねらい

人びとがくらす環境と健康についての概念を学び、疾病予防と健康増進に向けた組織的な取り組みである公衆衛生活動について考える。

学習目標

1．公衆衛生の理念や視点を学び、自分の立つ地域社会・国・世界の人々のいのちと健康について考える力を養う。
2．社会の動向と地域コミュニティに応じた様々な健康支援のあり方を学び、健康の保持・増進と疾病等の予防について理解する。
3．地域特性を理解するための疫学指標や情報の活用について学ぶ。

各回の主題、履修形態

回数	主　題	履修形態　他
1回	はじめに ―いのちと公衆衛生―	テキスト序章・第1章
2回	公衆衛生の理念 ―健康と人権―	テキスト第1・2章
3回	公衆衛生の基礎―公衆衛生のしくみと地域保健―	テキスト第3章
4回	公衆衛生の基礎　―疫学と保健統計―	テキスト第4章
5回	社会保障制度及び医療制度・介護保険制度	資料

６回	グローバル化する世界と公衆衛生―国際保健―	テキスト第７章
７回	環境と健康Ⅰ　　1 環境とは　2 地球規模の環境	テキスト第５章―Ａ・B・D
８回	環境と健康Ⅱ　　1 身の回りの環境　2 住まいの環境	テキスト第５章―Ｃ・資料
９回	感染症の動向と感染症対策	テキスト第６章
１０回	地域や学校及び職場の保健並びに健康危機管理・災害保健	テキスト第8・9・10・11章

準備物品

必要時提示する

単位認定の方法

20 時間のうち 16 時間以上の出席があること。

最終試験を実施する。評価の配点は 100 点。

受講上のアドバイス

1. テキスト（公衆衛生・公衆衛生がみえる）の該当範囲の予習をして授業に臨むこと
2. 授業はテキスト及び当日配布の資料を使用し、パワーポイントなどの媒体は使用しない。
   テキストや資料の活字を熟読し講師の話を聴いて理解に努めること。
3. 質問等は授業中並びに授業前後に行うこと。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	34	医療を取り巻く 法律と経済	1	20	３年次前期	院内講師 非常勤講師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　健康支援と社会保障制度④　看護関係法令　（医学書院）
副教材、 参考図書	１．系統看護学講座　看護の統合と実践①　看護管理　（医学書院） ２．系統看護学講座　基礎看護学①　看護学概論　（医学書院）

学習のねらい

医療・看護を取り巻く経済的状況や法について理解し、保健・医療・福祉制度の中での看護師としての業務と責任を自覚する。

学習目標

１．保健・医療・福祉の取り巻く経済的背景について理解する。
２．法の概念について、また法規を学ぶ必要性について理解する。
３．保健・医療・福祉に関連する法規について理解する。
４．保健医療福祉分野の連携の中で、看護の独自性や役割について理解する。
５．看護職に関わる関係法規について理解する。

各回の主題、履修形態、準備物品

回数	主題	履修形態
1	看護行政の方向性 看護と法の関わり 保健師助産師看護師法：看護職の定義・看護業務の法的範囲	講義
2	看護職と看護補助者の協働 看護師等の静脈注射の実施について 看護師等の人材確保法	講義
3	医療過誤について 看護と経済の関わり　看護サービスの対価 関係法規模擬試験	講義
4	法の概念 医事法について（1/2）	講義

5	医事法について（2/2） 保健衛生法について（1/2）	講義
6	保健衛生法について（2/2） 薬務法について	講義
7	社会保険法について 福祉法について	講義
8	労働法と社会基盤整備について 環境法について	講義
9	衛生統計について（1/2）	講義
10	衛生統計について（2/2） 病院経営について その他	講義

単位認定の方法

１．20 時間、16 時間以上の出席があること

２．終講テスト：院内講師　70 点　非常勤講師　30 点　合わせて 60 点以上で合格

受講上のアドバイス

まもなく看護師国家試験を受験し、看護師の資格を持って、様々な医療機関等で勤務することになります。医療や看護はどのような法や経済のもとに成り立っているのかを学び、専門職業人として責任ある行動がとれるようになってほしいと考えています。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	35	社会保障と社会福祉	1	30	1年次後期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　専門基礎分野　社会保障・社会福祉（医学書院）
副教材、参考図書	医療総合福祉ハンドブック（医学書院）

学習のねらい

社会福祉の基本概念と社会保障制度について理解し、看護の対象者に応じた社会資源を活用できる基本的能力を身につける。

学習目標

生活者のくらしの実態と、生存権に根ざした社会保障・社会福祉制度について理解する。

私たちのくらしと健康を守る社会保障・社会福祉は、少子高齢化や「財政難」のもと、大きな制度改変が続いている。また、近年顕著な「生活保護バッシング」にみられるように、当事者のくらしの実態からかけ離れた「あるべき論」も横行している。

この授業では、社会保障・社会福祉制度の基本的な構造や内容についての知識を習得する。あわせて、くらしの実態に根差して今後の社会保障・社会福祉のあり方を考えられる視点を身につけることを目標とする。

各回の主題、履修形態

第１回（講義）くらしの構造と生活問題
第２回（講義）社会保障制度の体系
第３回（講義）社会の変化と社会保障
第４回（講義）社会保障・社会福祉の歴史的源流
第５回（講義）年金保険制度
第６回（講義）労働保険制度
第７回（講義）医療保障制度

第８回（講義）介護保障制度
第９回（講義）社会福祉行政
第１０回（講義）生活保護制度と生活困窮者への支援
第１１回（講義）高齢者福祉
第１２回（講義）児童・ひとり親家庭福祉
第１３回（講義）障害者福祉
第１４回（見学）社会福祉施設見学
第１５回（講義）社会福祉・社会保障制度の課題

準備物品

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること
２．試験を実施する。授業中に小レポート等課す場合がある。

受講上のアドバイス

テキストや配布資料をよく復習するとともに、新聞記事やテレビ、ウェブなどで社会保障・社会福祉がどのように取り上げられているか、注目してみてください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門基礎	36	地域医療論	1	15	３年次前期	院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　健康支援と社会保障制度①　総合医療論（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

地域に応じた医療の特徴や制度を学び、保健・医療・福祉のつながりの中で人々の健康を支えるしくみと機能を理解する。

学習目標

１．地域医療構想の目的や概要について理解する。
２．京都府地域包括ケア構想（地域医療ビジョン）の概要について理解する。
３．京都第二赤十字病院における地域連携のシステムやその内容について理解できる。
４．地域住民の視点から地域医療のあり方について理解し、看護職の役割を考える。

各回の主題、履修形態、準備物品

第１回　地域医療構想の目的や概要

第２回
第３回
第４回　京都府地域包括ケア構想（地域医療ビジョン）と京都府地域包括ケア推進機構の各プロジェクト（認知症対策・看取り対策・リハビリ対策・在宅療養支援・看護予防、重度化防止等）

第５回
第６回
第７回　京都第二赤十字病院における地域連携のシステム
病診連携（前方連携）、病連携（後方連携）のシステムや京都第二赤十字病院に求められるもの
地域医療連携課（地域医療連携係・地域医療連携推進係・新患、入院受付係）の具体的な役割

第８回（45 分）看護師に求められるもの

単位認定の方法

１．15 時間のうち、12 時間以上の出席があること

２．終講レポート、合計 60 点以上で合格

受講上のアドバイス

これまで学んできた医療について、改めてその仕組みについて理解し、看護師としての役割について考えていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	37	看護学概論	1	30	1年次前期	専任教師	○

テキスト（発行所）	看護学概論　（医学書院）
副教材、参考図書	１．川島みどり：キラリ看護，医学書院，2008. ２．ヴァ―ジニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2016.

学習のねらい

看護の主要概念である、人間・環境・健康・看護について学び、看護の本質、看護とは何か、またそれがどのような方向に発展しつつあるのかを共に考える。看護実践の基盤となる看護観を培う。

学習目標

１．看護の概念について理解する。
２．看護の対象である人間を統合体として理解する。
３．健康の概念を理解し、健康レベルに応じた看護の役割・機能について理解する。
４．保健医療福祉分野の連携の中で、看護の独自性や役割について理解する。
５．看護学における倫理の考え方や倫理的問題の解決に向けた考え方を理解する。
６．看護の変遷を振り返り、看護のおかれている状況や今後の課題と展望について理解する。
７．看護とは何かを探求し続けるための姿勢を身につける。

各回の主題、履修形態、準備物品

回数	主題	学習内容	履修形態
1	どのような看護を目指すのか	看護師のイメ―ジ 目指す看護師像	DVD鑑賞 「プロフェショナル」
2	看護師は何をしているのか	看護の定義・ 看護職の資格と責任と業務	講義
3・4	看護の対象の「人間」とは何か	人間の諸側面・基本的欲求 人間の成長と発達	講義 ワーク
5・6	看護師が向き合う「健康」とは何か	健康観・健康の定義 健康レベル	講義 ワーク

7・8	看護は何を目的とし、どのような役割があるのか	看護の目的 役割機能・看護実践の場 看護理論１	DVD 鑑賞 「あなたの声が聞きたい」
9 10・11	看護師は何を守るのか・何に悩むのか	看護倫理・看護職の倫理綱領・倫理的問題	講義 事例検討
12	看護理論とは何か	看護理論２・看護理論の分類主な理論家とその理論	講義 ワーク
13・14	看護の歴史と私たちが歩む未来	看護の変遷 看護の独自性・専門性	講義・ワーク
15	これからの看護に求められるもの	看護を取り巻く現状・今後の課題と展望	講義

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．レポート・ポートフォリオ・終講テストの合計　60 点以上で合格

１）終講テスト・・・70 点

２）「キラリ看護」の感想レポート・・・10 点

３）ポートフォリオ・・・20 点

①毎回の振り返り用紙・・・15 点（1 回 1 点）

②本科目についての学びと成長について 400 字程度にまとめる。・・5 点

受講上のアドバイス

本講義では、看護とは何か、看護師はどのような役割を担い、どのように実践していくのか、など大まかな看護の輪郭をつかんでほしいと考えています。これらは今後看護学の基盤となるもので、どの領域の看護学にも共通するものです。

本講義では、何かを覚えるというよりも、“考える”ことを大切にしたいと思っています。まずは自分で考え、人に伝え、他者の考えを聴く機会を多く持ち、看護についての考えを広げ深めていってほしいと願っています。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	38	看護共通基本技術	1	30	1年次前期	専任教師	○

テキスト（発行所）	系統別看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］基礎看護技術Ⅰ 系統別看護学講座　専門分野　基礎看護学［2］基礎看護技術Ⅱ 看護技術プラクティス（学研）
副教材、参考図書	看護覚え書き～本当の看護とそうでない看護～（日本看護協会出版会）

●学習のねらい

すべての看護に共通する感染予防対策、療養環境調整、コミュニケーションの意義と方法、根拠について学ぶ。今後の学習の基盤となる基本的な知識と技術を習得する。

●学習目標

1. 感染予防の基礎知識を理解し、感染予防策の正しい方法を習得する
2. 療養環境を整えるための基礎的知識と技術を習得する
3. 看護の基盤となる人間関係形成に必要なコミュニケーションの基本的技法を習得する

●学習スケジュール

回数	主題と学習内容	履修形態、他
単元：感染を予防する技術（8時間／30時間）		
1回	感染・感染予防の基礎知識 1．感染とは 2．感染予防の意義 3．感染の成立および感染予防の原則と方法 4．感染経路別予防策 5．感染予防における看護師の責務と役割	講義
2回	感染予防の方法① 1．洗浄・滅菌・消毒 2．手指衛生	講義

	３．個人防護具の使用 ４．隔離法	
3 回	感染予防の方法② １．無菌操作 ２．感染性廃棄物の取り扱い ３．個体の抵抗力の増強	講義
4 回	感染予防方法の実際 １．手洗い（スクラブ法、ラビング法） ２．個人防護用具の使用方法 ３．滅菌物の取り扱い	演習（実習室）
単元：療養環境を整える技術（12 時間／30 時間）		
5 回	住み慣れた場と療養する場の違い １．入院における生活環境の変化 ２．病院の構造、病室の種類と環境条件 ３．生活空間とプライバシー	講義
6 回	療養生活における環境 １．療養環境を構成する要素 ２．ベッドの構造、寝具の種類と特徴 ３．環境を整える際の留意点	講義
7 回	環境を整える方法 １．環境調整の視点（プライバシー、衛生面、安全面） ２．各種寝具のたたみ方 ３．環境調整を行うための準備・身支度、必要物品	講義 デモンストレーション
8 回	ベッドメイキングの実際	デモスト、演習
9 回	臥床患者のシーツ交換の実際	デモスト、演習
10 回	療養環境のアセスメントと援助方法	講義 グループワーク
単元：看護コミュニケーション（10 時間／30 時間）		
11 回	コミュニケーションとは １．コミュニケーションの概念 ２．看護学でコミュニケーションを学ぶ意義	講義 個人ワーク グループワーク
12 回	コミュニケーションの基本的要素と分類 １．コミュニケーションの構造・基本的要素 ２．コミュニケーションの分類 ３．コミュニケーションのプロセス	講義 ロールプレイ

13 回	看護のためのコミュニケーションの技法１ 　　コミュニケーションの技法の種類と内容	講義
14 回	看護のためのコミュニケーションの技法２ 　　技法を意識したコミュニケーション体験	演習
15 回	看護のためのコミュニケーション体験 　　患者-看護師関係を想定したコミュニケーション （空間的要素、関係性を意識したコミュニケーション体験）	ロールプレイ 事後レポートあり

●単位認定の方法

１．出席時間について

30 時間中 24 時間以上の出席があること

２．評価の割合：以下の評価方法で 100 点満点中、60 点以上の得点があること

１）終講試験…50 点

２）看護コミュニケーションのレポート…10 点

３）実技試験…30 点

４）ポートフォリオ…10 点

①日々の学習内容を時系列にファイルする（2 点）

②自己学習の成果がわかる（4 点）

③本科目の学びと自己の成長について 400 字程度にまとめる（4 点）

上記１）～４）を合わせて合計 100 点のうち 60 点以上を合格とする

３．上記の条件を満たしたものは看護共通基本技術の単位を 1 単位取得できる。

●受講上のアドバイス

この科目では、あらゆる看護場面で必要となる知識と技術を学びます。みなさんも普段の生活のなかで「感染を予防する」、「生活環境を整える」、「コミュニケーションをとる」という行為をしていると思いますが、そこに看護のエッセンスを加えて、根拠に基づいた知識や技術を習得していきます。看護学校に入学して初めて習得する看護技術です。看護技術を習得することの喜びをみんなで実感しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	39	フィジカルアセスメント	1	30	1年次 後期	専任教師	○

テキスト （発行所）	看護がみえる　Vol.3　フィジカルアセスメント（メディックメディア）
副教材 参考図書	フィジカルアセスメントワークブック（医学書院） 系統別看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ

●学習のねらい

身体を系統的に観察する方法を中心に、対象者の健康状態をアセスメントするための知識と技術を学ぶ

●学習目標

1．フィジカルアセスメントの概念、目的・意義について理解する

2．バイタルサイン、フィジカルイグザミネーションの根拠や留意点をふまえて基本技術を習得する

3．バイタルサイン、フィジカルイグザミネーションの結果から身体状態をアセスメントする

●学習スケジュール

回数	主題と学習内容	履修形態、他
1回	<u>バイタルサイン～体温～</u> 1．バイタルサイン測定の意義 2．体温 1）体温測定の意義 2）体温調節の機序 3）体温の影響因子 4）体温測定の方法	講義
2回 3回	<u>バイタルサイン～脈拍・血圧～</u> 1. 脈拍 1）脈拍測定の意義 2）脈拍調節の機序と影響因子 3）脈拍測定の方法 2. 血圧 1）血圧測定の意義 2）血圧調節の機序と影響因子 3）血圧測定の方法	講義

4 回	バイタルサイン～脈拍・血圧測定演習～ 1. 脈拍測定の実施 2. 血圧測定の実施 1）触診法 2）聴診法	演習（実習室）
5 回	バイタルサイン～呼吸～ １．呼吸測定の意義 ２．呼吸調節の機序と影響因子 ３．呼吸の性状と種類 ４．呼吸測定の方法	講義
6 回	フィジカルアセスメントとは １．「生きている」ための機能、「生きていく」ための機能 ２．フィジカルアセスメントとは ３．フィジカルアセスメントの原則 ４．フィジカルアセスメントの基本技術	講義
7 回	「生きている」機能のフィジカルアセスメント～呼吸器系～ １．呼吸器系の解剖と生理 ２．呼吸器系のフィジカルアセスメントの基本技術	小テスト① 「ワークブック」p２～23 講義
8 回	「生きている」機能のフィジカルアセスメント～呼吸器系演習～ 呼吸器系フィジカルアセスメントの基本技術の実施	演習（実習室）
9 回	「生きている」機能のフィジカルアセスメント～循環器系～ １．循環器系の解剖と生理 ２．循環器系のフィジカルアセスメントの基本技術	小テスト② 「ワークブック」p24～45 講義
10 回	「生きている」機能のフィジカルアセスメント～循環器系演習～ 循環器系フィジカルアセスメントの基本技術の実施	演習（実習室）
11 回	バイタルサイン測定を中心とした総合演習 事例を用いたバイタルサイン測定の実施、アセスメント	演習（実習室）
12 回	「生きている」機能のフィジカルアセスメント～消化器系～ １．消化器系の解剖と生理 ２．消化器系のフィジカルアセスメントの基本技術	小テスト③ 「ワークブック」p46～65 講義
13 回	「生きている」機能のフィジカルアセスメント～消化器系演習～ 消化器系フィジカルアセスメントの基本技術の実施	演習（実習室）
14 回	「生きていく」機能のフィジカルアセスメント ～神経系・運動器系～ １．中枢神経系の解剖と生理	小テスト④ 「ワークブック」p66～77 講義

	２．中枢神経系のフィジカルアセスメントの基本技術 １）意識状態 ２）神経学的所見 ３．四肢のフィジカルアセスメント	
15 回	「生きていく」機能のフィジカルアセスメント ～神経系・運動器系演習～ 神経系・運動器系フィジカルアセスメントの基本技術の実施	演習（実習室）

●単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．以下の内容で評価をする。

１）小テストを 4 回行う。計 4 回の小テストの合計を 20%で換算する。（計 4 回で 20 点満点）

２）終講試験・・・・40 点満点

３）実技試験・・・・30 点満点

４）呼吸音シミュレーターを用いた課題…5 点

５）ポートフォリオ・・・・5 点

①日々の学習内容を時系列にファイルする（1 点）

②自己学習の成果がわかる（2 点）

③本科目の学びと成長について 400 字程度にまとめる（2 点）

＊ポートフォリオは、終講試験の翌日、指定時間までに指定場所へ提出する

１）～５）の得点の合計が 60 点以上であれば合格となる。

３．１と２の条件を満たして 1 単位認定とする。

●受講上のアドバイス

人間には「生きている」ための機能と「生きていく」ための機能が備わっています。それらの機能に何か異常がある場合、身体はあるサインを発してくれます。対象者が教えてくれる身体のサインに気付き、必要な看護につなげていくために、解剖生理学の知識をふまえてバイタルサイン測定、フィジカルイグザミネーションの基本技術を学んでいきます。

この科目は、講義で学んだことをすぐに実践できるよう、講義→演習を繰り返していく構成となっています。動画コンテンツが豊富な教科書を使用しているので、予習・復習にも取り組みやすいです。

「視て・触れて・たたいて・聴いて」という技術を通して、身体が教えてくれるサインに気づける力をつけていきましょう。

看護学校に入学して初めて聴診器を使用する技術になります。技術が習得できた時の喜びはとても大きいものです。楽しんで受講してください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	40	日常生活援助技術Ⅰ	1	30	1年次前期	専任教師	○

テキスト（発行所）	基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院）
副教材、参考図書	看護技術　プラクティス　第4版　監修　竹尾恵子　（学研）

●学習のねらい

人間の生命活動に不可欠な食事と栄養摂取、排泄の意義とそのしくみを学ぶ。対象者の健康維持や回復、ニーズの充足を目指した援助を行うための基礎的な知識と技術を習得する。

●学習目標

1. 人間にとっての食事・栄養摂取、排泄の意義を理解する。
2. 食事・栄養摂取、排泄を援助するために必要な知識とアセスメントの視点について理解する。
3. 対象者の安全・安楽に留意し、根拠に基づいた食事・栄養摂取、排泄の基礎的な援助技術を習得する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
単元：食生活を支える援助技術(14時間／30時間)			
1回	「おいしく食べる」とは何だろう ・食べる仕組みと消化吸収のしくみ ・食べるための機能のアセスメント	1. 人にとっての食事のニーズ 2. 嚥下・消化吸収のしくみ 3. 食行動のアセスメント	講義 グループワーク
2回	経口摂取できる人への食事の援助 ・嚥下と体位 ・車椅子での食事摂取	1. 食事の環境を整える援助 2. 食事動作・姿勢	演習 グループワーク (実習室)
3回	食事と栄養を援助するために必要な知識	1.ポートフォリオ学習会	グループワーク
4回	機能障害を持つ人への食事援助	1. 機能障害に応じた食事援助 2. 病院の治療食	グループワーク 演習 (実習室)
5回	経口摂取が困難な人への栄養摂取の方法 経管栄養法による栄養摂取の援助	1. 経腸栄養の基礎的知識 2. 経鼻胃チューブによる栄養摂取の援助の実際	グループワーク (実習室)
6回	栄養がよい、悪いとは ・栄養状態のアセスメント	1. 栄養状態をアセスメントする指標 2. 人に必要なエネルギー、食事内容 3. 水分出納	講義 グループワーク
7回	食欲不振のある対象者への援助	1. 事例に基づいた援助方法の検討 2. 食生活を支える看護師の役割	講義 グループワーク

単元：快適な排泄を援助する技術(16 時間／30 時間)			
8・9 回	床上での排泄援助 排泄のニーズと対象者の心理 排泄のアセスメント	1. 排泄のニーズと援助の基本 2. 排泄のしくみと排泄行動 3. 排泄のアセスメント 4. 便器・尿器の取り扱い	講義 演習 (実習室)
10 回	排泄ケアのための基礎知識 排泄機能障害 ポートフォリオ学習会	1. ポートフォリオ学習会	グループワーク (実習室)
11・12 回	自然な排泄を促す援助方法	1. 車いすを使用した排泄援助 2. ベッドサイドでの排泄援助(ポータブルトイレ) 3. おむつ交換の援助	演習 (実習室・在宅実習室)
13 回	自然な排尿が困難な人への援助	1. 器具の種類と特徴 2. 器具を用いた排尿の援助技術 1）導尿 2）膀胱留置カテーテル	講義 演習 (実習室)
14 回	自然な排便が困難な人への援助	1. 器具の種類と特徴 2. 器具を用いた排便の援助技術 1）浣腸	講義 演習 (実習室)
15 回	排泄障害のある患者の看護	１. 事例検討 2. 排泄行動を援助する看護師の役割	グループワーク

●単位認定の方法

1. 出席時間について

30 時間のうち、24 時間以上の出席があること。

2. 評価の割合：以下の評価方法で 100 点満点中、60 点以上の得点があること

1）終講試験、課題…80 点

①終講試験：70 点

②食事摂取の体験レポート：10 点　＊第４回の講義までに取り組むこと

・体験学習：機能障害を持つ人の食事摂取の体験を行い、気付きや学びをワークシートにまとめる

・フィールドワーク：市販されている食事・栄養を補助する様々な食品、器具を調べる

2）ポートフォリオ…20 点(10 点×2)

＊ポートフォリオは各単元に 1 冊作成する。<u>終講試験翌日の 12：30 提出締め切り</u>とする。

①日々の学習内容が時系列に整理され、見返しやすいようにファイルされている。(1 点)

②自己学習の証が残されている。(2 点)

③本科目の学びと自己の成長について、400～600 字程度にまとめられている。(2 点)

④興味のある学習テーマについてまとめ、ポートフォリオ学習会で発表する。(5 点)

＊調べ学習に使用した資料をポートフォリオに綴っておくこと。

＊1、2 の条件が両方満たされ、日常生活援助技術Ⅰ　1 単位の認定とする。

●受講上のアドバイス

人は生命を維持するために必要な物質や栄養素を取り入れ、不必要な物質・有害物質を体外に排出しています。本科目では、人間の最も基本的な生理的欲求に関わる、食事・栄養摂取、排泄に関する援助技術を学びます。看護技術は、スキルの獲得のみならず、技術の根拠や必要な知識を活用しながら、対象者に応じた援助を創造することが重要です。様々な教材を用いて、講義や演習前後に知識を確認し、学生同士で意見交換を行いながら様々な価値観に触れ、積極的に生活援助技術を学んでいきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	41	日常生活援助技術Ⅱ	1	30	1年次後期	専任教師	○

テキスト（発行所）	基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院）
副教材、参考図書	看護技術プラクティス　第4版　監修　竹尾　惠子（学研）

●学習のねらい

人間にとっての衣生活や、身体を清潔に保ち、身だしなみを整える意義を理解する。対象者の自立度や身体状況をアセスメントし、その人らしく日常生活を送るために必要な整容や清潔援助の基礎的な知識と技術を学ぶ。

●学習目標

1. 人が身だしなみを整えることの意義を理解し、対象者がその人らしく生活するための援助の基本を理解する。
2. 皮膚や粘膜の構造やしくみ、衣服の役割など身体の清潔保持に必要な知識とアセスメントの視点について理解する。
3. 対象者の安全・安楽に留意し、根拠に基づいた身だしなみを整えるための基礎的な援助技術を習得する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	なぜ人は身だしなみを整えるのだろう	1. 清潔・整容の意義を援助の基本 2. 清潔の援助を通して看護すること 3. 清潔・整容の援助のアセスメント	講義
2回	身だしなみが整うとは	1. 身だしなみが整っている人、整っていない人 2. 清潔・整容の援助のアセスメント 3. 衣服の機能と役割	講義
3回	衣生活と寝衣交換	1. 和式寝衣／様式寝衣の寝衣交換 2. 和式寝衣のたたみ方 3. 対象者に応じた寝衣・履物の選定	講義 演習
4回	身体各部の清潔：口腔ケア	1. 口腔の構造と機能 2. 口腔ケアの目的、効果 3. 口腔ケアの援助の方法	講義 演習(実習室)
5回	部分浴と全身浴	1. 全身浴・部分浴の効果 2. 入浴による全身への影響 3. 洗浄剤の効果、湯を使用する効果	講義
6回	身体各部の清潔：手浴、爪切り	1. 手浴の援助の方法 2. 爪切りの援助の方法	講義 演習(実習室)
7回	身体各部の清潔：足浴	1. 足浴の援助の方法	講義 演習(実習室)

8・9 回	身体各部の清潔：洗髪	1. 頭皮の機能 2. 洗髪の援助方法 3. 患者の状態に応じた洗髪の援助技術 （洗髪台、洗髪車、ケリーパッド）	講義 演習(実習室)
10 回	身体各部の清潔：陰部洗浄 身体各部の清潔：顔面の清拭	1. 顔面の機能の回復にむけた清拭の方法 2. 陰部の構造と機能 3. 陰部洗浄の援助の方法	講義 演習(実習室)
11 回	全身清拭の基礎知識	1. 全身清拭の方法 1）ウォッシュクロスの使い方 2）事例に応じた援助の方法	講義 演習(実習室)
12・13 回	身だしなみを整える援助技術⑩ 全身の清拭	1. 全身清拭の援助の方法	演習
14・15 回	対象者の生活に合わせた援助を考える	1. 事例を通して身だしなみを整え、清潔を保つ援助計画の立案 2. 計画に基づいた援助の実施 3. 身だしなみを整えることの意味、看護の役割	講義 グループワーク

●単位認定の方法

1. 出席について：30 時間のうち 24 時間以上の出席があること

2. 評価の割合：以下の評価方法で 100 点満点中、60 点以上の得点があること
   1）ポートフォリオ：5 点
   ①日々の学習内容が時系列に整理され、見返しやすいようにファイルされている。(1 点)
   ②自己学習の証が残されている。(2 点)
   ③本単元の学びと自己の成長について、400～600 字程度にまとめられている。(2 点)
   ＊ポートフォリオは終講試験翌日の 12：30 提出締め切りとする。
   2）終講試験：65 点
   3）実技試験：30 点

＊1、2 の条件が両方満たされ、日常生活援助技術Ⅱ　1 単位の認定とする。

●受講上のアドバイス

人は身だしなみを整えることで、心身を爽快にさせ、社会生活を送るうえでその人らしさを発揮させることができると考えます。日常生活の中で、私たちは当然のように洗顔をして朝を迎え、着替えて外出をし、入浴をして就寝をするという生活リズムが身についていますが、何らかの原因で心身の健康が障害されると、思うように清潔行為が行えない状況が生じます。臨床には、様々な理由で、身だしなみや清潔行動に影響を受けている人が多く、その人のニーズに合わせて、安全に援助を工夫する力が求められます。

本科目では、対象者にとって安全で安楽な清潔援助技術について、基本的な内容を学びます。
科目の特性上、患者の立場で心地の良さを実感することも大切です。また、安楽な技術につなげるために、互いに感想を述べ合いながら進めることで、よりよいケアつながります。演習で学びを深めるために、演習の前には、手順を予習して臨み、実践力を高めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	42	ナーシングバイオメカニクス（Nursing Biomechanics）技術論	1	30	1年次後期	専任教師	○

テキスト	配布資料
副教材、参考図書	デンタルダイヤモンド社、黒岩恭子著、黒岩恭子の口腔リハビリ＆口腔ケア／学研、平田雅子著、完全版ベッドサイドを科学する　看護に生かす物理学

学習のねらい

Nursing Biomechanics(NBM)の概念を理解し、対象者にとっての安全・安楽・自立を目指した、Nursing Biomechanics に基づく生活支援技術を習得する

学習目標

1．Nursing Biomechanics の概念を理解し、生活行動確立に向けたアセスメントの視点を理解する。
2．Nursing Biomechanics を構成する基本の型を習得し、生活動作の自然な動きに添った生活支援技術の適用法を学ぶ。
3．Nursing Biomechanics における基礎的な身体調整技術および身体解放技術を習得する。

各回の主題、履修形態

講義日	テーマ		学習内容（毎回演習があります）
	概論 定義 技術と型	第1回 講義	1. Nursing Biomechanics（NBM）とは 用語の定義 NB技術と看護力の関係について考える（開発者story） 2. NBMの基本的視点（各生活行動確立に向けたアセスメントと背景理論） 技術を構成する型（パターン）の開発
	型 型の根拠	第2回	3. NBMに基づく生活支援技術 1）技術を構成する型（パターン） 物理学の知識活用（重心、ベクトル、慣性モーメント、てこの原理）
	援助技術への構成	第3回	2）活動（移動）の支援技術 車椅子への移乗、スライディングシートの活用方法
	援助技術への構成 観察と援助	第4回 第5回	4. 活動と休息を支援する技術 1）活動：移動（側臥位・水平移動・引き上げ・腹臥位・端座位） 2）休息と生活リズム（姿勢調整・体位のポジショニング） 休息のアセスメント
	コミュニケーション 観察と援助	第6回	5. 活動の支援技術 ストレッチャー移送、足・足趾のアセスメントと歩行（片麻痺、杖）

	技術習得 観察と援助 評価方法	第7回 第8回 第9回	6. 動くための身体を調整する技術 1） 用手微振動と効果のアセスメント一例 2）リラクセーションエクササイズと前後のアセスメント一例 3）ナーシングムーブメントと患者体験
	技術習得 観察と援助 評価方法	第10回 第11回 第12回	7. 排泄行動を支援する技術 1） 腰臀部挙上技術と下肢・下肢帯のアセスメント 2）腸蠕動促進のための技術（体位変換、用手微振動、用手的微振動など） 3）更衣と上肢・上肢帯・手指のアセスメント
	技術習得 観察と援助 評価方法	第13回 第14・15回	8. 食べられる口・コミュニケーションの援助技術 1） 食べることを目指した口腔ケア 2）姿勢調整から口腔リハビリへ 体幹全体のアセスメントと援助計画

準備物品

毎回ジャージで演習参加してください

持参物品は、その都度、連絡します

教材：モアブラシ（まとめて購入します）

単位認定の方法

30 時間のうち 24 時間以上の出席があること

実技チェック（第 2 回～15 回までの講義内で毎回行うもの）：計 50 点分

終講試験　筆記試験 50 点分

実技チェックと終講試験の合計 100 点満点のうち 60 点以上で合格

＊なお、講義をやむを得ず欠席した場合は、技術を確実に身につけてもらうため、
実技チェックのみ指定日に実施します。

受講上のアドバイス

本技術を習得することにより、自らの技術で看護の対象者によりよい変化をおこすことができるようになってほしいと考えています。この科目は、老年看護学の「癒しのケア技術論」での臨床実践力を学ぶためのファーストステップになります。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	43	薬物療法の援助技術	1	30	2年次前期	専任教師	○

テキスト （発行所）	基礎看護学3　基礎看護技術Ⅱ　（医学書院）
副教材 参考図書	わかりやすい与薬　第6版　（テコム） 看護プラクティス第4版　（学研） 看護技術がみえる vol. ２　臨床看護技術　（メディックメディア）

●本単元の学習のねらい
薬物療法における看護師の役割を理解し、対象者の健康の維持・回復・増進に向けた与薬時の援助に必要な基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。
一つひとつの行為に立ち止まり、安全を確認しながら正確に看護実践する姿勢を培う。

●学習目標
1. 薬物の効果が効果的かつ安全に生体に作用するための与薬に関する基礎的知識を習得する。
2. 薬物療法における看護師の役割と看護の原則について理解する。
3. 各与薬法の特性を理解し、安全かつ安楽に実施するための基礎的技術・態度を習得する。
4. 薬物療法における医療安全と法的責任について理解できる。
5. 薬物療法による対象の身体や心理的影響など、個々の状況に応じた援助を考えることができる。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態,他
1回	薬物療法に携わる看護師に必要な基礎知識	1. 薬物療法とは 2. 薬物療法に関する法律 1)医薬品の取り扱いに関する法律 2）看護師の法的責任 3. 薬物療法に携わる職種と看護師の役割	講義
2回	注射に関する知識	１．注射法とは 2. 注射の種類と適応 3. 注射に伴う危険 4. 注射器具、注射薬の安全な取り扱い	講義
3回	注射器具・注射薬の取り扱い	1. 注射器具の取り扱い ２．注射薬の取り扱い 1)アンプルカット 2)薬液の吸い上げ	演習(実習室)
4回	注射法① 筋肉内注射、皮下注射、皮内注射に関する知識	１．各注射法の基礎知識 １)適応、効果 ２）注射部位と援助方法 ３）留意点や合併症	講義
5回	筋肉注射・皮下注射の援助技術	１．筋肉内注射の援助 ２. 皮下注射の援助 (1,2どちらかを選択して実施します) ※レポート課題	演習(実習室)

6 回	内服薬、外用薬の与薬に関する知識と援助方法	1．内服薬、口腔内与薬、直腸内与薬、外用薬、吸入薬、点眼・点入薬 1）各与薬法の特徴、効果、留意点 2）与薬時の援助方法、アセスメントの視点	講義
7 回	内服薬・吸入薬・直腸内与薬の援助技術	1．内服の援助 2．吸入薬の種類と援助 3．坐薬の取り扱いと援助方法 （デモンストレーション） ※レポート課題	講義 演習(実習室)
8 回	注射法② 静脈内注射の基礎的知識と援助の方法	1．静脈注射の基礎知識 1）静脈注射 2）点滴静脈内注射 3）中心静脈注射 2．看護業務の法的範囲の変遷	講義
9・10 回	点滴静脈内注射の援助の技術	1．翼状針を用いた点滴静脈内注射 2．中心静脈注射の混注方法 （デモンストレーション） ※レポート課題	演習(実習室)
11 回	注射法③ 点滴静脈内注射の基礎的知識と援助の方法	1．点滴静脈内注射 （長時間持続注入） 1)注射薬、使用物品の取り扱い （混注法、三方活栓） 2）合併症と予防、対処法 3）日常生活への影響 2．ハイリスク薬剤の安全な取り扱い	講義
12・13 回	点滴静脈内注射の援助の技術	1．留置針を用いた点滴静脈内注射 2．三方活栓の取り扱い ※レポート課題	演習(実習室)
14・15 回	総合演習	1.点滴静脈内注射時のトラブル対応 2.事例を通して薬物療法を支援する看護を考える	演習(実習室) グループワーク

●単位認定の方法

1. 出席について：30 時間のうち 24 時間以上の出席があること
2. 評価の割合：以下の評価方法で 100 点満点中、60 点以上の得点があること

1）ポートフォリオ：10 点

①日々の学習内容が時系列に整理され、見返しやすいようにファイルされている（1 点）

②自己学習の証が残されている（7 点：評価基準は以下の通り）

＊予習・復習や興味関心に対する学習の証がある(2 点)

＊事例について、必要な学習に取り組んでいることが分かる(3 点)

＊講義のリフレクションシートを毎回提出している(2 点)

③本単元の学びと自己の成長について、400 字程度にまとめられている（2 点）

※ポートフォリオは終講試験翌日の 12：30 提出締め切りとする

2）終講試験：70 点

3）演習の事前課題・演習後のレポート　5点×4回(20 点)　：評価基準は以下の通り

①事前学習の取り組み内容：事例に沿って事前学習ができている(薬理作用、手技、留意点など)…2 点

②演習での学び、感想や自己の考え：演習で学んだ内容、自身の考えが述べられている…2 点

③演習後の取り組み内容:演習後に演習レポートの内容を追加修正し、復習している：１点…１点

１・２の条件が両方満たされ、薬物療法の援助技術　１単位の認定とする。

●受講上のアドバイス

薬物療法は、対象者の健康の回復・維持・増進のために日常的に行われています。それは医療現場に限らず、社会の動向としても様々な種類の薬物が市販される時代になっており、薬物療法は身近なものとなっています。

一方で薬物には、それぞれの特徴によるリスクも伴います。薬物が安全かつ効果的に作用するように、薬物療法に関する知識や看護の原則、さらに対象の生活を考え、アセスメントする視点を学んでいきましょう。

また与薬は診療の補助業務に含まれています。看護師には業務範囲や法的責任を理解したうえで安全・安楽に援助を行うことが求められます。講義を通して一つひとつの行為に立ち止まり、確認する姿勢を身につけてほしいと思います。

演習では臨床に近い事例を設定し、モデル教材を用いて薬物療法に関わる看護を実践します。その際には、様々な知識を関連させて根拠を持つことが効果的な演習につながります。予習・復習を行ったうえで演習に取り組み、みなさんで学びを深めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	44	診療の補助技術	1	30	2年次後期	専任教師	○

テキスト（発行所）	基礎看護学3　基礎看護技術Ⅱ　（メヂカルフレンド社）
副教材、参考図書	看護がみえる　Vol. 2　臨床看護技術　（メディックメディア） 看護プラクティス第4版　監修　竹尾　惠子　（学研）

●学習のねらい

対象者の身体症状を観察するための検査・診断・治療に関する安全で正確な知識と技術を学ぶ。対象者が安全に検査や処置を受け、身体症状を緩和して安楽に療養生活を送るための知識と技術を習得する。

●学習目標

1. 身体症状を緩和し、恒常性を維持するための基本的な看護技術を習得する。
2. 医療機器・器具の原理をもとに、対象者に安全に作用するための取り扱い方法を理解する。
3. 対象者に指示された検査や治療の意味を理解し、診療の補助技術を安全に実施する。
4. 検査や治療に携わる看護師の役割について理解する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
単元：呼吸・循環を整える技術(16時間／30時間)			
1回	呼吸・循環を整えるとは 呼吸を楽にする援助①	1. 呼吸・循環を援助するとは、 2.呼吸状態のアセスメントの視点 3. 呼吸を楽にする援助 1）姿勢　2）呼吸法	講義 演習
2回	呼吸を楽にする援助② 酸素吸入療法	1. 酸素吸入療法のしくみと原則 2. 酸素供給方法(中央配管、酸素ボンベ、酸素濃縮器) 3. 酸素吸入療法に伴う合併症や注意点	講義
3回	呼吸を楽にする援助③ 呼吸状態をアセスメントして援助を実施しよう(酸素吸入療法)	1. 中央配管システム、酸素ボンベを用いた酸素吸入の援助 2. 呼吸を楽にする姿勢や呼吸法	演習
4回	呼吸を楽にする援助④ 気道分泌物の排出の援助	1. 気道内分泌物の自然排出の援助 2. 一時吸引法 1）口腔・鼻腔　2）気管内吸引	講義 演習
5回	呼吸を楽にする援助⑤ 呼吸状態をアセスメントして援助を実施しよう(気道内分泌物排出の援助)	1. 口腔・鼻腔/気管内吸引の手順 2. 吸引器のしくみと構造 3. 各種排痰法の援助の実際	演習

6 回	循環を整える援助 罨法	1. 罨法の目的、基礎知識 2. 温罨法の手順 3. 冷罨法の手順	講義 演習
7 回	循環を管理する援助① ME 機器の使用と看護 【輸液ポンプ/シリンジポンプ】	1. 輸液ポンプ/シリンジポンプの基礎知識 2. 輸液ポンプ/シリンジポンプ使用時の看護 3. トラブル対応、安全管理	講義 演習
8 回	循環を管理する援助② ME 機器の使用と看護 【心電図モニター/12 誘導心電図】	1. 心電図モニター/12 誘導心電図の基礎知識 2. 心電図モニター/12 誘導心電図使用時の看護	講義 演習
単元：検査・治療を安全に行う技術(14 時間／30 時間)			
9 回	創傷管理技術	1. 創傷管理の基礎知識 2. 包帯法	講義 演習
10 回	検査を安全かつ正確に行う技術 各種検査の方法と看護	1. 検査で何がわかるのか 2. 各種検査の方法と検体の取り扱い 3. 検査時の看護	講義 グループワーク
11 回	検査を安全かつ正確に行う技術 生体検査に関する発表会	1. グループワーク発表会 2. 検査時の看護まとめ	グループワーク 発表会
12 回	検査を安全かつ正確に行う技術 採血	1. 採血に関する基礎知識 1）血液検査とは 2）採血の部位と方法 3）使用器具	講義
13 回	検査を安全かつ正確に行う技術 採血の技術演習①	1. 採血の手順と看護 1）注射器を用いた採血 2）検査指示書の確認	演習
14・15 回	検査を安全かつ正確に行う技術 採血の技術演習② PF 学習会	1. 採血の手順と看護 1）真空管を用いた採血 2）検体の取り扱い 3）採血に伴うリスクと予防法	演習

●単位認定の方法

1. 出席時間について
   30 時間のうち 24 時間以上の出席があること。
2. 評価の割合
   1）終講試験…80 点
   2）グループワーク(第 10・11 回)の取り組み…10 点
   3）ポートフォリオ…10 点
   ①日々の学習内容が時系列に整理され、見返しやすいようにファイルされている。(1 点)
   ②自己学習の証が残されている。(2 点)
   ③本単元の学びと自己の成長について、400 字程度にまとめられている。(2 点)
   ④PF 学習会で、「検査に関する技術」から自分でテーマを決めてまとめ、発表する。(5 点)

   ※ポートフォリオは終講試験翌日の 12：30 提出締め切りとする。

＊1、2 の条件が両方満たされ、診療の補助技術　1 単位の認定とする。

●受講上のアドバイス

本科目では、人間の生命維持に直結する呼吸・循環機能を整える援助技術と、検査や治療に必要な看護技術を学びます。対象者の症状を正しくアセスメントし、対象者が抱える苦痛を諸側面から理解し、様々な医療機器や器具を用いて援助する技術を習得していきましょう。

医療現場において、検査・診断・治療に関する医療機器は改良が進められ、操作も簡便になっていますが、看護で求められる技術は、ただ使用方法を理解することではありません。対象者の症状からアセスメントを進め、それらの機器が示す情報を読み取り、適切に医療機器や器具を使用できる技術を身につけていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	45	看護の思考Ⅰ	1	30	1年次 前後期	専任教師	○

テキスト （発行所）	系統別看護学講座　専門分野　基礎看護学[2]　基礎看護技術Ⅰ 系統看護学講座　臨床看護総論（医学書院）
副教材 参考図書	

●学習のねらい

看護師が、対象者を目の前にしたとき、何を考え、どう行動するのかという看護の思考について学ぶ。事例を通して、対象者の身体に起きている変化や諸側面への影響について分析的に推論し、看護につなぐ過程を学び、「看護師のように考える」思考の基盤を養う。

●学習目標

1. 看護の基盤となる思考について理解する
2. 専門基礎分野の知識を用いて「看護師のように考える」ための分析・解釈の方法を理解する
3. 分析・解釈の結果をふまえて、その場に応じた看護を考える
4. 関心をもって授業に参加し、他者の考えや意見を受け入れながら、自己の推論力や思考の幅を広げる

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	看護の基盤となる思考	1．クリティカルシンキング 2．リフレクション 3．問題解決思考	講義
2回	臨床推論と臨床判断	1．臨床推論と臨床判断 2．臨床の思考過程 1）「看護師のように考える」とは 2）臨床判断モデルの構成要素 3．看護の思考を記録する方法	講義
3回 4回	「発熱」のある人への看護	1．「発熱」が起こる原因、機序 2．「発熱」による日常生活への影響 3．看護の視点、判断の根拠	個人ワーク グループワーク 提出課題あり

5 回 6 回	「痛み」のある人への看護	1.「痛み」が起こる原因、機序 2.「痛み」による日常生活への影響 3．看護の視点、判断の根拠	個人ワーク グループワーク 提出課題あり
7 回 8 回	「食欲不振」のある人への看護	1.「食欲不振」が起こる原因、機序 2.「食欲不振」による 日常生活への影響 3．看護の視点、判断の根拠	個人ワーク グループワーク 提出課題あり
9 回 10 回	「倦怠感」のある人への看護	1.「倦怠感」が起こる原因、機序 2.「倦怠感」による 日常生活への影響 3．看護の視点、判断の根拠	個人ワーク グループワーク 提出課題あり
11 回 12 回	「呼吸困難」のある人への看護	1.「呼吸困難」が起こる原因、機序 2.「呼吸困難」による 日常生活への影響 3．看護の視点、判断の根拠	個人ワーク グループワーク 提出課題あり
13 回 14 回	「浮腫」のある人への看護	1.「浮腫」が起こる原因、機序 2.「浮腫」による日常生活への影響 3．看護の視点、判断の根拠	個人ワーク グループワーク 提出課題あり
15 回	看護過程と臨床判断モデル	1．看護過程とは 2．臨床判断モデルとは 3．臨床判断とのつながり	講義

●単位認定の方法

1．30 時間のうち 24 時間以上の出席があること

2．評価の対象、配分：以下の評価方法で 100 点満点中、60 点以上の得点があること

1）第 3 回～第 14 回で取り組む課題の評価　　50%

グループワークへの参加度、自己学習の取り組み、提出物の内容、

ポートフォリオ、リフレクションシート、提出期限の厳守をふまえて評価する

2）終講レポート（事例を用いた課題）の評価　　50%

（評価の指標は講義内で提示する）

●受講上のアドバイス

看護は思いつきで行うものではなく、知識に基づく思考により導き出されるものです。看護理論家のウィーデンバック氏は「看護師には訓練された思考と感情が必要」と、ベナー氏は「思考することなしに看護は成立しない」と提唱されているように、看護の実践にはとにかく「考える」ことが必要になります。

では、看護師は対象者を目の前にしたとき、何を考え、どう行動につなげているのでしょうか？そこには、目の前にある現象を解釈→判断→実践するという臨床判断が存在しています。臨床判断の力をつけていくためには、看護学校で学ぶ基礎知識、「おや？」と思う問題意識、「もっと知りたい」という好奇心・探求心、そして臨地実習での経験が大切になります。

この科目は、みなさんが今後、臨床判断の力＝「看護師のように考える」力を身につけていくための入門編です。みなさんにも馴染みのある症状の事例を通して、今まさに学び始めた知識、みなさんの好奇心・探求心をフルに活用して、「看護師のように考える」を体験しましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	46	看護の思考Ⅱ	1	30	２年次前期	専任教師	○

テキスト（発行所）	メディックメディア　看護がみえる Vol.４　看護過程の展開
副教材、参考図書	講義内で紹介

学習のねらい

看護に求められる思考プロセスの一つである看護過程について学ぶ。
直感的で瞬時の判断が求められる臨床判断力と合わせて、系統的・網羅的に、対象者にとっての最適かつ個別な看護について科学的に考えていく力を養う。

学習目標

１．看護を実践するための思考過程が理解できる
２．健康状態と人間の反応について関連させて思考する方法を理解し、対象者を看護するために必要な情報をアセスメントし、意図をもち個別性をふまえた看護を考える

各回の主題、履修形態

回数	主題	学習内容	履修形態　他
1 回	看護過程とは何か 看護過程のステップ アセスメント	看護過程と問題解決法	講義
2 回	PBL による学び方のオリエンテーション PBL による看護過程の演習①	シナリオ配布	グループワーク
3 回	PBL による看護過程の演習②	シナリオ追加	グループワーク
4 回	PBL による看護過程の演習③	シナリオ追加	グループワーク
5 回	PBL による看護過程の演習④		グループワーク

6 回	中間発表		発表会 ポートフォリオ提出
7回	看護過程のステップ 全体像の描写 看護上の問題、目標 看護計画の立案		講義
８回	PBL による看護過程の演習⑤		グループワーク
9 回	PBL による看護過程の演習⑥		グループワーク
10 回	PBL による看護過程の演習⑦		グループワーク
11 回	PBL による看護過程の演習⑧		グループワーク
12 回	最終発表会（看護計画発表）		発表会
13 回	最終発表会（看護計画発表）		発表会 ポートフォリオ提出
14 回	臨床看護論実習Ⅱを終えて、 看護過程の展開を振り返る 看護過程のまとめ		講義 グループワーク
15 回	看護記録について まとめ	１．記録 ＰＯＳについて ＳＯＡＰについて ２．看護過程をどう捉えたか	講義 最終ポートフォリオ提出

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．以下の方法で 60 点以上で合格とする

１）グループワークで提出された看護計画立案までをまとめたもの
（評価基準は講義で提示）・・・30 点

２）ポートフォリオ(ルーブリックで自己評価・他者評価を行う)・・・40 点

３）終講テスト・・・30 点

３．１・２の条件を満たしたものは看護過程の単位を１単位取得できる。

受講上のアドバイス

本科目では、知的に、科学的に看護を実践するための思考過程の一つである看護過程を学びます。事例を通して、看護が解決していく問題をどうやって発見し、解決策を見出していくのかというプロセスを演習していきます。

臨床看護論実習Ⅱでは、この看護過程を実際に展開してもらいます。「看護の思考Ⅰ」で学んだ問題解決過程、意思決定過程、クリティカルシンキング、リフレクションなどの思考を用いて、対象者の健康上の問題を見極め、最適かつ個別的な看護について考えていきましょう。

小グループでの PBL に、主体的に参加してください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	47	臨床実践探究	1	30	３年次 前期	非常勤講師 専任教師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　看護研究（医学書院）
副教材、 参考図書	

●学習のねらい

自己の看護実践を振り返りながら、研究的視点を養う。

また、看護研究を通して、問題解決思考を高めると同時に自己の看護観を深め、確立していく。

●学習目標

１．看護研究を行う意義、方法、研究プロセスを理解できる

２．文献検索ができ、その活用方法が理解できる

３．看護研究における倫理的配慮の意義が理解できる

４．事例研究において、看護理論、文献を活用しながら自己の看護実践の意味づけ、新たな知見を見出し、自己の看護観を深め、論文として表現することができる

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
１回	看護研究についてガイダンス 研究疑問を見つけよう	・看護研究の進め方	講義
２回	看護研究の意義･看護研究の進め方①	・看護研究の意義 ・看護研究のプロセス ・看護研究における倫理的配慮	講義
３回	看護研究の意義･看護研究の進め方②	・リサーチクエスチョン ・研究方法（研究デザイン） ・文献検索について	講義
４回 ５回	京都府立医科大学にて文献検索演習	・文献検索の方法 ・研究テーマの絞り込み	演習 詳細は別途提示

6 回 ～ 13 回	事例研究の実際	・リサーチクエスチョンをもとに研究テーマの絞り込み ・文献マップの作成 ・看護研究計画書の作成 ・論文作成 ＊担当教員の指導を受けながら論文作成を進める。	演習
14 回 15 回	看護研究発表会	詳細は別途提示	詳細は別途提示

●単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．期日までの課題、論文提出で評価をする

＊論文の評価方法

ルーブリックに基づいて評価し、その結果を評価点数とする。

評価点数 60 点以上で合格とする

●受講上のアドバイス

看護は、時代の流れとともに考え方や実践方法が少しずつ変化しています。それは、看護の現場から生まれる「あれ？」「おや？」という小さな疑問がきっかけになっています。

みなさんが実習で実践した看護も、多くの看護研究から導き出されたものです。みなさんのこれまでの看護実践を思い出してみると、その時はあまり気に留めなかったけど、今考えると「何でだろう」「本当にあれでよかったのかな」と思うことはありませんか？

この科目では、みなさんの看護実践から生まれた疑問に焦点をあて、看護研究のプロセスに沿って、客観的に論理的に分析・解明していきます。そして、みなさんが行った看護の意味づけを行い、看護観の確立につなげてほしいと思っています。

論文作成では、自分が考えたことをわかりやすく表現することに苦労すると思いますが、看護研究の第一歩として、積極的に取り組んでほしいと思います。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	48	くらしと健康	1	15	1年次前期	専任教師	○

テキスト （発行所）	医学書院　地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論　1
副教材 参考図書	医療福祉総合ガイドブック

●科目のねらい

人が「くらす」とはどういうことか、人々と環境の関わりを理解し、地域の生活環境が健康に与えている影響を考える。

●学習目標

1. くらしとはどのようなことか考えられる。
2. 地域にくらす対象が多様であると理解できる。
3. 地域における対象の生活の場が多様であると理解できる。
4. 環境について理解できる。
5. 環境がくらしや健康に及ぼす影響について考えられる。
6. 地域で看護師が働く様々な場を知る。
7. くらしを支える看護について考えられる。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	自分のくらし	1. 自分自身の生活からくらしを考える	講義 個人ワーク
2回 3回 （45分）	ライフサイクルに応じたくらし	1. ライフサイクル別のくらし 2. 様々なライフスタイルから見えること	講義 グループワーク
4回	生活の場としての地域	1. 居住地域の特性 2. 地域で行われている健康維持・増進、介護予防を目的とした活動 3. 地域包括支援ケアシステム 4. 自助・互助・共助・公助	講義 グループワーク
5回	様々な療養生活の場	1. 地域の中の療養生活の場 （自宅・施設・病院 etc.） 2. その人らしいくらしと看護	講義 グループワーク
6回	地域・在宅看護の実践の場	1. 看護師が働く様々な場 2. 人々が求める看護師の役割	講義 グループワーク
7回	環境と健康	1. 環境の概念 2. 人間と環境の関連性 3. 物理的、文化・社会的、人的環境 4. 生活環境が健康に及ぼす影響	講義

8 回	くらしを支える看護	1. 環境を整える意義 2. くらしの中のリスク・災害	講義

●単位認定の方法
1. 出席について：15 時間のうち 80%以上の出席があること
2. 評価の割合： 1)レポート課題① 40 点　課題② 50 点
2)ポートフォリオ 5 点
①日々の学習内容を時系列にファイルする。
②自己学習の成果が分かる
3)グループワーク参加態度 5 点
①自己の意見を述べている ②他者の話を聞く態度。
1)～3)の合計点数が 60 点以上あること。

●事前課題 ワークシート①②
① 第1回目の授業の一週間前に配布する
② 第1回目の授業終了時に配布する。
※授業で使うため必ず取り組み持参すること。

●受講上のアドバイス
本講義では、自分自身の生活も含めて“くらしとは何か？”について考えてみてください。講義を一方的に聞くのではなく、生活や地域・健康に関する様々な知識を主体的に得ることと併せて、得た知識を繋げて視野を広げて欲しいと思っています。本講義の学びは、看護の対象と看護の役割を考える上での基盤となるものです。特に、ヘルスケア教育論や生活者看護論実習とも繋げて、くらしに対する考えを深めていってほしいと願っています。

課題① 「看護覚え書」を読み内容をまとめて提出する。
・ナイチンゲールの考えや、新たに得た知識についてまとめる。
・本文のⅠ～ⅩⅢ章のうち、興味を持った 3 つを選び内容を要約する。
・本文の引用だけにならないように、自己の考えも併せて表現すること。
＊内容の詳細は別途示す。
提出期限：5 月 9 日
提出場所：別に指示する
形式：A4 サイズ 字数制限なし

課題② 「私が考えるくらしを支える看護とは」
・地域(環境)が健康に与える影響を述べること。
・くらしの中で看護師が環境を整える意義について述べること。
・自己の考えを表現すること。
＊内容の詳細は別途示す。
提出期限：終講後 （日時については講義中に示す）
提出場所：別に指示する
形式：A4サイズ 字数制限なし 文章だけでなく表やグラフなどを使用することも可

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	49	ヘルスシステム論	1	30	1年次後期	専任教師 非常勤講師	○

テキスト （発行所）	医学書院　地域・在宅看護の基盤　地域・在宅看護論１ 医学書院　地域・在宅看護の実践　地域・在宅看護論２
副教材 参考図書	医療福祉総合ガイドブック 公衆衛生が見える

●科目のねらい

くらしを支える看護について具体的に考え、地域・在宅看護の活動と役割を理解する。
地域・在宅看護論に関連する法律・制度・施策を学び、人々のくらしを支える地域・在宅看護の実践に活かす。

●学習目標

1. 地域・在宅看護における「くらしを支える看護」についてイメージできる。
2. 地域に暮らす人々とその家族の多様な健康ニーズについて学び、看護の役割を理解する。
3. 人々のくらしの中にあるリスクや災害について学び、看護の役割について理解する。
4. 地域・在宅看護の実践に必要な法律・制度・施策について学ぶ。
5. 地域・在宅看護マネジメントについて理解する。
6. 介護保険における様々な地域・在宅看護マネジメントを理解する。
7. 地域包括ケアシステムのおける多職種連携を理解し、看護師に求められている役割について考える。
8. 様々な看護実践の場での看護の役割と活動を理解する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
１回	地域におけるくらしを支える看護	1. くらしを支える看護とは 2. 地域・在宅看護の基盤となる考え 2. くらしを支える看護とは 3. 看護師に求められる能力	講義・GW
２回	地域・在宅看護に必要な概念	1. 地域・在宅看護を学ぶ背景 2. 必要な概念 地域医療構想・地域包括ケアシステム 予防活動・多職種連携	講義・GW
３回	地域・在宅看護にかかわる制度① 介護保険・医療保険制度	1. 医療保険制度 2. 介護保険制度 3. 介護保険によるサービスを調べよう	講義・GW
4回	地域・在宅看護マネジメント	1. マネジメントとは 2. ケアマネジメントとは 3. 地域・在宅看護マネジメント 4. 地域連携クリニカルパス 5. 退院支援・継続看護	講義・GW
5回 6回	地域・在宅看護マネジメント① 地域包括支援センターの活動と 地域での取り組み	1. 地域包括支援センターの活動と役割 2. 介護予防ケアプランの作成と実際	講義・GW

7回 8回	地域・在宅看護マネジメント② ケアマネージャーの活動と役割	1. 地域・在宅看護マネジメントとは 2. ケアマネージャーの活動と役割 3. サービス担当者会議の目的とサービス調整の実際	講義・GW
9回 （5回）	地域・在宅看護にかかわる制度② 訪問看護の制度	1. 住まいで提供される看護　訪問看護 2. 訪問看護における看護職の役割 3. 訪問看護のあゆみ 4. 対象者の特徴	講義
10回 （6回）	地域・在宅看護にかかわる制度② 訪問看護の制度	1. 訪問看護の利用者 2. 訪問看護ステーションに関する規程 3. 訪問看護利用までの手順	講義
11回 （7回）	地域・在宅における家族への看護	1. 家族の定義 2. 家族の機能 3. 家族形態の変化・介護の状況 4. 家族の力	講義・GW
12 回 （8回）	地域・在宅における家族への看護	GW 発表	小テスト （10点）
13回 （9回）	地域・在宅で暮らす対象者と家族を考える① 介護負担が引き起こす社会問題	1. 家族介護に寄り引き起こされる問題 2. 高齢者虐待、介護離職、ダブルケア、ヤングケアラー 3. レスパイトケア	講義・GW 課題（10点）
14回 （12回） 15回 （11回）	地域・在宅で暮らす対象者と家族を考える② みんなで看護を考えよう！	1. 在宅酸素療法を行う人を支える看護 2. 対象のめざす姿と看護 3. まとめ	事例学習 GW・発表

●単位認定の方法

1. 出席について：30 時間のうち 80%以上の出席があること。
2. 評価の項目と割合割合

項目	配点
終講試験	80 点
課題レポート	10 点
小テスト	10 点
合計	100 点

3. 1 の条件を満たし、かつ 2 の合計点が 60 点以上あること。

●受講上のアドバイス

今や看護の活躍の場は医療機関だけでなく、地域・在宅でのくらしや多様な施設に広がっています。そのうえで対象者の多様性・複雑性に対応するには、多職種と連携しながら看護を創造する力が必要です。ともに人々の地域でのくらしを支える看護を学びましょう！

●その他（課題レポートと小テスト）

1. 課題レポート（10 点分）
   詳細後日
2. 小テスト（10点分）
   1）内容：地域・在宅看護の実践に必要な法律・制度・施策（介護保険制度・医療保険制度の仕組みと訪問看護等）について問う。
   2）時期：講義中に実施（約 10 分）

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門 地域・在宅看護論	50	ヘルスケア教育論Ⅰ	1	20	1年次 前期	健康生活支援 講習指導員 専任教師	○

テキスト （発行所）	赤十字健康生活支援講習教本
副教材 参考図書	地域で支える認知症（日本赤十字社）

●科目のねらい

ヘルスプロモーションの考え方や赤十字健康生活支援講習を通して、地域でくらす高齢者が健やかに生きるために必要な健康増進の知識や支援、事故予防や自立に向けた自助・互助・共助などの考え方を学び、くらしを支えるための方法や指導ができる基礎的能力を身につける。

●学習目標

1. ヘルスプロモーションの考え方について理解する。
2. 地域でくらす人々に対して、くらしを支えるための知識・技術・態度を習得する。
3. 赤十字健康生活支援講習支援員を取得する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションとは	講義、実技
2回	赤十字健康生活支援講習	赤十字健康生活支援講習について 高齢者の健康と安全① 高齢者の理解 高齢者の健康と安全② 手当と観察 地域における支援活動① 地域における支援活動② レクリエーション、外出 日常生活のおける介護①―1 介護にあたって、居室の環境、移動 日常生活のおける介護①―2 居室の環境、移動 日常生活における介護②―1 車椅子への移動動作、食事	
3回			
4回			
5回			
6回			

回数	主題	学習内容	履修形態、他
7 回	赤十字健康生活支援講習	日常生活における介護③―1 排泄、着替え、清潔 日常生活における介護③―2 清潔 日常生活における介護④－1 認知症高齢者への対応 日常生活における介護⑤―1 人生のエンディングを考える、介護者の健康管理 日常生活における介護⑤―2 癒しのハンドケア 学科試験	講義、実技
8 回			
9 回			
10 回			

●単位認定の方法

1. 赤十字健康生活支援講習規定に基づいた講習時間や検定の要件を満たし、赤十字健康生活支援講習支援員を取得する。
2. 出席について：30 時間のうち 80%以上の出席があること

1)と2)の要件を満たし、本科目の認定とする。

●受講上のアドバイス

本講義は、赤十字の理解につながる科目で、在学中に取得した資格を学校生活で活用することができます。在学中に学ぶ他の赤十字講習会と合わせて地域でくらす人々を支えるための知識・技術・態度を習得し、赤十字の一員としての自覚ができ、今後は地域でも貢献できることを期待しています。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	51	ヘルスケア教育論Ⅱ	1	20	2年次 後期	専任教師 幼児安全法指導員	○

テキスト （発行所）	赤十字幼児安全法講習教本 赤十字幼児安全法　乳幼児の一次救命処置教本
副教材 参考図書	呼気吹込み用具

●科目のねらい

ヘルスケア教育論Ⅰで学んだ赤十字の健康教育の内容を踏まえて、「赤十字幼児安全法」を通して、地域でくらす子どもの健やかな成長の支援や、安心して安全にくらすための事故予防の方法や地域住民への指導ができる基礎的能力を身につける。

●学習目標

1. 地域でくらす子どもや子育て支援に対して必要な知識・技術・態度を習得する。
2. 乳幼児に対する一次救命処置について習得する。
3. 赤十字幼児安全法支援員を取得する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1回	地域コミュニティにおける自助・互助の力を高める	地域コミュニティの活性化と赤十字講習会の役割	講義、実技
	赤十字幼児安全法	赤十字幼児安全法とは 子どもの成長発達と事故予防	
2回		子どもの応急手当①	
3回		子どもの応急手当②―1	
4回		子どもの応急手当②―2	
5回		乳幼児の一次救命処置	
6回		子どもの病気と看病の仕方①	
7回		子どもの病気と看病の仕方②	
8回		地域の子育て支援①―1	
9回		地域の子育て支援①―2 遊びの紹介 学科試験	
10回		実技検定	

●単位認定の方法

1. 赤十字幼児安全法講習規定に基づいた講習時間や検定の要件を満たし、赤十字幼児安全法支援員を取得する。
2. 出席について：20 時間のうち 80%以上の出席があること

1)と2)の要件を満たし、本科目の認定とする。

●受講上のアドバイス

本講習は、卒後の教育とも関連している科目です。在学中に学ぶ他の赤十字講習会と合わせて、地域でくらす人々を支えるための知識・技術・態度を習得し、赤十字の一員として地域でも貢献できることを期待しています。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門領域 地域・在宅看護論	52	在宅療養技術論	1	15	2 年次後期	専任教師	○

テキスト （発行所）	ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論①　在宅療養を支えるケア ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術
副教材 参考図書	医療総合支援ガイドブック 強みと弱みからみた在宅看護過程

●科目のねらい

医療処置を必要とする療養者に対して、安全に実施するための医療処置・危機管理の方法と留意点、家族の支援について理解する。起こりえるトラブルとその対処方法を知り、予測と予防的なケアの重要性を理解する。

●学習目標

1. 医療処置が必要となった療養者と家族の気持ちを理解する。
2. 在宅での医療処置における安全へのサポートについて理解する。
3. 医療処置に対して起こり得る危険とその要因と対処方法（予防方法を含む）を理解する。
4. 自宅で医療処置を必要とする療養者と家族への必要な指導内容・指導方法を理解する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1 回	医療処置の技術	1. 在宅における医療処置の現状 2. 医療処置が必要となった療養者・家族の心理と生活への影響	講義
	在宅看護における安全性	1. 起こり得る危険とサポート体制 2. 感染予防（手洗い、物品管理、医療廃棄物） 3. 医療事故防止 4. 災害時の看護	
2 回	食を支える処置技術①	1. 療養者の嚥下機能や栄養状態の査定 2. PEG の適当と種類 3. PEG の投与方法と管理方法 4. トラブル時の対応 5. 家族への指導のポイント	講義
3 回	食を支える処置技術②	1. HPN の適応 2. 投与方法と管理方法 3. トラブル時の対応 4. 家族への指導のポイント	講義
4回	呼吸を支える技術①	1. 在宅で看護を展開するにあたって 2. 呼吸機能に関する観察とアセスメント 3. 在宅酸素療法の種類と仕組み、適応 4. 管理方法とトラブル時の対応 5. 家族への指導のポイント 6. 呼吸リハビリテーション	講義

回数	主題	学習内容	履修形態、他
5 回	呼吸を支える技術②	1. 気管カニューレの適応 2. 管理方法と交換方法 3. 自己吸引 4. トラブル時の対応 5. 家族への指導のポイント	講義
6 回	呼吸を支える技術③	1. 在宅人工呼吸法とは 2. 種類と仕組み、適応 3. 管理方法 4. トラブル時の対応と支援体制 5. 時期に応じた指導と必要な看護 6. 家族の心理と支援	講義
7 回	褥瘡の処置	1. 在宅での褥瘡の要因 2. 褥瘡のリスクアセスメントと予防 3. 褥瘡は発生時の処置と治療 4. 家族への指導のポイント 5. 多職種との連携	講義
8 回 （45 分）			

●単位認定の方法

1. 出席について：15 時間のうち 80%以上の出席があること
2. 終講試験：100 点満点
3. 1の条件を満たし、かつ終講試験が 60 点以上であること

●受講上のアドバイス

在宅療養技術論では、病院で医療者が管理している医療処置について、自宅での管理方法と家族への指導を学びます。医療者が傍に居ない環境で何が起こり得るかを理解し、その予防策の指導も含めて家族が安心して生活を送ることができるための医療処置技術です。今まで他領域で学んだ内容の応用でもあります。既習知識を復習しておきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門領域 地域・在宅看護論	53	在宅臨床実践論Ⅰ	1	15	3 年次前期	専任教師 非常勤講師	○

テキスト （発行所）	医学書院　地域・在宅看護論①　地域・在宅看護の基盤 医学書院　地域・在宅看護論②　地域・在宅看護の実践
副教材 参考図書	医療総合支援ガイドブック 強みと弱みからみた在宅看護過程

●科目のねらい

生活する場に訪問する看護師の姿勢や、信頼関係の形成の在り方、教育的な関わりについて学ぶ。多職種と連携しながら、その人らしく過ごせるように社会資源の活用について学ぶ。

●学習目標

1. 訪問に必要な準備とマナーについて理解する。
2. 初回訪問の面接技術について理解する。
3. 対象の理解に必要な信頼関係の形成について理解する。
4. 療養者の日常生活を生活行為として統合的に捉えるアセスメントについて理解する。
5. 指導的関わりのためのアセスメントとポイントを理解する。
6. 福祉用具の活用に向けた選定基準と活用方法を理解する。
7. 入院前・中からの生活に向けた支援について理解する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1 回	在宅の場での必要な看護技術	1. 在宅での必要な看護技術の考え方 2. 生活行為のアセスメントの視点 3. 身近な物品の代用と工夫	講義
2 回	訪問に向けた接遇と面接技術	1. マナー 2. 初回訪問時の注意点 3. 面接技術 4. 信頼関係形成、コミュニケーション技術	講義
3回	在宅における指導技術①	1. 指導技術の基本 2. 指導案作成方法 3. 日常生活を支えるための社会資源 4. 社会資源の活用に関する指導の実際 事例に対する指導計画書の作成	講義 グループワーク
4回			
5回		5.指導の実際（発表会）	ロールプレイ
6回	社会資源の活用 福祉用具の選定基準と活用方法	1. 物品と環境と利用目的の関係 2. 対象に応じた物品の選定 3. 物品の種類とコスト 4.発表会	講義 グループワーク
7回			
8 回 （45 分）	社会資源の活用 生活支援	1. 入院前・中からの支援～社会福祉の立場から	講義（外部講師）

●単位認定の方法

1. 出席について：15 時間のうち 80%以上の出席があること
2. 終講試験　　：100 点満点
3. 1の条件を満たし、かつ終講試験が 60 点以上であること

●受講上のアドバイス

在宅看護では、対象者の生活の場に訪れて看護を提供します。そのため、信頼関係を築くコミュニケーションやマナーを身に付けることは大切です。

地域には様々な原因で日常生活が困難となり介護を必要とする人々がくらしています。生活行為についてのアセスメントを学び、既習の知識をもとに自宅にある物品の活用方法や福祉用具の活用について考えていきます。

日常生活を送るうえでは、直接的な介助だけでなく、社会資源の活用も重要です。社会資源を療養者や家族に分かりやすく指導できる力を身につけていきたいと思います。社会資源の活用について、最終的に決定するのは、療養者本人と家族です。対象の意思を尊重しながら、情報提供の工夫や支援方法についてロールプレイを通して学んでいきましょう。

社会資源の活用については、医療の面だけでなく多職種と連携しながら生活面の支援を行っていくことも大切です。専門職として医療ソーシャルワーカーさんからの講義もあります。医療ソーシャルワーカーの視点を学ぶことによって、看護師の役割も考えていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	54	在宅臨床実践論Ⅱ	1	30	3 年次 前期・後期	専任教師 非常勤講師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の実践　医学書院 e テキスト 系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護の基盤　医学書院 e テキスト
副教材、 参考図書	医療福祉総合ガイドブック　医学書院 強みと弱みからみた在宅看護過程　＋総合的機能関連図　医学書院

科目のねらい

施設療養と在宅療養の場の変化による影響、フォーマル・インフォーマルな支援とは何か、社会福祉制度におけるサポート体制の仕組み、健康病期による支援の違いが対象に及ぼす影響について事例に基づき、必要な支援や方法を考える中で、多職種連携の機能や看護の役割について考える。

学習目標

１．　在宅療養の場で展開される看護の思考や看護過程を理解する。

２．　事例を通して、対象者のねがいと実際の生活から療養生活を構築し、自立や QOL を高めるための看護目標の立案や具体的な支援について考える。

３．　対象者と取り巻く人々のニーズ捉えた包括的な対象理解する力をつける。

各回の主題、履修形態、準備物品

講義：15 回（30 時間）

学習内容：　在宅看護過程の構成と特徴、難病（ALS）、医療的ケア児をとりまく支援、在宅での終末期看護の実践（外部講師による講義）

単位認定の方法

１．筆記試験、ワークシート、講義リフレクション、レポート課題を総合的に評価、点数化し、合計点が 60 点以上あること。

２．履修時間のうち、８０％以上の出席があること。

上記の１，２の要件を満たし、単位認定とする。

受講上のアドバイス

人々の求める看護は、病院や施設で限定されたものではなく、地域で暮らす人々の健康を維持・向上していくための支援へと拡大しています。京都で暮らしながら、様々な健康課題をかかえながら生活する対象とその家族の理解を深め、よりよい生活の維持・向上のための支援や看護の役割について考えていきましょう。外部講師の、終末期におけるケアの実際を学び、病棟実習での学びとの違いなどを踏まえ、看護実践の幅が広がることを願っています。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	55	成人看護学概論	1	30	1年次後期	専任教師	○

テキスト（発行所）	成人看護学総論（医学書院）
副教材、参考図書	公衆衛生がみえる(メディックメディア) 国民衛生の動向（厚生労働統計協会）

●学習のねらい

成人を取り巻く社会環境と生活を理解し、健康問題の動向や健康の保持・増進のための看護を理解する。

●学習目標

1．ライフサイクルにおける成人、および成人を取り巻く社会と生活を理解する。
2．成人の健康のバランスに影響を及ぼす要因及び疾病予防･健康増進に関わる保健活動について理解する。
3．さまざまな健康観を踏まえた看護が考えられる。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
第１回	成人看護学講義概要 成人とは？	・成人看護学の対象となる「大人」とは？ ・発達段階、発達課題	講義
第２回 第３回 第４回	ライフサイクルと成人各期の特徴 （青年期、壮年期、向老期）	･青年期､壮年期､向老期の特徴と健康問題、健康課題との関連	講義 グループワーク、発表
第５回	成人を取り巻く環境 成人のライフスタイルの特徴	・人口、経済、環境 ・ライフスタイルや働き方	講義
第６回	成人の健康の状況	・生と死の動向 ・健康格差 ・受療状況 ・生活習慣病 ・メンタルヘルス	講義
第７回	ヘルスプロモーションと看護	・ヘルスプロモーションとは ・個人の主体的な健康づくり ・健康増進のための環境づくり	講義

第８回	職場におけるヘルスプロモーションと看護	・労働者の健康障害の種類 ・ヘルスプロモーションと産業保健活動 ・トータルヘルスプロモーションプラン ・ワークライフバランス	講義
第９回	健康をおびやかす要因と看護①	・生活行動がもたらす健康問題とその予防（飲酒、喫煙、運動不足、肥満など）	講義
第１０回	健康をおびやかす要因と看護②	・ストレスと健康生活 ・ストレスコーピング	講義
第１１回	生活と健康をまもりはぐくむシステム	・健康日本 21 ・がん対策基本法 ・特定健康診査と特定保健指導	講義
第１２回	成人への看護アプローチの基本①	・アンドラゴジー ・意思決定支援	講義 グループワーク
第１３回	成人への看護アプローチの基本②	・エンパワメント ・セルフケアとセルフマネジメント	講義 グループワーク
第１４回	成人への看護アプローチの基本③	・障害受容 ・自己効力	講義 グループワーク
第１５回	成人への看護アプローチの基本④	・危機介入	講義 グループワーク

●単位認定の方法

1. 出席について：３０時間のうち２４時間以上の出席があること。
2. 終講試験で１００点満点中６０点以上で合格とする
3. 上記１，２の条件を満たしたものは成人看護学概論１単位を取得できる。

●受講上のアドバイス

看護の対象は「人」であり、「人」を知らずして看護はできません。成人看護学概論ではまず、看護の対象である「人」を成人というライフステージに焦点をあて理解していきます。成人看護学概論で、人を深く理解することを学んでほしいと思います。そして皆さんも成人である「大人」であることを意識し、自分自身をみつめるきっかけになってほしいと思います。また、成人は社会において人々が生活を営むうえで、中心的な責任を担う立場にいます。そのような成人の健康は個人だけのものではなく、社会のものでもあります。成人が健康を害すると、それだけ社会に与える影響は大きいということです。個人生活に留まらず、わが国の社会全体の問題にも繋がっていきます。よって、疾病の予防・健康維持および促進を個人の努力や力だけでなく、国全体の問題として考えていくことが必要です。

そのため、成人の特徴を踏まえた看護が実践できるための知識を持ち、広い視野で人々の健康と、健康を支援するために必要な看護の役割を考えられることを目指したいと思います。

成人を取り巻く社会の現況などについて、統計データや参考図書を積極的に活用して学びを深めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	56	クリティカルケア看護論	1	30	2 年次前期	専任教師 院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　（医学書院） よくわかる周手術期看護　（学研メディカル秀潤社） 系統看護学講座　別巻　救急看護学　（医学書院） 系統看護学講座　別巻　クリティカルケア看護学（医学書院） 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[3]　循環器（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

生命維持機能が障害されている対象とその家族を理解し、生命の維持や健康の回復を促すための看護を学ぶ。

学習目標

1．急激に生命をおびやかす重度の侵襲による生体反応を緩和し、予測的・予防的な看護について理解する。
2．手術侵襲が及ぼす身体的・精神的・社会的側面への影響を考え、回復の促進，日常生活への復帰を促進する看護について理解する。
3．主題となる疾患や治療の特徴、症状、生活への影響、経過から必要な看護を理解する。
4．対象のおかれている状況や事態を理解し、望ましい看護実践を明らかにする。

各回の主題、履修形態、準備物品

	主題	内容	
第 1 回	導入	科目の説明	講義 小テスト
第 2 回	周手術期看護（術前看護）	手術前の看護、意思決定支援	講義
第 3 回	周手術期看護（術中看護）	手術室の環境管理 手術中の安全管理 手術室における看護	講義
第 4 回	周手術期看護（術後看護）	術後の全身管理、術後合併症予防	講義
第 5 回	周手術期看護（術後看護）	ドレナージの管理、疼痛管理 術後ベッドの作成	講義

第 6 回	クリティカルな状態にある患者の全身管理（体液・循環管理）	心臓血管外科手術を受ける患者の看護（IABA 含む） 下肢動脈閉塞症患者の看護	講義
第 7 回	クリティカルな状態にある患者の全身管理（体液・循環管理）	心臓カテーテル検査時の看護 虚血性心疾患の看護 経皮的冠動脈形成術の看護	講義
第 8 回	クリティカルな状態にある患者の全身管理（呼吸管理）	人工呼吸器を装着する患者の看護 気管切開を受ける患者の看護	講義
第 9 回	クリティカルな状態にある患者の全身管理（呼吸管理）	重症集中治療に伴う看護 クリティカルな場での看取り	講義
第 10 回	救急看護	救急看護とは、救急患者の特徴 救急看護の役割・実際 重症集中治療と看護	講義
第 11 回	救急看護	ショック状態にある患者の看護 外傷患者の治療と看護	講義
第 12 回	救急看護	熱傷の治療と看護 急性中毒の治療と看護	講義
第 13 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク
第 14 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク
第 15 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク

単位認定の方法

1. 出席について：30 時間のうち 24 時間以上の出席があること
2. 終講試験 100 点満点中 60 点以上で合格とする
   （小テストも成績に含む）

＊詳細は別途お伝えします。

受講上のアドバイス

急激な生命の危機状態にあり、クリティカルケアが必要な場面において、対象者を身体的側面だけでなく全人的に理解し、専門的な看護実践とはどのようなものか、PBL 学習を通して学びを深めましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	57	臨床セルフケア看護論Ⅰ	1	30	2 年次前期	専任教師 院内講師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[2]　呼吸器　（医学書院） 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学[3]　循環器　（医学書院）
副教材、 参考図書	

学習のねらい

疾患による病態の急性増悪に伴う身体的・精神的・社会的側面への影響をアセスメントし、対象者が症状マネジメントし、生活の調整やセルフケアの維持・回復のための看護を理解する。

学習目標

1．症状マネジメントのための健康教育、生活の調整に必要な支援を考え、患者の思いや望ましい生活に向けたセルフケア看護の視点や支援を理解する。
2．主題となる疾患や治療の特徴、症状、生活への影響、経過から必要な看護を理解する。
3．対象のおかれている状況や事態を理解し、望ましい看護実践は何かを明らかにする。

各回の主題、履修形態、準備物品

	主題	内容	
第 1 回	導入	科目の説明	講義 小テスト
第 2 回	呼吸機能障害をもつ患者の看護	気管支鏡検査時の看護 胸腔穿刺時の看護 胸腔ドレーン挿入中の看護	講義
第 3 回	呼吸機能障害をもつ患者の看護	薬物療法を受ける患者の看護 喘息発作時の看護	講義
第 4 回	呼吸機能障害をもつ患者の看護	慢性閉塞性肺疾患の患者の看護	講義
第 5 回	呼吸機能障害をもつ患者の看護	間質性肺炎の患者の看護	講義
第 6 回	呼吸機能障害をもつ患者の看護	在宅酸素療法を受ける患者の看護	講義
第 7 回	呼吸機能障害をもつ患者の看護	肺切除術を受ける患者の看護	講義

第 8 回	循環機能障害をもつ患者の看護	心臓カテーテル検査時の看護 心電図	講義
第 9 回	循環機能障害をもつ患者の看護	虚血性心疾患患者の看護 経皮的冠動脈形成時の看護	講義
第 10 回	循環機能障害をもつ患者の看護	狭心発作時の看護 不整脈の種類、不整脈の治療と看護 緊急時の患者や家族の心理	講義
第 11 回	循環機能障害をもつ患者の看護	活動耐性のアセスメントと日常生活援助 心臓リハビリテーション	講義
第 12 回	循環機能障害をもつ患者の看護	薬物療法時の看護と指導（降圧薬・利尿薬・抗狭心症薬・抗不整脈薬・抗凝固薬・抗血栓薬）	講義
第 13 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク
第 14 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク
第 15 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク

単位認定の方法

1. 出席について：30 時間のうち 24 時間以上の出席があること
2. 終講試験 100 点満点中 60 点以上で合格とする
   （小テストも成績に含む）
   ＊詳細は別途お伝えします。

受講上のアドバイス

疾患による病態の急性増悪に伴い、対象者が症状マネジメントしていくために必要な健康教育、生活の調整への支援について理解し、PBL 学習を通して学びを深めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	58	臨床セルフケア看護論Ⅱ	1	30	2年次後期	専任教師 院内教師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座専門分野Ⅱ　消化器　成人看護学[5]（医学書院） 系統看護学講座専門分野Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]（医学書院） 系統看護学講座専門分野Ⅱ　腎・泌尿器　成人看護学[8]（医学書院）
副教材、 参考図書	

学習のねらい

慢性的な経過をたどる疾患に伴う身体的・精神的・社会的側面への影響をアセスメントし、中・長期的な健康管理や社会生活の両立に向けた対象のセルフケアを支える看護について理解する。

学習目標

1．健康の維持と生活、健康問題と社会生活の両立に向けた健康管理の方法や健康教育、社会資源などを活用や疾患の特性に配慮した看護について理解する。
2．主題となる疾患や治療の特徴、症状、生活への影響、経過に対して必要な看護を理解する。
3．対象のおかれている状況を理解し、望ましい看護実践は何かを明らかにする。

各回の主題、履修形態、準備物品

	主題	内容	
第1回	導入	科目の説明	講義 小テスト
第2回	内部環境機能障害をもつ患者の看護	腎機能検査と看護 急性腎不全と慢性腎不全 透析療法を受ける患者の心理	講義
第3回	代謝機能障害をもつ患者の看護	糖尿病による生活への影響と看護の役割 急性・慢性合併症出現時とその予防のための看護	講義
第4回	代謝機能障害をもつ患者の看護	糖尿病の薬物療法・運動療法・食事療法を受ける患者の看護	講義

第 5 回	代謝機能障害をもつ患者の看護	簡易血糖測定の実際	演習
第 6 回	栄養摂取･消化機能障害をもつ患者の看護	栄養摂取・消化機能障害による日常生活への影響と看護の役割 内視鏡検査時・治療時の看護 吐血・下血時の看護	講義
第 7 回	栄養摂取･消化機能障害をもつ患者の看護	肝機能障害のある患者の看護	講義
第 8 回	栄養摂取･消化機能障害をもつ患者の看護	胆嚢系、膵臓疾患の治療を受ける患者の看護	講義
第 9 回	栄養摂取･消化機能障害をもつ患者の看護	胃、食道切除術を受ける患者の看護 胃、食道切除後の生活の援助	講義
第 10 回	栄養摂取･消化機能障害をもつ患者の看護	膵臓の手術を受けた患者の生活への援助 イレウス患者の看護	講義
第 11 回	排泄機能障害をもつ患者の看護 性生殖機能障害をもつ患者の看護（男性生殖器）	前立腺肥大・前立腺癌の治療を受ける患者の看護	講義
第 12 回	排泄機能障害をもつ患者の看護	ストマ管理 ストマを持つ患者の生活への援助	講義
第 13 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク
第 14 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク
第 15 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク

単位認定の方法

1. 出席について：30 時間のうち 24 時間以上の出席があること
2. 終講試験 100 点満点中 60 点以上で合格とする
   （小テストも成績に含む）
   ＊詳細は別途お伝えします。

受講上のアドバイス

慢性的な経過をたどる疾患が対象におよぼす影響と、健康管理や社会生活の両立に向けた対象のセルフケアを支える支援について、PBL 学習を通して学びを深めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	59	リハビリテーション看護論	1	30	2 年次前期	専任教師 院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座専門分野Ⅱ　脳・神経　成人看護学[7]（医学書院） 系統看護学講座専門分野Ⅱ　運動器　成人看護学[10]（医学書院） 系統看護学講座専門分野Ⅱ　眼科　成人看護学[10]（医学書院） 系統看護学講座専門分野Ⅱ　耳鼻科　成人看護学[10]（医学書院）
副教材、参考図書	

学習のねらい

健康回復の過程の中で生じる身体活動の制限や身体障害のある対象の受容プロセス、生活機能の再獲得に向けた看護について理解する。

学習目標

1．健康回復の過程の中で生じる、生活の再構築に向けた受容のプロセス、健康教育、社会資源などを活用した看護について理解する。
2．主題となる疾患や治療の特徴、症状、生活への影響、経過から必要な看護を理解する。
3．対象のおかれている状況や事態を理解し、望ましい看護実践は何か明らかにする。

各回の主題、履修形態、準備物品

	主題	内容	
第 1 回	導入	科目の説明	講義 小テスト
第 2 回	運動機能障害をもつ患者の看護	ミエログラフィ時の看護 ギプス固定を受ける患者の看護 牽引療法を受ける患者の看護	講義
第 3 回	運動機能障害をもつ患者の看護	人工股関節置換術を受ける患者の看護 人工膝関節置換術を受ける患者の看護	講義
第 4 回	運動機能障害をもつ患者の看護	脊椎疾患・損傷の患者の看護	講義
第 5 回	運動機能障害をもつ患者の看護	四肢切断術を受ける患者の看護 四肢切断後の生活の援助	講義
第 6 回	脳機能障害をもつ患者の看護	脳出血患者の看護 脳動脈瘤・クモ膜下出血患者の看護	講義

第 7 回	脳機能障害をもつ患者の看護	脳腫瘍摘出術を受ける患者の看護 脳室 - 腹腔（Ｖ－Ｐ）シャント術	講義
第 8 回	脳機能障害をもつ患者の看護	脳梗塞患者の看護	講義
第 9 回	脳機能障害をもつ患者の看護	嚥下障害のある患者の看護	講義
第 10 回	脳機能障害をもつ患者の看護	髄液検査時の看護 脳血管撮影時の看護 けいれんを起こす患者の看護 パーキンソン病患者の看護	講義
第 11 回	視覚障害がある患者の看護	視覚障害のある患者のアセスメント 眼科の手術を受ける患者の看護	講義
第 12 回	聴覚・音声・嗅覚障害がある患者の看護	聴覚・音声・嗅覚障害がある患者のアセスメント 耳鼻咽喉科の手術を受ける患者の看護	講義
第 13 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク
第 14 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク
第 15 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク

単位認定の方法

1. 出席について：30 時間のうち 24 時間以上の出席があること
2. 終講試験 100 点満点中 60 点以上で合格とする
   （小テストも成績に含む）
   ＊詳細は別途お伝えします。

受講上のアドバイス

健康回復の過程における身体活動制限が対象に及ぼす影響や受容のプロセス、生活機能の再獲得に向けた支援について、PBL 学習を通して学びを深めましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	60	ケアリングと コンフォート看護論	1	30	2 年次後期	専任教師 院内講師	○

テキスト （発行所）	がん看護学（医学書院） ハジケモ　がん薬物療法の看護のポイントがわかる　淺野耕太(メディカ出版) 系統看護学講座専門分野Ⅱ　血液・造血器　成人看護学[4]（医学書院） 系統看護学講座専門分野Ⅱ　内分泌・代謝　成人看護学[6]（医学書院） 系統看護学講座専門分野Ⅱ　アレルギー・膠原病・感染症　成人看護学[11]（医学書院）
副教材、 参考図書	

学習のねらい

病気とともに生きる人々の意思決定を支え、対象がその人らしく、よりよい生活が送れるよう、コンフォートの増進に向けた看護について理解する。

学習目標

1．疾患・治療・症状と共に生きる人々とその家族の生活、思い、価値観、役割をアセスメントし、意思決定やその人らしさの尊重に向けた看護実践を理解する。
2．主題となる疾患や治療の特徴、症状、生活への影響、経過から必要な看護を理解する。
3．対象のおかれている状況や事態を理解し、望ましい看護実践を明らかにする。

各回の主題、履修形態、準備物品

	主題	内容	
第 1 回	導入	科目の説明	講義 小テスト
第 2 回	がん看護	がん患者の治療と看護、がん患者の抱える苦痛、意思決定支援	講義
第 3 回	がん看護	化学療法とは 化学療法が人体に及ぼす影響	講義
第 4 回	がん看護	化学療法を受ける患者の看護	講義
第 5 回	がん看護	放射線療法とは 放射線療法が人体に及ぼす影響 放射線療法を受ける患者の看護	講義

第 6 回	内部環境機能障害をもつ患者の看護 （内分泌）	内分泌とは、主な内分泌機能障害 甲状腺機能障害をもつ患者の看護	講義
第 7 回	内部環境機能障害をもつ患者の看護 （内分泌）	副腎機能障害をもつ患者の看護	講義
第 8 回	内部環境機能障害をもつ患者の看護 （内分泌）	自己免疫疾患をもつ患者の看護（SLE、HIV/AIDS）	講義
第 9 回	生体防御機能障害をもつ患者の看護 （血液・造血器）	生体防御機能障害とは 生体防御機能障害による日常生活の影響と看護の役割 感染の成立と免疫とは	講義
第 10 回	生体防御機能障害をもつ患者の看護 （血液・造血器）	造血器腫瘍患者の看護	講義
第 11 回	生体防御機能障害をもつ患者の看護 （血液・造血器）	造血器腫瘍患者の看護	講義
第 12 回	生体防御機能障害をもつ患者の看護 （血液・造血器）	主要症状(貧血・出血傾向・白血球減少)のある患者の看護 輸血時の看護	講義
第 13 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク
第 14 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク
第 15 回	PBL	事例を基に PBL	グループワーク

単位認定の方法

1. 出席について：30 時間のうち 24 時間以上の出席があること
2. 終講試験 100 点満点中 60 点以上で合格とする
   （小テストも成績に含む）
   ＊詳細は別途お伝えします。

受講上のアドバイス

病気とともに生きる対象がその人らしくよりよい生活がおくれるよう、対象の意思決定の支援やコンフォートの増進に向けた看護について、PBL 学習を通して学びを深めましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時間	担当者	実務経験
専門	61	高齢者ハートフルケア論	1	30	1年後期	専任教師 非常勤講師 院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　老年看護学（医学書院） 系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論(医学書院)
副教材 参考図書	公衆衛生がみえる（メディックメディア） 看護実践のための根拠がわかる　老年看護技術　第4版（メヂカルフレンド社） その他資料を Google クラスルームで配信します

●学習のねらい●

高齢者に興味を持って、老年期の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。また、高齢者がどの様な思いやニードを持ちどの様な社会構造の中で生活をしているのかを学び、支援する為の看護を理解する。
認知症や聴力障害など高齢者との様々なコミュニケーション技術を身につける。

●学習目標●

1）老年期の特徴を理解する
2）加齢に伴う心身の変化と特徴、それらが生活に及ぼす影響について理解する
3）老年期の対象をとりまく社会と暮らしの仕組みがわかる。
4）認知症について理解を深め、看護を考えることができる
5）老年期の特徴を活かしたコミュニケーション方法を身につける
6）老年看護の原則・目標を学び、老年看護の役割を理解する

●学習スケジュール●

回数	主題	学習内容	履修形態　準備物品　等
1	はじめに 老年期のイメージを表現しよう	1. ライフサイクルから見た老年期 2. 今の自分が抱いている老年期のイメージに気づく	持参物品 カラーペン・色鉛筆 講義・個人ワーク
2	高齢者が生きてきた時代について調べてみよう （昔の看護学生の生活をのぞいてみよう）	1. 高齢者生きてきた時代とは 2. 高齢者の多様な経験と価値観 サクセスフルエイジング 高齢者のセクシャリティ	講義 グループワーク Group マインドマップ
3	高齢者のその人らしい生き方の継続につて考えよう	1. 高齢者の生活の場 2. 喪失体験と獲得体験	講義 個人ワーク グループワーク
4	高齢者をとりまく社会の動向について調べてみよう	1. 統計から高齢者を捉える 2. 家族構成とニーズの変化 （日本と世界との比較） 3. 高齢者の権利擁護	講義 個人ワーク グループワーク
5	加齢現象が生活に及ぼす影響について考えよう	高齢者体験ツアー	高齢者疑似体験（演習） レポート課題提示
6	加齢現象に伴う身体的・精神的機能の変化について学ぼう	加齢による身体的・精神的変化 老年症候群・フレイル	講義

7 8 9	認知症について学ぼう	1. 認知症とは 中核症状 BPSD 2. パーソン・センター・ド・ケア 3. 認知症の方との コミュニケーション 4.認知症の方をとりまく社会	認知症認定看護師による講義 グループワーク 演習
10	高齢者とのコミュニケーション方法を学ぼう	1. 難聴 2. 失語 3.視覚障害、白内障	講義 演習
11	高齢者のおしゃれについて考えよう	1. 高齢者にとってみだしなみとは 2. 訪問美容とは	院外の講師による講義
12 13	高齢者の特徴に合わせたレクリエーションを考えよう	1. レクリエーションとは 2. 高齢者にとってのレクリエーションの目的とは 3. レクリエーションを企画する	個人ワーク グループワーク グループでの発表会
14	老年看護に関する学びを共有しよう	各自が積み重ねてきた高齢者に関する学習の成果を発表しあい、学びを共有する	グループでの発表会
15	老年看護の目標・役割を考えよう	1. 老年看護の特徴 2. 高齢者を4つの側面から理解するとは	講義 個人ワーク

●単位認定の方法●

1） 30 時間うち 24 時間以上の出席があること
2） 終講試験（筆記試験）80 点、レポート課題 10 点、ふりかえり 10 点を合わせて 100 点満点とし、60点以上で合格とします。
3） レポート課題：第 5 回目の高齢者体験ツアー終了後に、Google クラスルームで課題の詳細を提示します。

●受講上のアドバイス●

高齢者の看護を実践する為には、みなさんが誕生する前の社会生活を理解することや、高齢者をとりまく社会の現状を知ること、将来高齢者をとり巻く社会がどうなっていくのかについて知ることが必要です。

高齢者に対するイメージを具体的に持ち、高齢者の生活、高齢者が生きてきた生活史を知ることで、たくさんの発見や共感を得て欲しいと思います。知識を得るだけではなく、老年看護を実践する人として、高齢者の権利擁護の為の判断能力や行動力も身につけて欲しいと思っています。

本講義は、主に Google クラスルームを活用して講義を進めていきます。このクラスルームの中に、みなさんの講義での学びをたくさん積み重ねていきましょう。（方法については、講義の中で随時お伝えしていきます）

看護師を目指すみなさんは、これから多くの高齢者と接することになるでしょう。この講義で学んだことを、高齢者の理解につながる、自分だけの地図として活用してもらえれば幸いです。

みなさんが主体的に取り組める、面白い講義となるように講師として努力します。学生のみなさんも、高齢者に関する色々なことに興味を持って、積極的に受講してください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時間	担当者	実務経験
専門	62	高齢者ライフサポート論	1	30	2年前期	専任教師 非常勤講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　老年看護学（医学書院） 系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論(医学書院) ウェルネスの視点にもとづく　老年看護過程（医歯薬出版株式会社） 看護実践のための根拠がわかる　老年看護技術（メヂカルフレンド社）
副教材 参考図書	その他資料を随時 Google クラスルームで配信します

●学習のねらい●

高齢者を生活者として捉え、機能障害を持つ高齢者の生活をサポートする看護の実際を理解する。

●学習目標●

1）老年期の特徴を踏まえ、生活の視点から統合的にアセスメントする視点を理解する。
2）食べる、出す(排泄する)、活動する、休息するという生活動作を、高齢者の特徴をふまえ、アセスメントし援助する視点を理解する
3）高齢者を生活者としてアセスメントし、その QOL を高める看護の実際を理解する。
4）高齢者の死に関わる権利の擁護について理解し、看護の役割を考えることができる。

●学習スケジュール●

回数	主題	学習内容	履修形態　準備物品　等
1	はじめに 生活機能の視点から高齢者をみるとは	1. 高齢者の機能と評価 ICF,CGA,ADL,IADL、寝たきり度判定基準、介護認定の区分） 2. 生活行動モデル 3. 生活行動回復、身体調整の為の看護とは	講義
2 3 4	食べるをサポートする看護	1. 高齢者の栄養アセスメント 2. 食べるに関わる機能障害 サルコペニア 嚥下機能障害・味覚障害 3. 食形態の工夫 4. 食べるに関する援助技術 完全側臥位 口腔ケア	講義 演習 グループワーク
5 6 7	動くと休むをサポートする看護	1. フレイル・廃用症候群 2. 高齢者の睡眠とその援助 3. せん妄 4. 高齢者に多いスキントラブル スキンケア 5. 生活動作獲得につなげる援助 起き上がり、座位、立位の援助 6. ポジショニング	講義 演習 グループワーク

8 9 10	出すをサポートする看護	1. オムツ装着体験 2. 高齢者に多い排泄機能障害 3. 高齢者への排泄援助	オムツ装着体験 レポート課題提示 講義 演習 グループワーク
11 12	人生の最期をサポートする看護	終末期における生き方や死の迎え方の意向と看護 アドバンスディレクティブ ACP・エンドオブライフケア 多職種からなる医療・ケアチームによる終末期支援の意義と役割	老人看護専門看護師による講義
13 14 15	事例検討	高齢者を生活機能からみた 看護過程の展開	グループワーク 発表会

●単位認定の方法●

1） 30 時間うち 24 時間以上の出席があること
2） 終講試験（筆記試験）80 点、レポート課題 10 点、ふりかえり 10 点を合わせて100点満点とし、
　60点以上で合格とします。
3） レポート課題：第8回目のオムツ装着体験終了後に、Google クラスルームにて課題の詳細を提示します。

●受講上のアドバイス●

本講義では高齢者の身体的、精神的特徴を捉え、生活援助の視点での看護の方法について学びます。

高齢者といっても、前期高齢者と後期高齢者では違いがあり、また個々の老化の進行状態、持つ疾患や症状によっても看護の方法は違います。本講義を通して、高齢者を生活者として観察、アセスメントする力と、対象の QOL を高められるような看護の視点を身につけて欲しいと考えています。

本講義での学びは、臨地実習で高齢者を受け持つ際に、必ず使える知識です。グループワークや演習などを随時入れながら進めていきますので、主体的に学習していきましょう。
また、ここで学んだ知識は、3 年次の「癒しのケア技術論」の演習でも使える知識です。関連性を意識して学んで欲しいと思います。

第11～12回の講義は、老人看護専門看護師による講義を予定しています。最新の老年看護について学びを深められるよう、意欲的に講義に参加してください。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時間	担当者	実務経験
専門	６３	癒しのケア技術論	１	３０	２年後期	専任教師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　老年看護学　（医学書院） 系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論（医学書院） 看護実践のための根拠がわかる　老年看護技術　（メヂカルフレンド社）
副教材 参考図書	配布プリントまたは、Google クラスルームにて随時資料を配信します 参考図書：生活行動回復看護技術（NICD）入門　（メディカ出版） ナーシングバイオメカニクスに基づく生活支援技術（＊） 身体調整のための看護エクササイズ（＊） （＊：ナーシングサイエンスアカデミー）

●学習のねらい●

老年看護の対象を生活の観点から統合的にアセスメントし、援助するための基本的な看護技術を習得する

●学習目標●

1)　高齢者の生活機能のアセスメントができる
２）　高齢者の生活機能を維持・向上でき、QOL につなげる為の援助技術を習得できる
３）　Nursing　Biomechanics（NBM）に基づく生活支援技術を使って、臨床実践する方法を習得する

●学習スケジュール●

回数	主題	学習内容	履修形態　準備物品　等
1	高齢者の生活行動モデル	生活行動モデル	講義
2 3	高齢者と整容	１．高齢者にとっての身だしなみとは ２．整容の技術 爪切り ナースができる美容ケア	講義 演習
4 5	高齢者の生活リズムを整える援助	1. モーニングケア 2. イブニングケア 3. 手浴・足浴の応用援助技術	講義 演習
6	高齢者の看護で使えるアロマケア	１．ハンドマッサージ ２．ハーブティ（誤嚥防止、認知症予防、脱水予防）	講義 演習
7	Nursing　Biomechanics （以下 NBM）に 基づく生活支援技術　上級編 ①概論	変化を起こす看護の為の Nursing　Biomechanics 技術 について	講義 NBM 指導者

8 9	NBM に基づく生活支援技術 上級編 ②急性期からの廃用症候群予防のための NBM 技術の実践	尖足予防のための援助 　仰臥位での股関節・膝関節・足関節のリラクセーションエクササイズ 肺炎予防のための援助 　僧帽筋と腹斜筋のリラクセーションエクササイズ 便秘予防のための援助 用手的微振動・バランスボール	事例検討 グループワーク 演習
１０ １１	NBM に基づく生活支援技術 上級編 ③関節拘縮の強い高齢者のための NBM 技術の実践	自ら動いてもらう姿勢にするための援助 　ポジショニング 　筋膜リリース 　リラクセーションエクササイズ 　温浴刺激療法	事例検討 グループワーク 演習
１２ １３	NBM に基づく生活支援技術 上級編 ④生き活きと活動するための NBM 技術の実践	動き出すきっかけをつくるための援助 　姿勢保持のための援助 　座位確立のためのアセスメント 　温浴刺激による活動と睡眠への援助	事例検討 グループワーク 演習
１４ １５	NBM に基づく生活支援技術 上級編 ⑤最期まで食べるための NBM 技術の実践	栄養状態のアセスメント 食べるための意識づくり 食べるための口づくり 　　黒岩メソッド 食べるための姿勢づくり	事例検討 グループワーク 演習

●単位認定の方法●

１）　30 時間うち 24 時間以上の出席があること
２）　終講試験（筆記試験）70 点と実技試験 30 点を合わせて１００点満点とし、６０点以上で合格とします。
３）　実技試験は、生活支援技術の中から 1 項目について実施します。

●受講上のアドバイス●

看護技術は対象のアセスメントと一体化して実施するものです。本講義では、生活機能をアセスメントしながら高齢者の残存機能を最大限に活かして援助する最新の技術を学びます。

また、本講義では、1 年次に基礎看護学の Nursing　Biomechanics 技術論で学んだ生活支援技術を基盤としています。その知識を応用し、高齢者を対象に実践できる技術として習得してもらいます。必要時ふり返りながら実践につなげていけるように、自ら積極的に学んでください。
日々技術内容が新しく見直されていますので、最新技術を伝えていきます。学生のみなさんには、よりよい看護を提供する為に日々見直されていることを実感すると共に、自らも意欲的に看護技術を創造していく感性と思考力を育んでほしいと願います。

Nursing　Biomechanics に基づく生活支援技術の講義は、紙屋克子氏より指導を受けた「Ｎｕｒｓｉｎｇ Biomechanics に基づく生活支援技術指導者（NBM 指導者）」による講義です。
ハーブを使用した日常生活援助技術は、内閣府認証　特別非営利活動法人　日本統合医学協会「メディカルアロマインストラクター」資格を取得した教員による講義です。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時間	担当者	実務経験
専門	64	高齢者ヘルスケア論	1	30	3 年通年	専任教師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　老年看護学　　（医学書院） 系統看護学講座　老年看護　病態・疾患論（医学書院） 災害時高齢者生活支援講習ハンドブック（日本赤十字社）
副教材 参考図書	公衆衛生がみえる（メディックメディア）・医療福祉総合ガイドブック（医学書院） 国民衛生の動向・配布プリント

●学習のねらい●

高齢者の特徴、生活、さまざまな健康段階に応じた看護について、統合的な老年看護の理解を深める。
災害時の高齢者看護に役立つ基礎的知識・技術を理解し習得する。

●学習目標●

1）高齢者に起こりやすい疾患の特徴を理解した上で、それぞれの段階に応じた看護の役割について理解する
2）老年看護における倫理について考えることができる
3）老年期の対象の尊厳と権利擁護を学ぶ
4）高齢者に関する法律、制度の仕組みについて理解し、看護の役割を考えることができる
5）高齢者の看護における、予防や安全の視点を理解し、看護の役割を考えることができる
6）老年看護での多職種連携における看護師の専門性について考えることができる。
7）災害時の高齢者の看護を理解する（赤十字高齢者災害時生活支援講習）

●学習スケジュール●

回数	主題	学習内容	履修形態　準備物品　等
1	高齢者に起こりやすい疾患の特徴とその特徴に合わせた看護	1. 高齢者に起こりやすい疾患とそれが生活に及ぼす影響 2. 高齢者の服薬管理 3.高齢者の特徴に合わせた看護	講義
2 3	高齢者の周手術期の看護	1. 術前オリエンテーション 2. 術後の管理 3. 術後せん妄 4. 廃用症候群と早期離床 5. 肺合併症予防と 疼痛コントロール 6. 安楽な離床の援助	講義 事例検討 グループワーク
4 5	高齢者を取り巻く法律・制度	1. 地域包括ケアシステム 2. 老人保健法　介護保険法 3. 老人医療制度 4. 高齢者に関係する保健福祉サービス ・介護保険以外のサービス ・介護保険に基づくサービス	講義 事例検討 グループワーク

6 7	高齢者に関わる多職種連携	1. 高齢者に関わる多職種の専門性 2. 多職種連携における看護師の求められるもの	講義 事例検討 演習 グループワーク
8 9	高齢者の事故予防	1. 高齢者に多い事故とその要因 2. KYT 3.基本動作のアセスメントと看護 4. 寛ぎ、安心、安全の 確保の為の援助	講義 事例検討 グループワーク
10	介護予防	1. 介護予防とは 2. サクセスフルエイジング 3. プロダクティブエイジング 4. 高齢者のセクシャリティ	講義 グループワーク
11	高齢者の権利擁護	1. 高齢者の権利擁護とは 2. 日常生活自立支援事業 3. 成年後見制度	講義 グループワーク
12 13	老年看護における倫理	1. 身体抑制 2. 高齢者虐待　家族看護	講義 事例検討 グループワーク
14 15	高齢者の災害時の備え	赤十字高齢者災害時生活支援講習 1. 災害弱者としての高齢者の特徴と備え 2. 避難所で役立つ生活援助技術 3. 防災頭巾作成	講義 演習

●単位認定の方法●

1）30 時間うち 24 時間以上の出席があること
2）終講試験(筆記試験)90 点と、ふりかえり 10 点　を合わせて100点満点とし、
　　60点以上で合格とします。

●受講上のアドバイス●

超高齢社会において、住み慣れた地域で高齢者がその人らしく生活を継続していく為には、様々な法律、制度の活用はなくてはなりません。老年看護を行う上で、高齢者に関する法律や制度を理解し、活用できるようにしておくことは重要なことです。国家試験でも必ず出題されますので、それらの仕組みをしっかり理解できるよう、自己学習と合わせて進めていきましょう。

老年看護を実践する人として、高齢者の権利擁護の為の判断力、行動力を身につけて欲しいと思います。グループワークでは、自身の意見を積極的に発信すると共に、他者の意見を聴き、互いに自身の看護観、倫理観を深め合える機会にして欲しいと思いますので、積極的に参加してください。

赤十字高齢者災害時生活支援講習会は、赤十字社協護符支部開催の赤十字健康生活支援講習指導員による講義です。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	65	小児看護学概論	1	15	1年次 後期	専任教師	○

テキスト （発行所）	小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）
副教材 参考図書	随時提示

科目のねらい
子どもと子どもを取り巻く環境を理解し、子どもの権利を尊重した小児看護の役割を理解する。

学習目標
1. 子どもの権利を尊重した小児看護の基本的態度が理解できる。
2. 子どもの成長・発達の特徴が理解できる
3. 小児看護の変遷と現代の子どもとその家族を取り巻く社会環境について理解できる。
4. 子どもに関する主な法律や政策について理解できる。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1 回	小児看護学講義概要 小児看護の役割 子どもの理解 子どもの成長・発達の特徴①	・ガイダンス ・小児看護の特徴と役割 ・成長・発達とは（方向性と順序性・運動の発達など） ・成長・発達に影響する因子	講義
2 回	子どもの権利と看護	・子ども観の変遷 ・世界の子ども ・子どもの権利条約 ・子どもの尊厳を守る看護倫理 ・現代の小児医療	講義 グループワーク
3 回	子どもに関する法律と政策	・児童福祉法、母子保健法、小児医療の現状、小児慢性特定疾患など	講義
4 回	小児看護学領域において用いられる理論	・ピアジェ認知発達理論 ・エリクソン発達理論など	講義
5 回	子どもの成長・発達の特徴②	・中枢神経の発達 ・身体発育とその評価 ・感覚機能、言語機能の発達	講義
6 回	子どもの成長・発達の特徴③	・地域で生活する子どもたち	フィールドワーク
7 回	子どもの遊び	・子どもの遊びと活動の意義 ・各発達段階における遊びの特徴 ・入院患児の遊びの工夫	講義 グループワーク
8回	小児看護が目指すもの	・小児看護の役割 ・まとめ	グループワーク

●単位認定の方法
1. 15 時間のうち、12 時間以上の出席があること
2. 評価の割合：以下の評価方法で 60 点以上の得点があること
  1)終講試験　80 点
  2)リフレクションカード　第1回から第 8 回の講義での学びを記入　10 点
  3)子どもの権利に関するレポート　10 点
3. 1・2 の要件が両方満たされ、単位認定とする

●受講上のアドバイス
　近年の少子化・情報化社会・核家族化などにより、子どもを取り巻く社会は急激に変化しています。社会の変化、小児医療の変化の中で、子どもにまつわる問題に意識を高め、講義やグループワークを通して小児看護について考える授業展開となっています。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門分野 小児看護学	66	子どもの成長･発達と看護	1	30	2年次 前期	専任教師	○

テキスト （発行所）	小児看護学[1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院）
副教材 参考図書	随時提示

科目のねらい
子どもの成長･発達と健康の保持･増進のための子どもと家族への看護について理解する。

学習目標
１．小児各期の成長・発達について理解できる
２．子どもの成長・発達に応じた日常生活の支援について理解できる。
３．子どもを取り巻く環境と子どもの安全について理解できる。
４．子どもの健康の保持・増進のための看護について理解できる。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1 回	講義概要 子どもの成長・発達	・ガイダンス ・小児保健の動向 ・乳児期・幼児期・学童期・思春期	講義
2 回	子どものアセスメント	・子どもの身体的な特徴 ・バイタルサイン測定時のポイント	講義
3 回	子どもの栄養①	・子どもにとっての栄養の意義 ・食育 ・乳児期の栄養	講義 グループワーク
4 回	子どもの栄養②	・幼児期、学童・思春期の栄養	講義
5 回	子どもの日常生活と援助①	・基本的生活習慣の獲得 排泄、睡眠など	講義
6 回	子どもの日常生活と援助②	・基本的生活習慣の獲得 衣服の着脱、清潔など	講義 グループワーク
7 回	子どもの感染症	・予防接種 ・学校保健法	講義 グループワーク
8 回	子どもをとりまく社会	・子どもを取り巻く社会 子どもの死亡　虐待など	講義
9 回 10 回	子どもの安全	・子どもの環境と安全 ・事故防止と安全教育 ・事故の実態と事故防止の実際	京あんしん館見学
11 回	子どもと家族を考える① みんなで看護を考えよう！	・急性期にある子どものアセスメント ・家族アセスメント	講義 グループワーク

12 回	子どもと家族を考える② みんなで看護を考えよう！	・グループワーク発表	グループワーク 発表
13 回	疾病・障害に対する子どもの反応	・疾病・障害に対する子どもの反応 ・子どもの疾病・障害に対する家族の反応	講義
14 回	検査・処置を受ける子どもの看護	・プレパレーションの実際	講義 グループワーク
15 回	検査・処置を受ける子どもの看護	・プレパレーションの発表 ・まとめ	グループワーク 発表

●単位認定の方法

1. 30 時間のうち、24 時間以上の出席があること
2. 評価の割合：以下の評価方法で 60 点以上の得点があること
   １)終講試験 70 点
   2)子どもの安全に関するレポート　10 点
   3)プレパレーション課題 10 点（レジメ・および発表内容）
   4)プレパレーション発表点数 10 点（グループ評価 6 点、学び 4 点）
3. 1・2 の要件が両方満たされ、単位認定とする

●受講上のアドバイス

子どもが健やかに成長・発達をしていくための子どもと家族の援助について、講義や演習を通じて学びます。子どもの日常生活や養育の実際について、イメージしながら学習を進めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門分野 小児看護学	６７	子どもの健康障害	1	30	２年次 前期	院内講師	○

テキスト （発行所）	小児看護学［２］　小児臨床看護各論（医学書院）
副教材 参考図書	随時提示

科目のねらい

子どもの健康障害、関連した症状・治療等を学び、子どもと家族に応じた看護についての理解を深める。

学習目標

１．小児期にみられる主な疾患と症状が理解できる。
２．子どもの事故・外傷について理解できる。
３．子どもの虐待について理解できる。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1 回	子どもとは 染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 新生児・低出生体重児の疾患	・子どもの成長、発達 ・ダウン症候群、18 トリソミー症候群 ・新生児（出血性疾患、頭蓋内出血） ・低出生体重児 （呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症）	講義
2 回	子どもの代謝性・内分泌系疾患	・糖尿病、下垂体疾患（低身長）、甲状腺疾患肥満、性早熟症、副腎疾患、低身長負荷試験	講義
3 回	子どもの免疫・ｱﾚﾙｷﾞｰ性疾患	・アレルギー性疾患、食物アレルギー、IgA 血管炎、アトピー性皮膚炎、膠原病 ・食物アレルギー経口負荷試験	講義
4 回	子どもの感染症	・麻疹、風疹、突発性発疹症、水痘、手足口病流行性耳下腺炎、インフルエンザ、無菌性髄膜炎、溶連菌感染症、マイコプラズマ、伝染性単核球症	講義
5 回	子どもの呼吸器疾患	・上気道炎、気管支炎、肺炎、細気管支炎（ＲＳウイルス）、クループ症候群、百日咳、気管支喘息	講義
6 回	子どもの循環器疾患	・先天性心疾患（ファロー四徴症、心房中隔欠損症）川崎病、ＡＥＤ、不整脈、急性心筋炎、SIDS	講義
7 回	子どもの消化器疾患	・腸重積症、急性虫垂炎、急性腸炎・脱水、胆道閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング症	講義
8 回	子どもの血液・造血器疾患 子どもの悪性新生物	・特発性血小板減少性紫斑病、血友病、貧血ウイルムス腫瘍、白血病、神経芽腫、終末期ケア	講義

9 回	子どもの運動器疾患	・先天性股関節脱臼、骨折、ペルテス病	講義
10 回	子どもの腎・泌尿器・生殖器疾患	・腎炎、ネフローゼ症候群、尿路感染症 先天奇形（尿道下裂、水腎症）	講義
11 回	子どもの神経疾患	・てんかん、熱性けいれん、脳腫瘍 ・意識障害、筋疾患、ギランバレー症候群、二分脊椎症	講義
12 回	子どもの精神疾患	・正常な成長・発達とは ・脳性麻痺、発達障害（自閉症、ＡＤＨＤ） ・心身症、摂食障害、不登校	講義
13 回	子どもの事故・外傷	・交通事故、溺水、誤飲・窒息、熱傷、頭部外傷 ・一次救命処置	講義
14 回	子どもの虐待	・虐待 （早期発見・予防から支援体制の確立まで）	講義
15 回	まとめ		講義

●単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．終講試験　　100 点満点

３．１の要件を満たし、終講試験 60 点以上で合格

●受講上のアドバイス

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門分野 小児看護学	68	子どもを支える臨床看護論	1	30	２年次 後期	院内講師	○

テキスト （発行所）	小児看護学［１］　小児看護学概論 小児臨床看護総論（医学書院） 小児看護学［2］　小児臨床看護各論（医学書院）
副教材 参考図書	随時提示

科目のねらい

健康問題が子どもと家族に与える影響について学び、必要な看護について理解する。
特殊な状況下にある子どもと家族への看護について理解する。

学習目標

１．さまざまな症状を示す子どもと家族の看護を理解する。
２．子どもの状況に合わせた必要な看護について理解する。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1 回	講義概要 子どもの入院が子どもと家族へ与える影響	・ガイダンス ・入院が子どもに及ぼす影響と子どもの反応 ・入院が家族に及ぼす影響と家族の反応	講義
2 回	子どもに出現しやすい症状と看護１	・不機嫌・啼泣を示す子どもと家族の看護 ・痛みのある子どもと家族の看護 ・発熱のある子どもと家族の看護 ・アレルギーがある子どもと家族の看護	講義
3 回	子どもに出現しやすい症状と看護２	・呼吸困難を示す子どもと家族の看護 肺炎、気管支炎、喘息など	講義
4 回	子どもに出現しやすい症状と看護３	・下痢・脱水を示す子どもと家族の看護 ・電解質異常と看護 ・輸液療法を受ける子どもの看護	講義
5 回	子どもに出現しやすい症状と看護４	・けいれん・意識障害のある子どもと家族の看護	講義
6 回	慢性期にある子どもと家族の看護	・慢性期疾患の特徴と看護 ・糖尿病の子どもと家族の看護 ・ネフローゼ症候群の子どもと家族の看護 ・子どもの与薬	講義
7 回	慢性期にある子どもと家族の看護	・先天性疾患の子どもと家族の看護 先天異常の種類と特徴	講義

8 回	急性期にある子どもと家族の看護	・急性期疾患の特徴と看護 ・川崎病の子どもと家族の看護 ・ＩｇＡ血管炎の子どもと家族の看護 ・腸重積の子どもと家族の看護	講義
9 回	外来における子どもと家族の看護	・小児科外来看護の特徴 ・外来と病棟の連携 ・予防接種	講義
10 回	周手術期の子どもと家族の看護	・周手術期の特徴と看護 ・手術を受ける子どもと家族の看護	講義
11 回	活動制限のある子どもと家族の看護	・活動制限の目的と子どもの生活 ・隔離の目的と子どもの生活 ・骨髄穿刺を受ける子どもの看護 ・心身障がいの子どもと家族の看護	講義
12 回	災害時の子どもと家族の看護	・災害時による子どもの反応とストレス ・被災時の子どもと家族への看護	講義
13 回	救急処置が必要な子どもと家族の看護	・おもな事故・外傷と看護 （誤飲、溺水、熱傷） ・虐待が疑われる場合の対応 ・小児救急におけるトリアージと対応	講義
14 回	在宅療養を行う子どもと家族の看護	・在宅療養を行う子どもと家族への看護 ・専門職の連携と社会資源の活用	講義
15 回	終末期にある子どもと家族の看護	・子どもの死の理解と反応 ・終末期にある子どもと家族の看護	講義

●単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．終講試験 100 点満点（北井先生 50 点、加藤先生 50 点）

３．１の要件を満たし、終講試験 60 点以上で合格

●受講上のアドバイス

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	履修時期	担当教師	実務経験
専門	69	ウィメンズヘルスケア論	1	30	1年次後期	専任教師 非常勤講師	○

テキスト（発行所）	新体系 看護学全書　母性看護学① 母性看護学概論　ウィメンズヘルスと看護　　（メヂカルフレンド社）
テキスト以外の教材、参考図書	公衆衛生がみえる

学習のねらい　人間の性と生殖の意義を理解し、生命の尊厳についての考えを深めると共に、ライフサイクル各期の特徴を理解し、女性が健康に健やかに一生を過ごせるよう、対象に応じた看護を学ぶ。

学習目標

1. 母性看護の対象の特徴を理解する。
2. 人間の性と生殖の意義を理解する。
3. 母子相互作用と母子関係の成立について理解する。母性意識と母性行動、母性愛の関係について学び、母性意識は発達していくものであることが理解できる。
4. 生命の尊厳や生命倫理について考え、看護者としての役割を理解する。
5. 母性看護の統計と法律より、わが国の今後の課題を理解する。
6. ライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期）を健康に過ごすための看護と、健康逸脱時の看護を理解する。
7. ライフサイクルを発達課題の視点から、母性看護の役割を理解する。
8. ライフサイクルにおける思春期性教育・親性教室・不妊教室・更年期と老年期の健康教室などを通して、女性の健康と生活を支える地域の母性看護を学ぶ。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態　他
１回	母性看護学の学習目標と位置づけ 母性看護の概念	１）母性看護学の学習目標 ２）基礎看護教育の中での母性看護の位置づけについて考える。 ３）母性看護とは ①母性看護の対象 ②母性看護の目的と重要な視点 ウィメンズヘルス、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、ウエルネス、エンパワーメント・ヘルスプロモーション、セルフケア ③母性看護の機能と役割、種族保存や生殖の意義 ④母性看護に関わる職種と活動の場 ⑤母性看護学の学習の視点 ４）母性と父性の概念、特性	講義
２回	母性の概念と母性看護の機能と役割	１）母親役割と父親役割 ２）リプロダクティブ・ヘルス／ライツの定義と基本的要素 ３）親になる過程と理論、家族発達	講義

３回	母性看護の対象の特徴	女性の身体的特徴 １）解剖学的特徴と性周期 ２）生殖機能の特徴と変化からみた女性のライフサイクル・妊娠期の感情変化 妊娠シミュレーター「エンパシーベリー」を使用しての身体的・精神的変化	講義
４回	人間の性と生殖の意義	人間の性と生殖の概念 １）女性と男性以外の性、性の多様性 ・性同一性障害　　・LGBTQ ・性分化疾患 ２）社会的性同一性（ジェンダー） ライフサイクルにおけるセクシャリティの発達	講義
５回	母性保健の統計	母性保健の統計を読み、母性看護の現況を具体的にイメージし、今後の母性看護のあり方、課題を考える。 母子保健統計に関連する用語の定義 ①出生②合計特殊出生率③周産期死亡④死産 ⑤妊産婦死亡⑥婚姻・離婚	講義
６回	母性保健の法律	①母子保健法・児童福祉法②労働基準法 ③男女雇用機会均等法④育児・介護休業法 ⑤母体保護法⑥死産の届け出に関する規定 ⑦戸籍法⑧次世代育成支援対策推進法・成育基本法・少子化社会対策基本法・健やか親子21	GW
７回	母性保健の法律	発表	発表
８回	児童虐待と母子関係の課題・DV	児童虐待の現状と対応　　児童虐待防止法 母子および父子関係の課題　配偶者暴力防止法 子育て世代包括支援センター・妊産婦メンタル ヘルス事業・マタニティブルーズと産後うつ	講義
9回	思春期・成熟期・更年期・老年期の看護	発表準備 地域・在宅看護論の「地域で生活する人々」体験から対象を理解したことを踏まえて発表	GW
10回	思春期・成熟期・更年期・老年期の看護	グループ発表	講義
11回	地域母性看護の実際 （思春期・成熟期・更年期・老年期の看護）	ライフサイクルにおける女性の健康と生活を支える地域の看護活動の実際（思春期・成熟期・更年期・老年期）	講義
12回	思春期の特徴	①第二次性徴②月経の開始・月経異常・月経随伴症状③性感染症④思春期貧血⑤肥満と痩せより健康増進、健康維持、健康回復のための教育⑥10代妊娠と中絶	講義
13回	成熟期の特徴	①健康生活設計②健康管理のポイント③性生活④結婚、子育て、家族計画⑤生きがい⑥女性の生殖器疾患（喪失に伴う悲しみ、自尊感情の低下）⑦性生活の異常⑧不妊⑨精神の異常（うつ病、アルコール依存症、摂食障害）	講義

14回	更年期・老年期の特徴	①更年期障害②閉経③骨盤臓器脱④更年期うつ病 ⑤萎縮性膣炎、外陰炎⑥骨粗鬆症	講義
15回	母性看護学まとめ	①母性看護学の動向②人工妊娠中絶・生殖補助医療・出生前診断と倫理的問題 ③母性看護の役割と課題について	講義

単位認定の方法

1. 30時間のうち、24時間以上の出席が必要である。
2. 試験100点満点で、60点以上を合格とする(グループ発表得点と終講試験を合わせる)。

受講上のアドバイス

ウィメンズヘルスケア論では、母性とは何かを幅広くとらえリプロダクティブヘルス／ライツについて理解し、生命の倫理問題についても考える機会とする。女性の一生を通じた、母性の健康の保持・増進を目ざした看護の実践を理解するため、思春期・成熟期・更年期・老年期という流れの中での健康維持のための保健指導、健康逸脱時の看護を考えていく。母性の統計や法律にも目を向け、広くとらえられる能力や知識、実践能力を身につけるためグループワークでの展開も取り入れ、社会の変化に応じた看護師の役割を学ぶ。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	履修時期	担当教師	実務経験
専門	70	マタニティライフケア論Ⅰ	1	30	2年次前期	専任教師 非常勤講師 院内講師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②（医学書院）
テキスト以外の教材、参考図書	新改訂　写真でわかる　母性看護技術アドバンス　インターメディカ 参考資料を適宜配布

学習のねらい　マタニティサイクルにおける妊娠期・分娩期の妊産婦及び家族の看護について理解し、妊産婦や胎児に必要な看護技術を習得し、妊産婦や胎児のアセスメントや保健指導、家族を含めた看護を学ぶ。
また、地域に暮らす子育て世代を支援するための看護の実際と連携を学ぶ。

学習目標　マタニティサイクルにおける母子の生理的変化と、その特性を理解し母子・夫・家族に対して必要な看護を学ぶ。

1. 妊娠期における生理的変化とその特性、胎児の発育について理解し、母親の身体的、精神的特徴を学ぶ。
2. 妊婦と胎児の健康の保持・増進のための、妊婦のセルフケア能力を高める援助について、保健指導及び分娩・育児への準備等具体的な内容を学ぶ。
3. 正常分娩の経過及び、それに伴う産婦の身体的変化と心理・社会的変化について理解し、安全・安楽な分娩の進行に向けたアセスメントと援助について理解する。
4. 分娩期の産婦・家族のニードについてアセスメントし、ニードの充足に向けた援助について理解する。
5. マタニティサイクルにおける妊娠期～子育て期までの「切れ目のない支援・連携」を学ぶ。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態　他
1回	妊娠期の看護の基礎 胎児の発育とその生理	1．妊娠とは妊娠の成立、妊娠期の定義 2．胎児の発育　胎児付属物（胎盤と羊水）	講義
2回	妊娠による妊婦と胎児の生理的変化・健康と生活	1．妊娠における生殖器の変化と全身的変化 2．妊娠における身体的・精神的・社会的変化 3．妊婦・胎児の身体的健康状態 食生活、服薬・嗜好品、排泄、清潔、運動・姿勢、休息・睡眠、衣生活、性生活、ストレス対処行動	講義
3回	妊婦と胎児のアセスメント（妊娠初期）	妊婦健康診査とアセスメント、妊娠の経過と診断 マイナートラブル	講義・GW
4回	妊婦と胎児のアセスメント（妊娠中期）	妊婦健康診査とアセスメント、妊娠の経過と診断 マイナートラブル	講義・GW
5回	妊婦と胎児のアセスメント（妊娠末期）	妊婦健康診査とアセスメント、妊娠の経過と診断 マイナートラブル	講義・GW
6回	妊婦への看護技術	産科的診察法、レオポルド触診法、 児心音の聴取方法・胎児心拍モニタリング	講義・演習

7回	妊婦と家族の看護	1．妊婦・胎児の健康と家族発達への支援 2．災害時の妊産婦と家族への支援 3．外国人妊産婦と家族への支援	講義・GW
8・9回	親になるための準備教育	1．妊婦の保健指導： プレママ・プレパパ教室・分娩準備教室 入院のための準備、　妊婦体操　産痛緩和　呼吸法 バースプラン、里帰り分娩 2．栄養管理と運動 3．親になる準備教育（出産・育児の準備）と家族の支援	講義・発表
10回	地域母性看護の実際 （妊娠期）	1 妊娠期：妊婦健診の訪問活動の実際 1）各期の母子のアセスメントや保健指導の実際と連携 2）妊婦と家族の生活と思いを支える看護師・助産師の役割 3）「親になる過程」の準備教育	講義
11回	分娩の経過について	1．定義 2．分娩の三要素（娩出力・産道・娩出物） 3．分娩の経過 4．分娩の経過と進行と産婦の身体的変化 5．分娩が胎児に及ぼす影響	講義
12回	分娩第Ⅰ期のアセスメントと看護	1．分娩第Ⅰ期の身体的・精神的ケア、基本的ニードの充足 2．家族の心理・社会的変化と看護の実際	講義・GW
13回	分娩第Ⅱ期～Ⅳ期のアセスメントと看護	1．分娩第Ⅱ期から分娩第Ⅳ期の身体的・精神的ケアの基本的ニードの充足 2．家族の心理・社会的変化と看護の実際	講義
14回	産婦への看護技術	1．分娩期のサポーティブケア　病室の環境 2．分娩監視装置・胎児付属物の観察・胎盤計測	講義・演習
15回	地域母性看護の実際 （分娩期）	地域での地域母性看護の実際 1．自宅分娩のサポーティブケアの実際と病院との連携 新しい家族を迎えるための家族役割・家族発達への関わり	講義

単位認定の方法

1. 30時間のうち、24時間以上の出席があること。

2. 終講試験：妊娠期の看護60点・保健指導点10点と分娩期の看護30点の100点満点で、60点以上を合格とし単位認定とする。

受講上のアドバイス

母性看護はマタニティサイクルにおける母児とその家族を対象とし、健康の維持・増進、疾病の予防と目的としている。妊娠期間を身体的・精神的に順調に過ごす事が、正常な分娩へと導く事ができる。そのためには、妊婦自身が身体の変化に応じて生活行動を変化させていくことが大切であり、食事、排泄、睡眠・休息、動作・運動、清潔、嗜好、性生活等の生活行動について、妊婦自身が状況に応じて対処していくセルフケア行動をアセスメントすることが大切である。また夫や親戚、祖父や祖母等支援する家族と共に、胎児を受容し分娩の喜びを分かち合うプロセス「親になる過程」を学ぶ。臨床において妊婦の保健指導や分娩時の支援を理解し、感動的な分娩に関われるよう学ぶ。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	履修時期	担当教師	実務経験
専門	71	マタニティライフケア論Ⅱ	1	30	２年次後期	専任教師 非常勤講師 院内講師	○

テキスト（発行所）	系統別看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学② （医学書院）
テキスト以外の教材、参考図書	新改訂　写真でわかる　母性看護技術アドバンス　インターメディカ 参考資料を適宜配布

学習のねらい　マタニティサイクルにおける産褥期及び胎児期から新生児期の母子の生理的変化とその特性を理解し、母親と新生児に必要な看護技術を習得し、アセスメント、や保健指導、新しい家族関係の再構築に向けた看護を学ぶ。また、地域に暮らす子育て世代を支援するための看護と連携を学ぶ。

学習目標

1. 産褥期の生理的な身体的・心理的・社会的変化について理解する。
2. 褥婦の退行性変化の身体機能の回復及び進行性変化への看護を理解する。
3. 母乳育児に関する基礎知識を理解し、乳房管理がわかる。
4. 育児技術を獲得し、児との関係確立への看護について理解する。
5. 新しい家族関係再構築に向けた看護について理解する。
6. マタニティサイクルにおける妊娠期～子育て期までの「切れ目のない支援・連携」を学ぶ。
7. 胎児から新生児への生理的変化、新生児の身体的特徴について理解し、 それに応じた看護を学ぶ。
8. 新生児の診断、発育の評価について学び、アセスメントに必要な情報、収集の技術、アセスメントの視点を理解する。
9. 新生児の医療事故について学び、医療安全に留意する。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態　他
１回	産褥期アセスメント	１．産褥の定義と身体的特徴 ２．産褥期の生理的な身体の変化 ３．産後復古に関する支援 退行性変化の観察　・子宮復古の阻害因子	講義
2回	産褥期のアセスメント	１．進行性変化 ２．乳房の観察・ケア ３．母乳育児と母乳育児支援　児の栄養 母乳育児成功のための10か条 ４．育児の知識と技術の獲得に向けた看護 児の健康管理・安全	講義

3回	褥婦と家族の看護	家族役割の獲得と家族発達へ向けた看護 １．褥婦の心理と社会的変化 ２．家族の心理的変化： 親子の愛着形成の支援、バースレビュー ３．家族の再構築に向けた看護 新しく家族を迎えた生活や思いを支え、「親になる過程」、「家族役割・家族発達」をサポートの実際 ４．被災者褥婦の心理と援助	講義・GW
4回	産褥期のアセスメントと看護	産褥期の健康と生活のアセスメントと看護 全身状態、子宮復古、分娩による損傷の状態、 食事と栄養、排泄、活動と休息、清潔	講義
5回	産褥期の看護	産褥期の母親と新生児に関わる基本的なケアと指導 事例を通して	講義・GW
6・7回	産褥期の看護と看護技術	産褥期の母親と新生児に関わる基本的なケアと指導 事例シミュレーション	演習 実習室
8回	新生児の生理	１．新生児の定義と特徴 ２．新生児の機能と生理的変化 呼吸　循環　体温　神経　運動器　感覚器　消化器 代謝　免疫　泌尿器　反射	講義
9回	新生児のアセスメント	早期新生児の健康・発育のアセスメント １．出生直後の評価　：アプガースコア、NCPR ２．身体計測と成熟度の評価 ３．新生児マススクリーニング ４．新生児の行動評価	講義
10回	新生児の看護	１．清潔 ２．保温 ３．栄養 ４．感染予防 ５．事故防止 ６．保育環境	講義
11回	新生児の健康と異常のアセスメント	１．先天異常 ２．早産・低出生体重児 ３．新生児一過性多呼吸 ４．呼吸窮迫症候群 ５．胎便吸引症候群 ６．高ビリルビン血症 ７．新生児ビタミンＫ欠乏 ８．低血糖症 ９．周産期医療システム：新生児搬送	講義
12回	新生児を迎えた家族生活の適応への看護	１．褥婦の心理・社会的変化　褥婦の心理・社会的変化 ２．家族の心理的変化 ３．家族役割の獲得と家族発達へ向けた看護	講義・GW
13・14回	新生児の看護技術	新生児に関わる基本的なケア １．赤ちゃんの抱き方 ２．新生児のバイタルサイン測定と全身観察	演習 実習室

		３．ドライテクニックと沐浴法	
15回	地域母性看護の実際 産褥期・育児期の看護の実際	地域母性看護における・産褥期・育児期の訪問看護の実際と連携 １．母乳相談、育児相談と保健指導の実際 ２．地域に暮らす母子とその家族の支援・連携	講義

単位認定の方法

1. マタニティライフケア論Ⅱとして、産褥期の看護と新生児期を合わせた30時間の中で24時間以上の出席があることとする。

2. マタニティライフケア論Ⅱ（産褥期の看護50点、新生児期の看護40点、保健指導点10点）は100点満点で、60点以上を合格とし単位認定とする。

受講上のアドバイス

マタニティサイクルにおける産褥期の経過と育児期を理解し、必要な看護を考える。産褥経過・育児環境等は様々で個別な看護が必要であるが、まずは基礎的知識を持ち、次に対象にとって必要な看護について考えられるように学びを深化させていく。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	履修時期	担当教師	実務経験
専門	72	周産期の疾患と看護	1	30	２年次後期	院内講師	○

テキスト（発行所）	系統別看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学② （医学書院）
テキスト以外の教材、参考図書	参考資料を適宜配布

学習のねらい　周産期における妊娠という生理的変化による正常な過程を理解し、ハイリスク妊娠、分娩、産褥の疾患・診断・治療を学ぶ。周産期における合併症を理解し、統合的にアセスメントして、母子とその家族の健康を支援する看護を学ぶ。

学習目標
1. 妊娠の診断、検査について理解する。
2. 妊娠期の異常、合併症について理解する。
3. ハイリスク妊娠、分娩の診断、治療について理解する。
4. 産科手術と分娩時の異常出血の診断、治療について理解する。
5. 妊娠期・分娩期・産褥期の異常やハイリスク妊娠・分娩についての看護を学ぶ。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態　他
１回	妊娠初期の診断、検査	１．妊娠診断　超音波検査 ２．妊娠初期検査　身体の変化 ３．出生前診断 ４．妊婦健診スケジュール	講義
2回	妊娠中期・末期の診断	１．妊婦健診　　妊娠中期・後期の検査 ２．胎児の健康状態の診断 （超音波断層法、ノンストレステスト）	講義
3回	ハイリスク妊娠	１．子宮外妊娠・多胎妊娠 ２．合併する全身疾患： 心疾患、糖代謝異常合併妊娠（GDM）、甲状腺疾患、 精神疾患、気管支喘息、SLE、腎・泌尿器疾患、 消化器疾患、血液疾患、婦人科疾患、不育症	講義
4回	妊娠期の感染症	１．母子感染症 ２．妊娠と薬物の影響	講義
5回	妊娠疾患	１．妊娠悪阻 ２．妊娠高血圧症候群・help症候群 ３．血液型不適合 ４．胎位異常・羊水量の異常	講義
6回	妊娠持続期間の異常	１．流産・早産・切迫早産 ２．常位胎盤早期剥離・前置胎盤 ３．子宮内胎児発育遅延 ４．胎児機能不全 ５．胎児モニタリング	講義

7回	異常分娩	1．　ハイリスク分娩 1）産道の異常：骨産道・軟産道の異常 2）娩出力の異常：過強陣痛・微弱陣痛・腹圧の異常 3）胎児の異常による分娩障害 4）胎児の付属物の異常： 胎盤・臍帯・卵膜・羊水の異常 2．分娩誘発・会陰切開・吸引分娩・鉗子分娩 骨盤位による産科処置	講義
8回	異常分娩	1.帝王切開術の分類・適応、母体におこる合併症 新生児に起こる合併症、帝王切開後の術後管理 2．周産期医療のシステム 母体搬送・チーム医療・周産期ネットワーク	講義・GW
9回	異常分娩	1．分娩時の損傷 2．分娩第3期・分娩直後の異常 3．分娩時異常出血： 羊水塞栓症・産科DIC・産科ショック 5．ハイリスクの産褥	講義・GW
10・11回	ハイリスク妊娠の看護	1．ハイリスク妊婦の看護 高年妊婦・若年妊婦、肥満妊婦、多胎妊婦、 生殖補助医療後の妊婦、切迫流早産の妊婦、 合併症を有する妊婦（心疾患・糖代謝異常合併妊娠・子宮筋腫）、 妊娠高血圧症候群妊婦、その他の問題を持つ妊婦	講義・GW
12・13回	分娩の異常と看護	1．異常のある産婦の看護 2．異常分娩時の産科の看護：帝王切開を受ける産婦の看護（帝王切開術前・中・後の看護） 3．分娩後の母体の急変対応	講義・GW
14・15回	産褥期の異常と看護	1．産褥期の異常と看護： 子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、 精神障害、尿路感染、異常のある褥婦の看護、 児を亡くした褥婦・家族の看護 2．メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援： 産後うつ病・産褥精神病	講義・GW

単位認定の方法

1. 30時間のうち、24時間以上の出席があることとする。時間配分は周産期の疾患18時間、周産期の看護10時間とする。

2. 周産期の疾患と看護の終講試験は、周産期の疾患60点、周産期の看護40点を合わせて100点満点で、60点以上を合格とし単位認定とする。

受講上のアドバイス

妊娠、分娩、産褥は正常に経過するのが本来ではあるが、急激に悪化し母親と胎児に影響することがある。常に健康診査を通して観察を怠ってはならない。正常経過を把握した上で、異常かどうかのアセスメンと対処方法を知り、母親と児の安全を守る看護を学ぶ。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	履修時期	担当教師	実務経験
専門	73	ウィメンズヘルスの疾患と看護	1	15	２年次後期	院内講師 専任教師	○

テキスト（発行所）	系統別看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学各論　母性看護学②・ 女性生殖器　成人看護学⑨（医学書院）
テキスト以外の教材、参考図書	参考資料を適宜配布

学習のねらい

人間の基本的な機能である生殖機能を理解し、ライフサイクル各期（思春期・成熟期・更年期・老年期）を通しての健康と疾患を理解する。また、生殖機能が障害された状態・検査・症状・治療・処置等について学び、人間の生活に及ぼす影響を考え、対象に応じた看護を学ぶ。

生殖機能が障害された状態・検査・症状・治療・処置等について学び、人間の生活に及ぼす影響を考える。

学習目標

1. 女性の生殖器の解剖と機能、疾患と病態生理について理解する。
2. 婦人科で行う診察・検査・処置・治療を学ぶ。
3. ライフサイクル各期の疾患と治療を理解し、各期の人間の生活への影響を考える
4. ライフサイクル各期を通して、性・生殖機能を理解し、健康を維持・増進するための看護を学ぶ。

学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態　他
１回	婦人科疾患	婦人科・内性器の解剖と機能 各種疾患の症状と病態生理 婦人科の治療・診察・検査	講義
2回	婦人科疾患と治療　（外陰部・膣の疾患）	性分化や発生異常 月経異常 外陰部・膣の疾患	講義
3回	婦人科疾患と治療 （子宮・卵巣の疾患）	子宮頸癌・子宮体癌 子宮筋腫・子宮内膜症 卵巣・卵管の疾患	講義
4回	婦人科疾患と治療 （性感染症他）	不妊症・不育症・性感染症・HIV 更年期障害	講義
5回	婦人科疾患の看護　１	婦人科疾患の看護	講義・GW
6回	乳房の疾患	乳癌・その他の疾患	講義
7回	乳房の疾患と看護	乳房の疾患の看護	講義・GW
8回 (45分)	婦人科疾患の看護　２	性・生殖の疾患を持つ女性の看護	GW

単位認定の方法

1. 15時間のうち、12時間以上の出席があることとする。時間配分は婦人科疾患と看護10時間、乳房の疾患と看護4時間、患者心理1時間とする。
2. 婦人科疾患は55点、婦人科疾患の看護15点、乳房の疾患20点・乳房の疾患と看護10点の100点満点で、60点以上を合格とし単位認定とする。

受講上のアドバイス

女性生殖器の疾患による身体的・心理的・社会的影響を理解し、倫理的な配慮の中での患者の看護について学ぶ。
＊注意事項：講師の都合により、シラバス上の講義の進行と時間割上の講義の進行がそろっていないため、注意すること。解剖生理を復習して講義に臨むこと。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	74	こころのセルフケア論	1	15	1年次後期	専任教師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院　eテキスト 系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院　eテキスト パーフェクト臨床実習ガイド　精神看護　照林社
副教材、参考図書	医療福祉総合ガイドブック　医学書院

学習のねらい

心の健康は、その人らしく生きることを支え、良好な人間関係や社会生活を送るための基盤をつくる。人の心の働きと生活との関連について知り、心の健康を保つためのよりよい生活とセルフケアについて学ぶ。

学習目標

１．心の機能や反応に目を向けながら心の働きを知り、生活に及ぼす影響について理解する。
２．精神の基礎的知識、理論的背景について学び、心の働きを理解する。

各回の主題、履修形態、準備物品

講義：8回（15時間）

学習内容：　心の機能と発達（精神と情緒の発達、自我、防衛機制、精神力動、転移感情、思考、記憶、感情）
危機（危機の概念、精神保健における３つの予防概念、ストレスと対処、認知）
生活行動と心の働き（脳の機能、神経伝達物質、睡眠と概日リズム、食欲、消化、自律神経）
精神の健康の定義

単位認定の方法

１．筆記試験、ワークシート、講義リフレクション、レポート課題を総合的に評価、点数化し、合計点が60点以上あること。
２．履修時間のうち、８０％以上の出席があること。
上記の１，２の要件を満たし、単位認定とする。

受講上のアドバイス

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	75	メンタルヘルス看護論	1	30	2 年次前期	専任教師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 e テキスト 系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院 e テキスト 系統看護学講座　別巻　精神保健福祉　医学書院 e テキスト パーフェクト臨床実習ガイド　精神看護　照林社
副教材、 参考図書	医療福祉総合ガイドブック　医学書院 メディックメディア　公衆衛生がみえる

学習のねらい

人々の生活を取り巻くメンタルヘルスと健康課題、社会における精神保健福祉の在り方を理解し、看護アセスメントと心の看護について学ぶ。

学習目標

１．ライフサイクルにおけるメンタルヘルスの諸問題を明らかにし、心の健康を維持・増進するためのケアと社会支援について学ぶ。

２．我が国の精神保健福祉の変遷、現状と精神障害者を取り巻く支援について学ぶ。

３．ケアワーカーのメンタルヘルスについて知り、人との関わり合いや支援のスキル、傾聴や共感、心のケアについて学ぶ。

４．こころの看護活動、リエゾンの理解を深め、精神看護の役割を学ぶ。

各回の主題、履修形態、準備物品

講義：15 回（30 時間）

学習内容： 精神の健康とマネジメント、ライフサイクルとこころ（子ども、働く人、高齢者、子育て、家族のこころの諸問題、集団特性、依存、ハラスメント、虐待、健康障害、災害）
精神保健医療福祉の改革ビジョンと社会資源の活用
リエゾン精神看護とセルフケア看護（リカバリとレジリエンス、ストレングス）
患者 - 看護師関係（看護理論、プロセスレコード、信頼関係と傾聴、共感、支持）

単位認定の方法

１．筆記試験、ワークシート、講義リフレクション、レポート課題を総合的に評価、点数化し、合計点が 60 点以上あること。

２．履修時間のうち、８０％以上の出席があること。

上記の１，２の要件を満たし、単位認定とする。

受講上のアドバイス

コロナ感染症流行時には、こころの変調も注目されました。こころの状態は、自分だけのものと思いがちですが、社会情勢や置かれている状況によって変調します。こころの置かれている状況を俯瞰し、周りにいる人と共有できることが、こころの健康を保つカギになることを、本科目で理解してほしいと思います。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	76	精神臨床看護論	1	30	2 年次後期	非常勤講師 専任教師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院 e テキスト 系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院 e テキスト
副教材、 参考図書	医療福祉総合ガイドブック　医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド　精神看護　照林社

学習のねらい

精神症状や疾患を抱える人々の施設や地域での生活支援、症状や治療を支える看護援助、対象者の自立や適応に向けた支援の実際や精神看護実践について学ぶ。

学習目標

１．精神疾患・治療を取り巻く環境と必要な支援や看護について理解する。

２．精神障害者の生活支援の実際から、精神疾患を抱えながら生きる人々の理解と看護の役割について考える。

３．精神看護の学びを通して、看護実践で大切にしたい自己の看護について考える。

各回の主題、履修形態、準備物品

講義：15 回（30 時間）

学習内容： 精神科病院における精神看護実践（主な精神疾患とセルフケアの援助、精神療法と看護、長期入院患者の退院支援、安全管理、患者の権利擁護）

地域における精神看護実践（精神科訪問看護、自立支援医療、社会資源の活用、困難事例と行政との連携、ストレングス）

社会復帰・社会参加への支援（社会資源の活用、就労支援、多職種連携、リカバリー）

単位認定の方法

１．筆記試験、ワークシート、講義リフレクション、レポート課題を総合的に評価、点数化し、合計点が 60 点以上あること。

２．履修時間のうち、８０％以上の出席があること。

上記の１，２の要件を満たし、単位認定とする。

受講上のアドバイス

精神疾患は国民の 5 大疾病のひとつとなり、身近な健康問題となりました。多くの疾患に対する治療とは異なり、精神疾患は、人との関わり合いや環境が治療的効果を生み出すなど、看護の力が大いに発揮されます。当事者のもつストレングスに着目し、レジリエンスを大切にします。目の前の困難にばかり着目せずに、中、長期的な視点で支援していくためには、福祉との連携も大事。今、社会で実践されているエキスパートの先生方の経験をもとに、実践力を高めていきましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	77	精神障害の理解	1	15	1年次後期	院内講師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学①　医学書院　eテキスト 系統看護学講座　専門Ⅱ　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院　eテキスト
副教材、 参考図書	医療福祉総合ガイドブック　医学書院 パーフェクト臨床実習ガイド　精神看護　照林社

学習のねらい

精神疾患や精神障害者の症状、障害の種類、特徴、その原因や経過および診断検査と治療・療法について、また、精神医療の在り方について理解する。

学習目標

１．精神症状や疾患の特性や、必要な治療・療法について理解する。
２．精神医療の変遷や社会や法との関連や医療の実際を理解する。

各回の主題、履修形態、準備物品

講義：8回（15時間）
学習内容：主な精神疾患・障害の特徴（症状性を含む器質性精神障害、精神作用物質使用による精神・行動の障害、統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害、気分障害、神経症、パーソナリティ障害、衝動性、知的障害、心理的発達の障害等）
精神医療（精神医療の変遷、疾患の診断、治療、療法、法と医療、精神保健指定医）

単位認定の方法

１．筆記試験（100点満点）の得点のうち、60点以上あること。
２．履修時間のうち、８０％以上の出席があること。
上記の１，２の要件を満たし、単位認定とする。

受講上のアドバイス

精神医学の歴史は長く、誤解や偏見と共に歩んできました。医学の進歩により、精神病が不治の病から脱却し、病と共に生活していけるようになりつつありますが、一方で、精神疾患は複雑で慎重な理解が求められるようになりました。一見、奇妙に思える病状の何が問題なのか、どのような診療が行われているのか、精神医学の視点で理解を深めてほしいと思います。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	78	災害看護学	1	30	３年次 前期	院内講師 専任教師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　災害看護学・国際看護学　（医学書院） こころのケアハンドブック　（日本赤十字社）
副教材 参考図書	災害看護－人間の生命を守る　黒田 裕子監修　（メディカ出版）

●科目のねらい

災害状況に応じた看護活動や避難所での看護の実際やこころのケアについて学び、災害の種類・経過や被災者特性に応じた災害看護を理解する。また、災害時における赤十字看護師の役割を理解し、災害看護の使命を担う自覚を持つ。

●学習目標

１．災害看護の基礎的知識・技術・態度を習得する。
２．国の災害対策と日本赤十字社の国内救護活動を理解する。
３．救護活動の実際を理解する。
４．災害時のこころのケアについて理解する。
５．災害時における赤十字看護師の役割を理解する。

●学習スケジュール

回数	主題	学習内容	履修形態、他
1 回	災害看護を学ぶ意義	１）近年の国内外の災害発生状況 ２）災害看護と通常の看護との違いと共通点 ３）災害時に求められる看護師の役割を考える	グループワーク 講義
2 回	災害看護の歴史と発展	１）過去の災害事例における課題 ２）災害体験から求められる看護の役割の拡大	グループワーク 講義
3 回	災害と健康障害	１）災害の種類と特徴（復習） ２）災害の種類と健康障害との関連 ３）災害サイクルと健康障害との関連	グループワーク 講義
4 回	国の災害対策と日本赤十字社の国内救護活動	１）国の災害対策（法律、災害医療体制） ２）日本赤十字社の国内救護活動 ３）救護員としての赤十字看護師教育	グループワーク 講義
5 回	災害状況に応じた看護活動	１）災害サイクルに応じた看護活動 ２）活動場所における看護活動の違い	グループワーク 講義

6 回	被災者特性に応じた災害看護	１）子どもと高齢者に対する災害看護 ２）妊産婦に対する災害看護 ３）障害者に対する災害看護 ４）精神障害者に対する災害看護 ５）慢性疾患患者に対する災害看護 ６）在留外国人に対する災害看護	グループワーク 講義
7 回 8 回	災害救護活動の実際と課題	講師が体験した熊本地震災害救護活動における実事例から災害看護を考える ・発災から出動まで ・チームビルディング、ミッションの共有 ・避難所活動 ・避難所救護所活動 ・活動終了から期間 ・帰還後の活動	
9 回 10 回	避難所の理解と災害者特性に応じた看護の実際	１）避難所生活の理解 ２）避難所生活と避難者の健康との関連 ３）避難者への看護	ミニ HUG（避難所運営ゲーム）
11 回	まとめ	１）災害時における赤十字看護師の役割 ２）役割を果たすために必要な能力を考える	グループワーク 講義
12 回 13 回	日本赤十字社　こころのケア	１）なぜ、こころのケアが必要なのか ２）こころのケアの対象 ３）こころのケアの活動の実際 ４）グリーフケア	講義 講師：こころのケア指導員
14 回 15 回	日本赤十字社　こころのケア	１）活動に対するこころの準備 ２）後方支援者としてのこころのケア ３）こころのケアの実際	講義 グループワーク ロールプレイ

●単位認定の方法

1. 出席について：30 時間のうち 24 時間以上の出席があること。
2. 評価の割合：以下の評価方法で 100 点満点中、60 点以上の得点があること。
（第 1 回～13 回：85 点、第 14 回・15 回：15 点）

３．１の条件を満たし、かつ終講試験が 60 点以上であること

●受講上のアドバイス

災害という危機的な状況を乗り越えるためには、決して個人の力だけではなく同じ目的に向かって様々な人と協働しながらワンチームにならなければなりません。そこで、本授業ではグループで考えることに時間を割き、チームワークについても考えてもらいたいと思います。

自分の意見も他者の意見も大事にしながら、グループワークを進めてもらうことを希望します。また、赤十字の一員として、国内だけでなく国外の健康問題にも関心を持つことを期待しています。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	79	国際看護学	1	15	３年次前期	非常勤講師	○

テキスト（発行所）	適宜、情報・資料等を提示する
教材、参考図書	堀内美由紀、岩佐真也、田代順子（2016）：ワークブック国際保健・看護基礎論（ピラールプレス） 日本国際看護学会（2020）：国際看護学入門 第 2 版（医学書院） 日本国際保健医療学会（2013）：国際保健医療学（杏林書院） 丸井英二、森口育子、李節子（2012）：国際看護・国際保健（弘文堂）

学習のねらい

日本及び国際社会に生じている諸問題について考えるほか、グルーバルヘルスの現状と課題、国際保健政策、国際看護活動、外国人患者への看護などを学ぶ。
世界の人びとの保健医療に関わる現状を理解するとともに、国内内問わず異文化理解が重要であることを理解し、国際力豊かな看護師として成長するための基礎を養う。

学習目標

1．国内外での国際活動をするための基礎的な方法を理解できる。
2．世界の保健医療の現状および健康問題と国際看護活動における看護職の役割について理解できる。
3．世界の多様性を考慮した看護実践について、自分の考えを述べることができる。

主題、履修形態、準備物品

回数	主題	学習内容	履修形態
1	世界の多様性、国際看護の概要	世界と日本の歴史、国際連合と国際政治について学ぶ。	講義 グループワーク
2	異文化理解と看護	異文化理解を深めるために必要な知識、理論について学ぶ。	講義

3	世界の動き（開発途上国と貧困）	先進国と途上国、途上国と貧困について考える。 アフリカの歴史、植民地政策について学ぶ。	講義 グループワーク
4	紛争、戦争と国際協力	近年の紛争、国際協力に関する基礎的知識を得る。	講義、DVD
5	在日外国人の看護と医療通訳	外国人看護、異文化看護、医療通訳について学ぶ。	講義、DVD
6	看護師の国際移動	看護師の国際移動という現象について学ぶ。	講義
7	ジェンダーと差別	当事者、ジェンダー、差別という概念について学ぶ。	講義
8	グローバル化時代の看護、国際看護ができることは何か	学んだ現代社会における諸問題を整理し、看護のあり方について考える。	講義 グループワークと発表

単位認定の方法

1．15 時間のうち、12 時間以上の出席があること
2．小テスト（40%）
3．課題レポート（60%）

受講上のアドバイス

普段からニュース、新聞に目を通すようにしてください。また、世界および日本の歴史、時事について関心をもち、看護を取り巻く世界情勢などについて客観的に理解する努力が必要です。そのうえで、国際看護に関わる多様な価値観に気づく視点と、お互いの違いを理解する柔軟な思考力をもつことが、国際看護を学ぶための重要なカギとなります。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門分野	80	臨床判断演習	1	30	3 年次後期	専任教師	○

テキスト（発行所）	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学[1]　看護学概論　（医学書院）
副教材、参考図書	できるナースの動き方がわかる多重課題クリアノート　（学研） 医療安全ワークブック　（医学書院）

学習のねらい

看護の思考をふまえて既習の知識・技術を統合的に活用し、臨床状況下に近い多重課題に対し、安全に看護できる力を培う。

学習目標

1．臨床で起こり得る複雑で多重な状況に対して、望ましい判断や行動の根拠をもち、看護実践に向けて準備促進できる。
2．看護・医療場面で起こる事故の要因、危険因子を明らかにし、自己の「リスク感性」を高め、事故予防対策が考えられる。
3．学習成果を通して見えてきた自己への気づきや傾向性に向き合い、看護の専門職者としての自己像を自覚できる。

各回の主題、履修形態

第 1～10 回・・・担当：峯松

主題：多重課題に対する臨床判断の演習

学習内容：複数患者に対して、以下の視点をもって看護および自己の行動を考える。

①時間観念の意識　②患者の優先順位　③安全・安楽
④アセスメント　⑤自己課題の明確化

1．複数の受け持ち患者に対して、必要な援助、実施の成り行き、具体的な行動をイメージし、一日の行動計画を立案する。
2．その場の状況に応じて優先度を考え、根拠にもとづいて行動の決定及び修正をする。
3．活発なディスカッションを心がけ、新たな学び、今後への課題を明確にする。

履修形態：演習、グループワーク、発表

第 11～15 回・・・担当：副島

主題：具体的な看護事故事例の分析と対応

学習内容：関連科目（医療概論）での学びを想起し、看護・医療場面で起こりうる事故事例について検証し、分析ツールなどを活用しながら分析し、事故予防の対策を検討する。

履修形態：講義、演習

単位認定の方法

１．30 時間のうち、80%以上の出席があること。

２．以下の評価方法で 100 点満点中、60 点以上であること

１）多重課題に対する臨床判断の演習（峯松）・・・70 点

ルーブリックをもとに、授業への参加度、提出課題の内容、演習後のレポート内容を評価する。

２）具体的な看護事故事例の分析と対応（副島）・・・30 点

授業内で行うリフレクションのセッションで用いるワークシートの内容を評価する。

３．上記１．２の条件を満たしたものは、臨床判断演習の単位を１単位取得できる。

受講上のアドバイス

カリキュラムの最終段階の科目です。

授業では臨床で起こるさまざまな状況での判断力や対応力について学びます。また、看護の専門職者としての思考や行動、社会人基礎力をふり返る機会とし、多重課題や予期せぬ状況に遭遇した際の自己の傾向性と対策を明確にしていきます。

看護学校で培った知識、技術、態度を統合して、主体的に取り組みましょう。

分野	科目番号	授業科目名	単位数	時間数	配当時期	担当者	実務経験
専門	81	看護マネジメント論	1	30	３年次前期	院内講師 専任教師	○

テキスト （発行所）	系統看護学講座　看護の統合と実践①　看護管理（医学書院）
教材、 参考図書	学習課題とクイズで学ぶ看護マネジメント入門　第２版　（日本看護協会出版会）

学習のねらい

看護におけるマネジメントの基礎を理解し、チーム医療における看護師の役割を果たすための基礎的能力を育む。

学習目標

1．看護管理の概念、マネジメントについて理解する。
2．看護マネジメントの具体的な視点について理解する。
3．キャリア開発について学び、自身のキャリア開発について展望が持てる。
4．専門職としての役割と責任について考えられる。

主題、履修形態、準備物品

1．看護マネジメントとは（看護マネジメントとは・サービスとは・質の評価等）
2．組織目的達成のためのマネジメント１（病院の組織構成・看護部門の組織構成・委員会・職位と服務規程・ライン、スタッフの考え方等）
3．組織目的達成のためのマネジメント２（看護師長の役割・リーダーシップとメンバーシップ・看護ケア提供システムなど）
4．目標管理（新人看護師教育時から始まる組織目標と自己目標管理）
5．看護ケアのマネジメント（看護業務・看護基準と看護手順・看護情報の標準化・クリニカルパス等）
6．病院組織における労務管理（労働時間・勤務体制・雇用形態・労働安全衛生・育児休暇・介護休暇・労使関係等）
7．感染管理１　（感染管理の組織化・感染への対策等）
8．感染管理２　（感染管理の視点から考える看護について）

９．安全管理１（安全管理体制整備と医療安全文化の醸成・医療事故レベルの分類・アクシデント、インシデントレポートの分析と活用・業務上の危険等）

10. 安全管理２（Team STEPPS・KYT トレーニング等のワーク）

11.（副島） 看護職のキャリアマネジメントⅠ（キャリアとは・ライフサイクルとキャリア・ワークライフバランス・ジェネラリストとスペシャリスト・キャリア開発ラダー等）

12.（副島）看護職のキャリアマネジメントⅡ（勤務と健康管理・ストレスマネジメントなど）

13・14.（高野）

看護職のキャリアマネジメントⅢ（臨床現場で働く看護職に自身のキャリア形成の軌跡について話してもらう・自身のキャリアプランを考える）

15. 看護政策と制度（看護行政の組織・診療報酬制度と看護ケアの対価・看護必要度など）

専門職としての看護組織（日本看護協会・日本看護連盟の活動など）

単位認定の方法

１．30 時間のうち、24 時間以上の出席があること

２．終講テスト 60 点以上で合格

受講上のアドバイス

看護の対象者となる人々に最も有効で良質な医療を提供するための「しくみ」について学び、自らが果たすべき役割について考えていきましょう。